UC-NRLF
$B 209 542

地340

乃木將軍手簡
牛門隱士著

○近世偉人百話

訂正五版

四六版全一冊

定價 金五十六錢
郵稅 金六錢

大町桂月先生批評（再版）

○四十七名士の四十七士觀

四六版　全一冊

定價 金五十六錢
郵稅 金六錢

德富蘇峰先生手簡
今井鐵嶺先生編

○卅六名士新時代の修養

四六版　全一冊

定價 金五十六錢
郵稅 金六錢

梅雪山人新著
川村畫伯表裝

○修養座右錄（三版）

袖珍美本

定價 金六十錢
郵稅 金六錢

世評一斑

英雄崇拜を以て青年を奮勵し蝕日の罪を償さしむる要は世に志す者の等しく認むる所なり本書は著者老熟の漢文的筆致を以て近代偉人の百話を寫せしもの蓋し青年の讀讀すべき良書なり

報知新聞評　二六新聞評　四鄉南洲、大久保、木戸、伊藤等の維新の元勳より乃木桂に至る百餘名の逸話を載す文章簡潔にして毫も冗漫の痕なく取材亦正確にして趣味津々たり、青年の好讀物たるべし

當代四十七名士が當年の四十七士に就いて感想を陳べたること既に文壇の奇觀なり大町桂月先生が其感想に向つて一々批評を下すに至りて奇愈々奇なり眼孔銳利筆勢奔放言々至誠に發して秋毫も枉ぐる所なく感歎諷戒熱罵冷笑交も〳〵出で、大義益々明かに四十七士の忠烈益々鐘く四十七士に關する著述として實に空前絕後何人も一讀して快哉を叫ばざるを得ざらむ

本書の講述者

大隈伯　渡邊子　加藤男　牧野男　尾崎行雄　河野廣中　元長博士　山岡中佐　林伯壽　澤男　重野博士　松岡康毅　目賀田男　宮部久松　村介石　鐵富蘇峰　穗積博士　澤柳政太郎　高楠博士　山路愛山　鐵田榮吉　梅博士　高瀨博士　佐藤少將　井上局長　平田內相　根津領事　二木博士　伊澤修二　能勢大審院　一江原榮六　古賀廉三　林田輸長　三宅博士　水野參事官

修養　處世　勉學　鍛錬　時勢に關して實驗より得來れる活智識を綱羅す

發兌　東京市日本橋區石町三丁目　至誠堂書店　振替東京四四七一

從來發刊せし修養の多くは千篇一律にして舊套を模倣せるに過ぎず隨て今日の生存競爭時代に應用する能はず獨り本書は世種の著書中にて新新に尤も奇拔の見地より現代青年の必須なる日常處世の心得大膽周到の態度經濟的觀念等智人の悟せる大達觀より痛快の斷案を下したる等用意周密一讀意氣伸暢するものにして卷末には名家座右訓を付したる處世訓を學び得らるゝもの天下に其比なかるべし

無限の新智識と貴重なる名家の

MADE IN JAPAN

皇后宮御歌土方伯爵題書
宮中御歌所主事坂正臣先生題字
東京鱗祥院什寶寫眞數葉入
○第壹篇家庭讀本 **春日局**
碧瑠璃園著
川村藤伯裝幀
（紙數四百餘頁 菊版特製美本）
定價金壹拾貳錢 郵稅金壹錢

將軍の乳人として上りたる前後の事情は從來の小說傳記にも記されたる如く幼時の艱難稱葉佐渡守を良人とせる事情三人の實母として局の繼子との間に挿まりて苦辛艱難せる局に至りては未だ何人の筆にも上りたる事なし著者茲に見る處ありて局の幼時中年時を詳記し延て晩年時に及ぶ筆致圓熟事情明白家庭の讀物として最も趣味と教訓とに富むものの也

春日局は千代田城大奥の創始者として又大奥政治の開發者也局が三代

○第貳篇家庭讀本 **大石陸女**
碧瑠璃園著
川村清雄畫伯裝幀
紙數四百餘頁 菊版上製美本
定價金壹拾貳錢 郵稅金壹錢

義士快擧の裏面史として見る可きものは本書あるのみ夫れ陸女は絶世の忠臣良雄の妻として夫以上の辛酸を嘗めて其事業を成就せしめし者著者燃犀なる眼は早く此點に着眼してよく烈婦が一代の事蹟を縱横に描寫す以て永く婦人の龜鑑とするに足る好小說なり

小松原文部大臣閣下題字
饗笠翁著
齋藤畫伯裝幀
○小偉人說 **水戸光圀**
菊版特製全一册
定價金壹拾貳錢 郵稅金壹錢

光圀卿は德川時代有數の偉人にして勤王家也著者は馬琴の別號たる笠翁を自稱せる當代有數の文學家の匿名也其流麗なる詞藻と高雅なる對話との間に知らず識らず光圀卿の人格事蹟を了解せしめて千載の下尙此偉人を偲びて尊ぶの情に堪へざるものあり本書の特色は其高潔にして健全なる趣味の流露に存すれば家庭の讀物としては勿論廣く社會青年男女の讀物として良く教訓と趣味とを感得せしむる事他に比なし

大町桂月先生序原
玆朔先生著
○**蒲生氏郷**
四六判 全一册
定價金四拾六錢 郵稅金壹錢

大町桂月氏序して曰く「才氣縱橫逸氣奔放覺えず人をして氣昂り情熱せしむ」と著者が滿腔の磊塊蒲生氏郷なる一英雄を執へ來りて縱橫論評文辭燦爛として痛快を極む偉人若くは偉人たらん者は必ず此書に啐喙して其翻山倒海の手腕を伸ぶるを要す

發兌 東京市日本橋區 東京石町三丁目 至誠堂書店 振替東京 一四七

小松原文部大臣閣下題字
樂翁公眞筆（五版）

○天覽 白河樂翁 前編

齋藤松州君
碧瑠璃園著　川村清雄君裝幀

定價 金壹拾圓　郵稅 金貳錢

世評一斑

東京朝日曰く、儉約、力行、慈悲、正義の權化たるかを疑はしむる樂翁公生涯の面目は神彩ある筆端に奕々として現はる家庭の讀物として生ける教訓を與ふべく其の華胄の人たりしために華族の子弟に讀ませて大なる感化あるべし裝釘の麗美なる事近來の隨一也

讀賣曰く、家庭に於ける歷史的讀物として上乘の第一なるべし

平田內務大臣閣下題字
樂翁公靈筆（再版）

○天覽 白河樂翁 後編

齋藤松洲君
碧瑠璃園著　川村清雄君裝幀

定價 金壹圓　郵稅 金貳錢

世評一斑

實業之世界評：裝幀の美を以て出版界を驚かしたる忠孝小說幾書白河樂翁：：前編後編と併せて社會の歡迎を受くる事疑なし現時の文壇一方に平民文學興起の傾向あれば一方に斯くの如き貴族的權力者の文學漸く流なさんとす注目すべき現象と云ふ可し△新小說曰く家庭に於ける婦女の圖樂にも男子が一夕の讀物としても吾人は如是の小說を大方に薦む

前宮內大臣土方久元伯題字
樞密顧問官黑田清綱子題字

○史傳小說 高山彥九郎（前編）

碧瑠璃園著川村雄伯裝幀（後編）

定價 各金壹圓　郵稅 各金八錢

王政復古の主唱者亦忠孝節義の權化なる高山彥九郎が一代の事業、人格、勤王の眞面目は現代第一流の史傳小說家碧瑠璃園先生が獨特の妙筆に依りて活躍す、もし夫れ彼が最後の悲劇に亞りては讀むもの必ず肉動き靈戰くの概あらん

番茶浪人著　堀田半古畵伯口繪
齋藤松州畵伯裝幀

○史傳小說 後藤又兵衛

藥判特製紙數四百五十餘頁

定價 金壹十圓　郵稅 金二錢

一代の豪華を極めし桃山の榮は夢の如く消えて天下盡く其舊恩を捨てて强者たる關東の旗下に阿諛するの時其の最後の結果を豫期しつゝも嗣者たる豐家を佐けて士道に殉じたる後藤又兵衛が千變萬化其半生の大活劇は捕へて本書中にあり爽快絕情夫をして起たしむ

發兌　東京市本石町日本橋三丁目　至誠堂書店　撮替東京一七四四

蘆川忠雄先生著

○修養と人物

菊版特製　全一冊

定價金壹拾圓　郵稅金壹錢

是れ著者獨特の人物養成論也修養を積むで怠らずんば何人も有爲の人物たるに至るべしとの見地よりして現今青年の尤も要求する所を擧げ或は其欠陷とせる所に突進して之を敎示し精神的飢渴を滿たしめ其明快の筆法を以て縱橫無盡に論破せられするものにして全篇雄大豪宕の氣滿ち一讀痛快淋漓の感に堪へず苟も處世修養と人物の六感に志ある青年諸君は本書に就て斬新有益の智識を享受されよ

蘆川忠雄先生著

○勤儉の實踐

菊判　全一冊

定價金壹拾六錢　郵稅金五錢

奢侈輕佻の風一世を風靡し人々虛榮に耽り上下競うて此惡弊に今代社會の一大欽陷にあらず著者深く之を慨し其痛快大の筆を揮つて愼重の態度を以て世人に一大警告を與ふ其勤儉を說き貯蓄を唱ふ見識は世上の陳腐なる勤儉論とは全然選を異にし最も文明的切の見地より之を道破して一々取つて之を實行の念勃々として起るは奢侈浪費の徒も驚然として其非を悔ひ勤儉の美徳を熟讀玩味するに至るべし

蘆川忠雄先生著

○時間の經濟

菊判　全一冊

定價金壹拾六錢　郵稅金五錢

文明の進歩と社會の發達に從ひ生存競爭は益々激甚となり其生存競爭の最大根柢となるは金錢と時間の二者也世人金錢に重きを置くは之に注意するあるは金錢なり雖も時間の經濟に至りては其重大なるを知りながらも之を米だ少なりとせず故に時間の經濟に至りては其重大なるを知りながらも之を實踐する者少なく其明快密切なる頭腦より歐米最近の傾向に基き巧妙適切なる時間經濟の說述を實踐する者少なく其明快密切なる頭腦より歐米最近の傾向に基き巧妙適切なる時間經濟の說述を詳細に之を說き活用して競爭場に立んとする本書は其精確機敏の智識を求めざる可からず

公爵山縣有朋閣下題字
伯爵東久世通禧閣下序文
牛門隱士中川克一先生著

○山陽外史

特製上製　郵稅定價金八十錢　郵稅定價金五十錢

頼山陽は勤王の權化にして日本外史は討幕の檄文なりと然るに世人山陽を貶し外史を議するものあり是れ文本の出づる所以なり隱士銳利の筆鋒明快の論旨を發揮し雲霧疑ぐ士を排し決し日月を仰ぐ豪山觀に目を特に外史の如き眞面目あり能く先人の未發の邪曲を直し別に一家を啓する所を知り近來の快著也

發兌　東京本石市町日本橋區三丁目　至誠堂書店　振替東京四四七一

蘆川忠雄先生補譯

○交際規範 なかれ

袖珍美本 ダイヤモンド

定價 金一圓 郵稅 金十錢

「なかれ」は日常交際に慣れたれば此の書を伴せは交際上の失敗を避くべし

「なかれ」は大人が讀んでも有益なるのみならず青年學生及婦女子が讀んでも缺くべからざる教訓を學ぶべきまで疑なし

「なかれ」は洋食の食方洋服着用の注意交際談話法に至るまで斬新なる二十世紀のスタイルを欲する紳士淑女に必要なる作法品性風采を說くが故に最新文明の紳士淑女の差は「なかれ」を讀と否とにて定るなり

「なかれ」は日新流行の作法を凝らせるポケット携帶の袖珍美本にて計り難し

蘆川忠雄先生著

○交際と應對

菊版上製 全一冊

定價 金五十錢 郵稅 金六錢

學問技倆共に勝れながら處世上失敗するは交際應對の拙劣に因るのみ

本書は著者が多年の實驗に徹して諸君の青年のために交際應對の根本を提へて頓才を發揮する工夫人情に投ずる心の奏示人情細に說明せるもの道等十五章快活にして此一冊を熟讀せば他人の感情を害して特に分て失敗する人の心を看破せば交際を應對とせるに於て失敗する者は必ず再讀すべしなきが故に以て活用せば成功者たらん者は必ず再讀すべし

蘆川忠雄先生著

○談話術修養

菊版特製 全一冊

定價 金拾貳錢 郵稅 金壹錢

本書は著者獨特の創見に基き其輕妙流暢なる才筆を呵して談話に關する有ゆる注意及び談話術の要訣を明說せるものにして加ふるに著者の博學多識なる歐米最新の斯術の話を加へ折衷し錦上花を添へと見做し成敗所流行なる規範の基本なる談話に關する考究の完備を計るは却て尤も大事なる知るべしと本書は此一卷を活用するに因りて必ず期すべきなり

内容概目

第一信 品性の偉大なる勢力、第二帝國の修養、第三日常談話の要訣、第四書簡の認め方、第五筆蹟の放、第六誠の死活、第七儀容の整理、第八世態人情の機微、第九圓熟の作法、第十奮生活の効果、第十一樂天思想の眞價、第十二休養、第十三國語學研究の活法、第十四處世の眞髓、第十五健全なる意志の修養、第十六人生の幸福に達する道

蘆川忠雄先生補譯 菊版 絹クロース美裝

○父の書簡

愛子嬢養

川村鶴伯 裏裝裝幀

定價 金一圓十錢 郵稅 金二錢

發兌 東京市本石町日本橋區三丁目 至誠堂書店 振替東京 七一四四

内務省地方局長床次竹二郎先生述

○歐米小感

四六判　特製

定價金七拾錢　郵稅金八錢

本書は列國文明の源泉たる信念と信仰心とに着目して我邦同胞の頭上に最も適切なる警策を加へたるもの讀一讀必ず啓發する所多かるべし

世評　徳富蘇峰氏評に曰く觀察は更に空谷跫音の感あり
山路愛山氏曰く我等は一々首肯し同感して卒讀す田尻男の文章と共に役人著述中の双璧とすべし（其他好評續出）

陸軍大學教授友田宜剛先生著

○中等教育作文自習寶鑑

四六版總クロース紙數六百餘頁

定價金一圓二十錢　郵稅金八錢

作文の友田先生は研究のために粉骨碎身す宜なり十年の研鑽天下に其光芒を放てると本書は先生が特に熱血を濺がれたるの傑作なり着想新奇拔群實用趣味高雅第一編普通文第三編簡文四編文法要略第五編美辭一瑳第六編韻文及び驚頭等何れも先生が綴密なる頭腦と丁寧懇切なる實驗教育の結果より得來る苦心精細なる文章作法十萬の學生諸君が自習資料たるのみならず實に滿天下諸作文の寶鑑なり

文學博士細川潤次郎閣下題詞
男爵濱野知三郎先生編

○ポケット大學中庸註釋

附載　王陽明古本學庸索引
學庸注釋目次

定價金五十五錢　郵稅金六錢　三價金五十五錢　郵稅金六錢

◎讀賣新聞評　ポケット論語の流行は今や殆んど其の絶頂に達す然かも孔子の道を知らんと欲するものは尚「大學」の門より入りて「中庸」の奥を極めざるを可らず著者此に見る所あり曩にポケット論語を著したるに倣ひ今又學庸二書を取りて原文並に其讀方釋義を揭げ上欄に於ては別に字義參照等を載せ更に五十音順に依り詳細なる索引及び大學の部に王陽明の定本に係れる古本大學を付したる等頗る用意の周到を見る古文の研究が人格の修養には大に功あるは云ふに及ばず常に足る書を懷中にせば必ずや過ちを少なうするを得んか是等の

和田垣博士戲著
川村書伯艸書

○處世訓話　餅

袖珍美本

定價廿五錢　郵稅四錢

中外英字新聞評語

腹ふくらす所の所謂餅の餅にあらざる（モチ）の種類各種を（長持）にも納め切れぬ程澤山（モチ）出したる處先づ讀者の庭胸を拔くそれより人生最大の要點なる氣持心持を論じ心は不可思議なるものとの題下に此驚妙不思議なる心の作用を說く小冊子ながら滑稽諧謔の裡に含蓄する眞理教訓は他の萬卷の修身訓話に優る

發兌　東京市本石町日本橋區日本町三丁目　至誠堂書店　振替東京四四七一

帝國大學教授法學博士
和田垣謙三先生著

○青年諸君

（增訂改版）四六判特製

定價金一圓八錢　郵價金八錢

帝國大學教授法學博士
和田垣謙三先生著

○世界商業史要

菊判總クロース特製

定價金一圓十二錢　郵價金十二錢

皇孫殿下上覽の光榮を賜ふ
和田垣博士中谷無涯兩先生著

○戊申詔書奉體歌

東京音學會
東儀鐵笛先生作曲

訂正八版

定價金五十錢　郵價金五錢

和田垣博士戲著
川村蕉伯艸畫

○處世訓話餅

（三版）

定價金五十錢　郵價金四錢

世評一斑

國民新聞曰く著者の滑稽と妙文とは世の知る所：：口を衝いて出る滑稽の圓轉滑脫と智識の該博にして論旨の達表に出る處殆んど敵手無し奇書の一と云ふに憚らず▲中外英字新聞曰く：：樂天家にも厭世家にも均しく好伴侶として歡迎せらるべきを信ず思想の豐富なると活氣の橫溢せるとに於て博士の文は確かに當代に冠絕す

本書は太古以來三千年に亘れる世界商業の盛衰を叙し最近英米獨の諸邦綱を太平洋上に爭ふの壯觀に及ぶ惟ふに商業史は一面に於て文明史也政治史也古今列國興亡の跡を訪ね世界通商の發達を叙するに於て博引旁證叙事明快本書は博士が獨壇の勝場を示して餘蘊なし本書は公私商業學校學生の好參考書たるのみならず苟くも世界の大勢に通せんと欲する者に取りては必携必讀の書なり

明治四十年十二月十日定文部省檢濟

此唱歌は戊申詔書の聖旨を奉體して分り易く曲面白く小學生徒の方々の諷誦に供せんとするもの、朝な夕なに口吟まれなば、長き御心の程推し奉られて限りなき聖德に浴するの思あるべし萬民必讀の國民的唱歌として江湖の諸賢に薦む

部數取纏め御注文の節は割引可仕候

中外英字新聞評語

腹ふくらす所の所謂餅の餅にあらざる（モチ）の種類各種を（長持）にも納め切れぬ程澤山（モチ）出したる處先づ讀者の度胸を拔くそれより人生最大の要點なる無持心持を論じ心は不可思議なるものとの題下に此靈妙不思議なる心の作用を說く小册子ながら滑稽諧謔の裡に含蓄する眞理數訓は他の萬卷の修身訓話に優る

發兌　東京市日本橋區石町三丁目　至誠堂書店　振替東京四四一七

新譯漢文叢書十二編十三編

久保天隨先生譯補
新譯 演義三國志
縮刷全二冊
上卷 壹千壹百頁
下卷 壹千頁

上郵 下稅 正價 各 各 金壹圓 金壹圓 貳拾錢 貳拾錢

新譯漢文叢書十四編十五編

大町桂月先生譯評
新譯 唐宋八家文
全三十卷 縮刷全二冊
精珍天全特製
箱入携帶至便

近刊

▲支那小說中の隨一▼

三國誌は支那小說の隨一たり蜀魏吭天下を三分し一代の英俊豪傑亦玆に集り智を爭ひ勇を鬪はす實に天下戰亂の一大奇局たり支那文學に造詣深き天隨先生新に流暢なる快筆を揮ひ險澁なる原書を譯して面目を一新す卷を繙けば孌鄰として刀戟相摩ずるの聲を聞くが如く光焰萬丈血躍り腕鳴る必ずや案を拍つて起たん

▲軍國男子必讀の快著▼

漢文の精粹は鍾まりて唐宋八家に在り文章の諸體も亦八家に具備す文章軌範を讀みて八家文を讀まざる者は門に及んで未だ堂に上らざる者なり殊に我國の寛政の三博士以來頼山陽を始めとし漢文を草する者天下靡然として則を八家に取り以て明治の世に及べり當代の文章界の木鐸たる大町桂月先生今玆に之を譯し一々註解し內外先哲の批評をも採錄し且つ一文毎に先生獨得の批評を加へ文章の妙を發揮して餘蘊なし漢學に志す者は言ふも更なり苟くも文章に達せんと欲する者は本書を讀まざるべけんや

發兌 東京日本橋區石町三丁目 至誠堂 振替東京四七一

新譯漢文叢書第九編拾編

久保天隨先生譯補
上下全二冊
新譯
水滸全傳
精珍クロース
天金箱入美本

上下各壹圓
正價各壹圓
送料各金貳拾錢
郵價金壹拾錢

水滸傳は實に支那小說中の隨一たり唯憾むらくは未だ好譯本を得ず坊間流布の書は馬琴僅に筆を十一回に絕ちて十中の九は高井蘭山が岡島冠山舊譯の錯誤脫漏を踏襲せるのみ豈日本文壇の一大恥辱に非ずや我天隨先生深く之を慨し拮据數年茲に譯本新に成る先生が支那小說に造詣深きは世既に定評あり其譯文の妥當にして流麗暢達なる固より辯を俟たず波瀾萬丈骨鳴り血湧くの快文字は本書に依り其眞骨頭を傳ふるを得ん

新譯漢文叢書第拾編

大町桂月先生譯解
全拾冊
縮刷全壹冊
新譯
論語
精珍クロース
天金箱入美本

定價金壹圓
郵稅金拾錢

孔子は世界三聖の一也論語は孔子の遺訓也東洋思想の本系也日本道德の教典也論語を解せずば東洋を解すべからず論語我國に入りて既に二千年我國民は能く之を咀嚼し之を活用せり孔子の教は本國に行はれずして却つて日本に行はれたる觀あり然るに世には所謂(論語讀みの論語知らず)なる者少なからず道德の根蔕に古今なし唯風俗人情時勢の異動を察して論語の眞意を解するに非ざれば折角の經典も死物となり害物となる論語を解くには活眼を要す大町桂月先生心血を濺ぐこと二年有半絕代の快筆を揮ひて活眼を以て活書を心解し茲に新譯論語成る譯するのみならず之を詳解せり先生の眼識筆力相俟ちて三千年來の經典新に明治の世に活躍す

發兌　至誠堂
東京日本橋區石町三丁目
振替東京四一四七

新譯漢文書第七編

友田豆剛先生評解

新譯評解 續文章軌範

全七冊 縮刷 全壹冊

本文新式ゴシック漢字 袖珍三五形 携帶至便

正價 郵稅 金壹圓 金八錢

續文章軌範は、正文軌範と相待ちて、古今作文書の雙璧、古人が心血を濺ぎたる千古の名文、隨離として光彩を放てり。文に志す者は必ず之を坐右に致して日夕に師とし友とすべし。作文教授の泰斗友田豆剛先生は、刻苦研鑽多年の螢雪を積みて之を完全なる明治の作文模範化せられたり。今其特長を一言せんか從來漢文讀方通弊たる文法の誤りに深く注意し本文は新式ゴジック振假名付にして難解の字には懇切なる解釋を施し各文の始めには作者の略傳を附し篇末には文法と論評と相俟つて和漢の文典東西の修辭法より切實に作文法を教へ、上欄には原文を掲げて對讀に便ず。要するに文章界は本書を得て更に五百燭光を掲げたり。正續彼此相侍つ日月を並べ懸けたるが如し。冀はくは江湖の諸彥一書を坐右に備へ給へ。

夢譯漢文書第八編

新譯 國史略

大町桂月先生譯評

全五冊 縮刷 全壹冊

袖珍總クロース 天金 箱入美本

正價 郵稅 金壹圓 金八錢 金拾錢

萬世一系の天皇を戴ける神州に生れながら神州の尊き所以を知らず三千年金甌無缺の歷史の實質を知らず人心輕兆となり浮華となり尊王愛國の精神失せて士氣銷磨せむとするは今の世の大患なり世の歷史教科書は唯歷史の骨組のみありて肉なし血なし歷史教育の宜しきを得ざる其大原因ならずんばあらず大町桂月先生鼓に慨する所ありて先に日本外史日本政記日本樂府を譯され今又國史略を譯さる國史略は古來の諸國史の粹を拔要きを取り日本全史として最も國民的なること既に定評あり肇を開闢に創めて篇を秦樂第村幸に結びたるにても作者の精神を諒とするに足る二十年前迄は戸々に聽せられたるにも拘らず漢學教育衰へて此の名著も空しく閑却されんとす今大町先生之を譯し之を解し之を評して有益なる貴重なる國史略茲に復活す

發兌 東京市本石町 至誠堂 振替東京四四一七

新譯漢文叢書第五編

大町桂月先生譯評

新譯 日本政記

袖珍總クロース
天金箱入美本

正價金八拾錢
郵稅金六錢

頼山陽前に日本外史を著して武門の興廢を説き、後に日本政記を著して朝廷施政の大綱を明にせり。先輩頗疑を極めたる南北朝閏頽の如きも、其が八十年前政記に於て既に解決したる所にして、兼て維新の一大原動力となりたる所なり。殊に政記は翁が死に至る迄も手刪して止まざりしものにして、翁が尊王愛國の精神の形見なり。識見正大、文章雄健、光焔陸離として、實に史界の一大偉觀なり。然るに從來世に行はれたる政記の板本は校訂粗漏にして誤謬甚だ多し。大町桂月先生玆に之を註釋せられ、一々精密に誤謬を正し、難解の語句に解釋を施し、振假名を付し、先生獨得の痛快なる評釋を所々に加へて筆力縱横、熱血筆端に迸り、翁と先生との氣骨相俟つて紙上に活躍し、錦上更に花を添ふるの觀あり。日本政記の面目爲に一新す。日本國民必ず一本を備へざるべからず。

新譯漢文叢書第六編

久保天隨先生譯評

新譯 十八史略

袖珍總クロース
天金箱入美本

正價金八拾錢
郵稅金六錢

上下五千年、興亡八十餘朝・この間治亂成敗の跡、必ず其始終を書にし、紀述その要を得、簡明切當、評論に價なるものを十八史略となす。その評、從來世に行はれ、今に至りて廢せざるもの、豈に偶然ならむや。本書は、譯者が特に意を用ゐて、之を時文に翻譯せしものにして、現代國語の文法に循從し、且つ漢文に特殊なる語勢の緩急を併せ移し、難解の字句には、すべて注脚を施したれば、讀者は、熟路に就いて輕車を驅るが如く、容易に全篇を通覽するを得べく、卷中に挿入せし數百條の評語は、奇警峭拔、その史實と相待つて、覺えず案を拍つて快哉を呼ばしむ。加之、篇首には、精細なる解題を載せ、卷末には便利なる新式の索引を添ふ。されば、この書を讀むもの、一は以て容易に東亞ツラン人種の起伏消長を審にするを得べく、一は以て漢籍攻究の指針となすべく、その裨益、もとより少々ならず。敢て江湖の一讀を勸む。

發兌 東京市日本橋區本石町三丁目 至誠堂書店 振替東京四四七一

新譯漢文叢書第三編

濱野知三郎先生註譯

新譯 孟子

附索引

本文新式ゴツック活字
袖珍三五形携帶至便

定價 金九拾錢
郵稅 金八錢

◎讀賣新聞評　孟子の全文を和譯して之に註解を附し上欄に其本文を掲げ卷末に五十音に基く索引を添へ書中の一語を知る時は直ちに其全文を求め得るの便に供したり其和譯の正當なる註釋の穩健にして平易なる殊に孟子の書は其議論の奇拔なる其文章の雄健簡潔なるは支那文學中推して第一位に置くべき者背年子弟の讀物として最も現代に適切の者就中著者の苦心と見るべきは索引の編纂と排列とに力を用ゐ此國民修養の一大格言集より隨意に欲する處の語句を索出し得るは何よりの愉快と

◎やまと新聞評　其文章は質に奔放自由を極めいつまでも生氣の潑溂たる不朽の天品世界の大文學書である……國本經牢と

新譯漢文叢書第四編

大町桂月先生譯

新譯 日本樂府

本文新式ゴツック活字
袖珍三五形携帶至便

定價 金五拾錢
郵稅 金六錢

當代に異彩を放てる大町桂月先生嚮きに日本外史を譯せられ、今又賴山陽の咏史日本樂府を譯するのみならず、之を譯し之を評せらる徹底の見、老熟の筆明快を極めて、渾然として桂月一流の名文となり、朗々誦すべく尊王の詩人、又愛國の詩人として古今に獨步せる、賴翁の氣魄と筆致とを躍動せしむ以て日本歷史を知るべく、以て士氣を皷舞すべし。日本男兒之を讀まば必ず案を拍つて起たん

發兌　東京本石町日本橋三丁目　至誠堂書店　振替東京四七一四

新譯漢文叢書第壹編

大町桂月先生譯評

新譯

日本外史

袖珍三五形美本
定價金一圓五十錢

特價 金壹圓貳拾錢
小包料金八錢

本書は近世の偉人超代の文豪賴山陽が一生の心血の凝る所識見卓拔筆力雄麗古英雄一々紙裏に生動し干戈の聲恍として机上に起る成敗の跡火を睹るが如く大義爲めに明かに天下の士氣爲めに振ふ實に東西無類の散文叙事詩なり現代の文豪大町桂月先生拮据三年之を今の文に移し難解の字には解釋を附し治亂興亡の因る所を尊れて奇拔精決の批評を加ふること數百條山陽が當時を憚りて冒ひ得ざりしことまで遺憾なく闡はされて桂月先生獨得の妙を極む觀殊に奇一讀人をして血躍り腕鳴らしむ以て歷史を知るべく以て士氣を勵ますべく以て文學を味ふべし天下有爲の士此書を閑却して自から實を捨つる勿れ

新譯漢文叢書第貳編

陸軍教授
友田宜剛先生評解

新譯

文章軌範

本文新式ゴシック活字
袖珍三五形携帶至便

正價 金壹圓拾錢
小包料金八錢

作文に志す人は必ず文章軌範を讀まざるべからず明治作文教授の泰斗友田宜剛先生が十年の心血を濺ぎたる研鑽の光輝爛として新譯評解文章軌範は世に出でたり其の譯其の解其の評最も斬新最も適切優に明治文章の模範化したる點に於ては比類無き無限の光榮を擔へり今其の特長を一言せんか㊀從來の漢文讀みの通弊たる文法の誤りに深く注意し假名一字をも疎略にせず本文を離れずして而も純粹の明治の文章化せしめたる事其一也㊁各文の始めに作者の略傳解題大意等を附し讀者をして興味津々喜んで迎へしむること其也㊂各節各段に一題大意を附し難語を解せしめ殊に通解は口語文及び談戀切なる語釋通解文法を附し文法は各篇末に附したる總評と相俟つて和漢の話演說の模範たらしめ文法の修辭法により切實に作文法を敎へたる事の四也㊃更に上文典東西の構に揭げて齊讀に便じ且之れにも古賢の興味深き評語を網羅し讀者の趣味を喚起す事其五也㊄以上の特色を具備する本書は蓋し類書中の白眉と云ふ可し

發兌 東京市日本橋區三丁目 東京本石町 至誠堂書店 振替東京四七一

大町桂月先生校訂解題

學生文庫

袖珍特製
舶來紙刷
携帶至便

全四十五冊
定價各冊錢
郵稅各四錢

既刊書目

1 南朝史傳 全
2 日本外史 上
3 益軒十訓 上
4 謠曲全集 上
5 會我物語 全
6 西遊記 上
7 源平盛衰記 壹
8 太平記 壹
9 心學道話 全
10 常山紀談 上
11 日本外史 中
12 益軒十訓 中
13 先哲叢談 全
14 義經記 全
15 一休諸國物語 全
16 常山紀談 中
17 益軒十訓 下
18 源平盛衰記 貳
19 謠曲全集 中
20 西遊記 下
21 百人一首一夕話 全
22 狂言記 全
23 太閤記 壹
24 大岡政談 上
25 日本外史 下
26 續心學道話 全
27 禪學名著集 全
28 四書 全
29 常山紀談 下
30 源平盛衰記 參
31 太閤記 貳
32 源平盛衰記 四
33 太平記 貳
34 源平盛衰記 五
35 太閤記 參
36 謠曲全集 下
37 太閤記 四
38 太平記 三
39 太閤記 五
40 太平記 四
41 太平記 終
以下着手中

●周到卓拔なる批評的解題は各書の性質綱要價値を詳說す

東京市日本橋區本石町三丁目
發兌 至誠堂
振替東京一七四四

文章界の雙璧

大町桂月先生著

文章大辭林

文章家座右の大寶典

今の敎育課目の中一般に最も不成績なるは作文なり作文は唯徒に作法を說きたりとて上達せしめ得べきに非ず要は作文に對する趣味を養ふに在り思想を養成するに在り文字の運用と造句の法とを自在ならしむるに在り當代文章の泰斗大町桂月先生玆に見る所ありて此書を著はさる凡そ作文に關する有らむ限りの題目を選集し題每に文に關する熟語と成句とを集め其文例として當代に適切なる名文を選べり是れ實に先生が拮据十年の餘に成る一度此書を手にすれば趣味自から生じ思想自から湧き句自から熟し文字の運用自由自在ならむ文を學ばんとする者の一大寶典なり

四六判特製箱入美裝
紙數壹千壹百頁
定價金貳圓
特價金壹圓六拾錢
郵稅金十二錢

陸軍教授 友田宜剛先生著

聖代作文新辭林

文章界の一大寶庫

作文の泰斗友田宜剛先生心血を濺ぐ事十有五年本書成る本文約千頁記叙論說に亘りて材料豐富題を分つこと二百廿六電話飛行機等の新課題武士道修養等精神的課題君臣父子夫婦兄弟等の人倫道德的課題心情信用經濟等の心理的若しくは社會的課題博物的課題評論的訓戒的あり四季風候天然人事へのみならず特に書簡文の辭林として又百有餘頁を包含す本書一卷を座右に備へば美文實用文如何なる作文も立ちて處に成るべく更に二百有餘頁の附錄には日用文字語句は悉く之を網羅し且つ簡易になる解說を加ふ畜に文字檢索に便なるのみならず優に作文の一大辭典たり更に漢字の異同辨正字略字別動詞應用の類別其他作文に心得べき諸種の事項等悉く網羅す實に作文家必須の一大寶典也

四六判特製箱入頗美裝
紙數壹千三百頁
定價金貳圓
特價金壹圓六拾錢
郵稅金十二錢

發兌 東京市日本橋區本石町三丁目 至誠堂書店 振替東京一七四四

宮內大臣伯爵　渡邊千秋閣下題詠　坂本辰之助先生著

乃木大將と其夫人

菊判全一冊
定價金一圓
郵稅金八錢

口繪
大將夫妻殉死當日の紀念寫眞肖像筆蹟其他稀世寫眞拾數葉

世に乃木大將傳の出てたるもの多し而かも本書の如く內容の完備せるものはなし大將の逸事には他に比類なき獨得の材料多く且つ大將の年譜あり系圖あり詩歌集あり書簡集あり行文流暢平易何人も讀み易く殊に夫人傳最も詳細を極む言々血あり句々涙あり女學生必ず讀むべく全國各軍隊各學校各家庭には必ず一本を購ふべし

澁川玄耳先生著
中村不折畫伯裝幀

一萬金

▼四六判特製全一冊
▼紙數二百八十頁
▼定價金八拾五錢
▼郵稅金八錢

本書は新聞界の泰斗たる東京朝日新聞社に在つて名聲隆々たりし澁川玄耳氏が去月俄然其職を擲つて支那漫遊に上りたる前後の詳細なる日記なり進退出處は男子の最も難しとする所此間に處して此新聞界の彗星は如何なる擧措に出でたるか本書を讀む者或は嗤ひ我は憐み或は喜び或は憤り遂に流涕長嘆卷を濕さずんば已まざらんとす著者の奇文奇想は世即に定評あり而かも本書は其心血を濃げるもあにして特に此種の大膽なる著述は天下未だ之れ有らざる所此放膽にして破天荒なる大著述を繙け

文部省通俗教育
調査會御認定

國民新聞記者　坂本辰之助先生謹撰

明治天皇御大喪記

明治天皇

東京市役所各役場ヵ御買上の榮を受く

菊判天金特製箱入美本
定價金貳圓▲紙數四百八十頁
特價金壹圓五拾錢
郵稅內地十二錢　清鮮貳十錢

天下一品
尊嚴なる光澤
記念寫眞及挿畫
壹百六拾個

先帝御不豫御發表後宮中の混雜◉二重橋前其の他各地に於ける赤子熱禱の光景◉崩御當夜の光景◉殯宮御通夜日記◉靈柩奉移式の光景◉御大葬の顚末◉桃山御陵の光景等最も精確を極む本書を一讀せば實景眼前に髣髴して實地を見ざる人も詳細に其光景に接するを得べく永久傳家の寶典として藏すべき御大喪實記

國民新聞記者　坂本辰之助先生謹記

明治天皇

永久子孫に傳ふべき傳家の寶典

菊判天金特製總クロース全壹册
紙數四百頁　定價金壹圓五拾錢
特價金壹圓貳拾錢
郵稅內地金拾貳錢　清鮮金廿錢

御聖影◉御宸筆◉御製歌集◉御詔勅◉御年譜◉御聖歷◉御逸事◉涙痕日記◉其他光澤寫眞コロタイプ數十種

本書は皇室皇族の事に精通せる著者が齋戒沐浴し熱涙を嚙みて謹記し奉れるも別けて先帝御聖德の出處正確にして寸毫苟もせず先帝の御聖德に關する事は細大漏羅せざるなし一斑は一代の文豪德富蘇峰先生が血涙を揮つて草し奉りし深刻なる一大雄篇にして近來の大文章なれば陳々相倹つて逸古凌前の御聖德を傳へて遺憾なし實に聖代無かるべからざる完全なる大名著これ實に六千萬の國民戶戶に一本を藏して明治聖代の絕好記念とせざるべからざるのみならず一種の定本として世界萬國の讀書者として一般に聖德を仰がしむべき光燦ある永久傳家の寶典也

陸軍教授　國語漢文擔任　友田宜剛先生著

國語漢語　實用新辭典

總グロース特製全一册
紙數千三百五十頁
定價金壹圓六十錢
特價壹圓參拾錢
郵送料金十二錢

本書の重寶な點は、何でも引けば皆わかるといふのにある。漢語の知らないのは漢語の部で引き、國語の知らないのは國語の部で引き、字の知らないのは字鑑の部で引くに、囊の物を取るよりも易く出てくる。それに附錄としては、文字の使ひわけ、文法、其の他種々のものが有る、日用英語さへ有る、實に讀書に必要、作文に必要、事務家に必要、農家に必要、工業家に必要、官吏に必要銀行家に必要、學生に必要、勞働者に必要、凡そ如何なる人も此の辭典の必要を見ない者は無い。世に專門的の辭書は有る。併し、此の辭典の樣な實際的なのは無い、論より證據、ともかく坐右に置いて使つてみて戴きたい。

發兌　東京本石日町三橋目丁區　至誠堂　電話本局三六七一　振替東京六四六番

陸軍教授　友田宜剛先生新著

小學教育に於ける文法と綴方との解決

菊版巻製全一冊
紙數四百餘頁
定價金壹圓五拾錢
郵税金十二錢

小學教授方に於て、何が困難な學科だと言つても、綴り方ほど困難なものが無いとは一般の實論。其の困難を除かうといふ希望の下に、作文教授の大家友田宜剛先生を聘用せられての夏期講習會は、年來諸方に行はれ、昨年の如きは、其の爲に、長き休暇を先生には一日の御休みも無かつたのである。併し、講習には場所と時間との限りがあつて、とても先生獨得の妙案を一般教育社會に普及させる譯には行かないので數多の地方より先生の講演錄刊行を要求せられ、此に弊堂起つて先生の稿本に訂正增補を加へて載いて發行するの榮を擔りました。それが即ち本書であります。先生は曩に同じ講習會の講演錄たる此類の一書を公にせられて東都の紙價を高められたが、本書は其の後四年間の新研究新講演を綱羅組織せられたるものであれば、更に其の眞價の貴いことは申すまでもありません。文法を根柢としての御立案に特に其の長所が發見されます。學校としての御備付は勿論、諸先生方の綴り方教授法の虎の卷として是非机上に無くてはならぬ書でありもす。兒童に示すべき模範の文例も先生獨特の靈筆で綴られたものが數多載せられてあります檢定志願者にも勿論必要な一書として敢て推薦致します

發兌　東京市本石町三丁目　日本橋區　至誠堂　電話本局三六六番　振替東京一六四七番

家庭必備の良書

東京小兒科病院長 醫學博士 瀨川昌耆先生述

最新育兒のをしへ

菊判特製美本全壹册
定價金八拾錢
郵稅金八錢

凡そ家庭にありて育兒法ほど大切なるは無し育兒の法を誤れば賢なるものも愚になり强壯なるべき子も病弱になり終に死するに至る育兒法を知らざるは親の義務を果さざる者と云ふべし本書は小兒科專門の名醫瀨川博士が最新の學説と多年の經驗とに徵し丁寧懇篤に恰も手を取り教ふるが如く小兒の保育法を説明せられたるものにて總て是れ育兒上實地に適切なる金科玉條ならざるはなし殊に卷末に附せる牛乳保育法は是れ育兒上の最大要件にして博士の心血を濺ぎて研究せられしもの行文亦極めて通俗平易何人も一讀了解するを得べく實に家庭の一大福音なり

東京小兒科病院長 醫學博士 瀨川昌耆先生述

小兒病手當法

菊版特製美本全一册
定價金七拾錢
郵稅金八錢

小兒が急に發熱したり下痢したりする時に醫者の診療を受くべきは勿論であるが如何なる疾病や過傷でも醫者の來る迄の應急手當が宜しきを得ると否とは治療經過に重大な影響を及ぼすものであります本書は斯道の大家瀨川博士が多年幾多の實驗とあらゆる小兒病傷に就て日常心得べき手當法を極く解り易く素人にも行ひ得るやう説明してあります愛兒を有つ家庭には是非本書をお備へになる事をお薦め致し升

發兌 東京日本橋區石町三丁目本 至誠堂書店 電話振替東京三一七四六番 局本六六四六番

熊田葦城先生著　川村清雄畫伯裝幀

日本史蹟　大阪陣　冬陣　夏陣

寫眞百數十個挿入

菊判特製金文字入
全二册紙數各五百頁
定價各金貳圓　郵稅（內地各金十二錢　清朝各金三十錢）

特價各金壹圓六拾錢

當代獨得の地理的活歷史

德川家康が難攻不落の大阪城を陷るや計畫慘憺を極め作戰苦心を盡す今古此辛辣の戰なく東西此の悲慘の史なし本編は地理と歷史とを融和する熊田先生獨得の快筆を揮つて其終始曲折を描寫す老雄の面目生動し勇將猛士の苦衷活躍す殊に一々地理を精査して正確なる史實を湊合す三百年前の活歷史なると共に大阪に遊ぶものゝ必携必讀の好案內記

村上浪六先生著

元祿忠魂錄

武士道の精髓

好評嘖々五版發賣

菊判特製　定價金一圓
箱入美本
全一册　郵稅金拾二錢

華奢風流の元祿模樣は消ゆる時あるも此年間に染め出せし四十七士の血痕は我國に大和魂の元氣消磨せざる限りは世に消ゆるの時なかるべし月雪の中に生命の捨處を得たる武士道の華は溢れて書に劇に限りなきも其忠魂義膽精靈の元氣と一語千金絕妙の波瀾曲折に至りては文壇の雄將浪六先生の筆に俟たざるべからず弊堂の乞ふ事茲に多年豪雄の文の得意の筆奔放自由萬綠叢中の紅一點として芳ばしく一讀卷を掩ふ能はざる大快著なり

發兌　東京市本石町　至誠堂　電話本局三六六番　振替東京一六七四番

法學博士 和田垣謙三先生校閲 安東鶴城先生著

英和對譯

寸鐵警句集

袖珍全一冊
定價金四十五錢
郵稅金六錢

奇拔痛快の活文字

警句も一種の哲學なり諷刺あり機智あり頓才あり滑稽あり寸鐵人の肺肝を剔るもの能く人の顧を解くもの悉く蒐めて此中にあり而も又其反面に於て能く世態人情の祕密を曝け出し暗々裡に社會處世訓を敎ゆ其譯文又妥當を得て能く原文の意を移し得たり思ふに英語の學習者は之に依りて尠らざる利益と敎訓とを得

機智頓才の無盡藏

夏期第一最適の良書

大町桂月先生著
（定價金八拾錢）

箱根山

三五形特製 寫眞數十個入
美本全一冊 携帶至便

避暑溫泉の最好案內書

日本第一の溫泉場と云へば何人も先つ指を箱根山に屈すべしまた日本第一の自然的大公園と云へば何人も先つ指を箱根山に屈すべし而して日本第一の紀行文家と云へば何人も先づ指を大町桂月先生に屈すべし箱根山に遊ぶことも前後數十回蘆湖を中心とせる七八里四方の大山舊溫泉の諸處七湯は言ふも更なり熱海湯河原伊豆の新しき處二子駒嶽金時明星箱根三島三枝鞍掛日金石橋石垣神明神道の通ずる處箱根八里の古道の三國峠伊豆山山の諸峯の名所舊跡到る處に殊に里程旅費宿料溫泉に關する最新の調査に係り詳記して漏さず裝幀の堅牢にして輕便なるも亦破天荒なり

發兌 東京市日本橋區石町三丁目 誠堂書店 振替東京一四四七

浪六先生近來の大傑作

◉誠實の和睦は戰ひの後にあり、神聖の戀愛は男女衝突の後に生ず

現代思潮 男女の戰ひ

▲口繪　實況寫眞　コロタイプ版　二頁大▼

◉男女あらゆる階級の衝突、男女あらゆる思想の衝突、是れを讀まざるもの、今日の男女にあらず

菊判美本
紙數三百頁
定價金九十五錢
郵稅金八錢

現代思潮 男女の戰ひ 續篇

▲裝幀　川村清雄畫伯　◉浪六先生各苦心の大意匠▼

◉社會あらゆる階級を網羅せし、男女の戰ひよ〳〵白兵戰に入る、男女兩性を、赤裸々に剝出したる人生の裏面史なり

菊判美本
紙數三百頁
定價金九十五錢
郵稅金八錢

人生の一大福音●處世活動の指針●立身出世の要訣

人の運

大町桂月先生著 ▲裝幀 川村清雄畫伯

四六判特製美本
紙數四百餘頁
定價金壹圓貳拾錢
郵稅內地八錢
支那、朝鮮貳拾錢

內容目次一斑

●運は運也運轉する也●獨斷の人を去つて果斷の人に來る●頑固の人を去つて自信ある人に來る●酒に溺るゝ人を去つて酒に狂はぬ人に來る●女に迷ふ人を去つて女に優しき人に來る●屁理窟云ふ人を去つて道理を解する人に來る●躁急の人を去つて勇往の人に來る●心の動く人を去つて才智の動く人に來る●已に寛大なる人を去つて人に寛大なる人に來る●自暴を起す人を去つて憤を發する人に來る●人を怨む人を去つて人を愛する人に來る●肩先の勇氣の人を去つて腹底の勇氣の人に來る●自ら侮る人を去つて分を守る人に來る●慾の多き人を去つて慾の大なる人に來る●傍觀する人を去つて奮鬪する人に來る●顧慮する人を去つて熟慮する人に來る●脆き易き人を去つて見切の善き人に來る●小事に拘泥する人を去つて小事を忽にせざる人に來る●人を恐るゝ人を去つて天を恐るゝ人に來る●過去を思ふ人を去つて現在を思ふ人に來る●現在を思ふ人を去つて未來を思ふ人に來る●餘論には人相陶宮九星八卦御鬮判斷相性等在來世俗の凝視せる所をも洩さず警拔人の意表に出づ●請ふ何人も一本を座右に備へて開運の眞理を自覺あれ

發兌 東京市石町本日本橋三丁目 至誠堂 電話本局三六六七一 振替東京六六四四番

法學博士 和田垣謙三著

兎糞錄

▼破天荒の一大快著▼

◉批評一斑　修むる所百三十餘篇、悉く金玉の響きあらざるはなし、先生例の輕妙洒脫瓢逸奇警磊落奇拔、奇想落天外の構想により噴出したるもの、一讀再讀三讀四讀尙且つ飽くを知らざらしむ。兎に角如何のものにやと一度手にして先づ電車裡に之を讀む。然るに我知らずフヽンと噴き出して向側の乘客に怪しまるること屢々也。宅に持ち歸りて讀む、又しても家人の怪しむ所となり、遂に書中の說明を爲せば一時に笑聲起りてフヽン所に非ずキャッ〳〵と叫ぶ。評者は腮を解き腹を抱へ又泣されたり、實に滑稽の奧に涙を藏し諧謔の底に人生の眞理を寓す世を啓發し人を誘導し無限の活敎訓を含む今古獨步なり、請ふ何人も一本を手にし賜へ、讀んで見て感奮に堪へざるものあり、憤然として怒り度きものあり。又、噴然として吹き出さゞるを得ざるもの澤山あり、感奮の餘妄評す。

挿畫
川村清雄畫伯　三色版數葉
齋藤松洲畫伯　木版數葉

四六版特製美本全一冊
定價金壹圓貳拾錢
郵送料金八錢

發兌　東京本石日町三橋丁目　至誠堂　電話振替本局東京　三六七一　六六四四番

大正三年一月二日印刷
大正三年一月五日發行

定價金壹圓貳拾錢（ヤンキー）

著者　森田小六郎
東京市日本橋區本石町三丁目十四番地

發行者　加島虎吉
東京市本所區番場町四番地

印刷者　平井登
東京市本所區番場町四番地

印刷所　凸版印刷株式會社分工場

發兌

東京市日本橋區本石町三丁目
電話長本局三六六番三六七番
振替口座東京一七四四番
至誠堂書店

東京市日本橋區人形町通住吉町
電話濱花一九四九番
振替東京一九八四二番
至誠堂小賣部

方法では可けないと思ふやうになつたから、地理の明るい人間をトラムプに仕立てゝ墨西哥に入込ませ、若干の密入國者を手引して、國境の大山脈を横斷させたり、其他官憲では知らぬ種々の祕密方法を講じて居るらしいが、曩に述べた通り、墨西哥が漸々と有望になつて來るやうだから、此もぐり結社も今ではもう一つも無いと言つて宜しい。

ヤンキー

終

會しては一言も無いが、此手で關所を破るには大金が掛かるから、貧乏で後援者の無い支那人は折々安値な密入法を行つて失敗する事がある。それは牧草を二噸位車の上に滿載して國境を通過すると云ふ手だが、牧草の中に脫稅品が隱匿してある位の事は、稅關吏が心得て居るから、嚴重に其牧草を解剖すると、豚尾漢が三四人其中から飛出して來たといふやうな珍談がある。其他エンセナダ港からボートに乘つて夜陰にサンヂーゴの沖まで漕著けて、其處から上陸しやうとして、捕縛された者も少なくはない。最も安全なのは第一の方法で、一時に五六人と云ふ人數を輸入せずに、眞物のレヂーの間に僞物を挾み、若くは紳士風の米國人と僞物のレヂーとを同乘させたりして、種々の手で密輸入を試みたが、殆んど悉く成功したと見えて、曾て捕縛された者が一人も無い。尤も今では移民官も氣が著いて來たし、密輸入會社も長く此

の正體を現はす。スカーチを取外すと毛臑がニユッと現はれる。レヂーが飛んだ化人になつて、顏の白粉を洗ひ落せば、黃色に土氣色を帶びた南清苗族の後裔頓珍漢君以下朴念人君等の五人で、亞米利加婦人は影も形も無い。それから眞正の婦人は何うなつたかと云ふに、墨西哥の町で下車して、支那人の代理人からしこたま小遣錢を貰つて、悠々と五日も六日も情夫と一緒に遊び暮して、思ひ〳〵に米國へ歸つて來る。此方法で遣れば、鈍間な移民官の目を掠めることは何んでもないことで、今日まで此手でカレキシコとチユアナから輸入した支那人の數は夥しいものである。そして祕密結社を拵へて支那人の輸入を一手で經營して居る米國人があるとは驚くではないか。

夕景に白粉を塗つて鬘を冠り、其上から薄絹で覆面して通れば、千里眼でも透視が利かぬ。米國の富樫左衞門尉も斯う云ふ關所破りに出

て思ひ〳〵に遊ぶ。輕佻な加州女だから夫々情夫のやうな男と巫山戯散して、時の移るのも知らんで居る。やがて夕景になると、五人の女が案内人に伴れられて自働車に乗込むと、運轉手は直に其處を出立して、元の街道を通つて、税關と移民官の前へ出て車を停める。税關吏はレヂーの事ゆゑ一寸車の中を見るきりで「宜しい」と云ふ。税關吏が故障を言はぬ位だから移民官が否應言ふ筈が無い。のみならず役人から一寸脱帽の敬禮を受けて其處を通過し、サンヂーゴにも立寄らず、一直線に北へ走つて、サンターナと云ふ處へ來ると、支那人が待受けて居るから、人目に掛らぬやうに車上からレヂーを下して、其支那人の手に引渡し、現金を受取つて何處へか自働車の影を隱くして了ふ。そしてレヂーは運歩を支那人の家の中奥深くへ運んで、何か支那語で喋りながら、ヴエールを取り帽子を外し、頭へ手を掛けると、頭髪が取れて豚尾

其方法は米國に居る支那人が、自働車の運轉手と約束して、墨西哥から一人の支那人を乘せて、無事に國内に輸入して呉れたなら、若干の報酬を遣ると云ふ條件で自働車を備入れる。其報酬は二百弗乃至三百弗であるから、運轉手は五人の支那人を無事に輸入すれば千弗乃至千五百弗になる。僅か一日で此大金が手に入るから大喜びで引受ける。其處で運轉手は立派な自働車を借りて來て、此れに米國婦人を載せ、墨西哥見物と稱してサンジーゴよりチユアナを通過して墨西哥に入つて行く。往く時には税關吏と移民官に挨拶して通つて行くが、立派なレデーだから役人は尊敬して「ハヴ、グッド、タイム（ゆつくり遊んで御出でなさい）」などと愛嬌を振り蒔く。それを尻目に掛けて一直線にチユアナを通つて、奥の方へ進んで行く。また別にエルセントロからカレキシコへ抜ける者もある。そして豫定の地點へ達すると、一同下車し

五八　支那人の女裝

支那人は一千八百八十三年の排斥法の爲に、勞働者は絶對に入國を禁止せられたけれど、米國に在る人口は反つて增加して居る。それは出生者の數が殖えて居るのも一因に相違ないが、密入國者の增加が重なる原因を爲して居る。丁度明治四十年より四十一二年の頃は自働車の數が激增する時代で、輕佻なる米國人が盛に之を乘廻はして居たから、狡猾なる支那人は之を利用して潛入を企てた。尤も支那人のみでは此仕事が出來ぬから、慾の深い米國人と共謀になつて遣つたが、其方法は什麼にも巧妙で、流石に烟眼なる移民官もまんまと一杯喰はされて、支那人が五六人一時に關所を破つて行くのを氣著かずに居ることが多かつた。

童に追跡せられて、捕縛の上、ユマの移民官屯所へ護送されたと云ふ事を新聞で讀んだ事がある。それ以來密入國の事は更に聞かぬ。加之今日では墨西哥地方に金儲けの機會が多いから、ロサンゼルス地方からボツ〳〵墨西哥へ轉ずる者があつて、同地の在留民社會では、西班牙語の會話篇や西日辭典、若くは西米辭典の賣行が却々盛である。米國政府も日本政府も最早安心して可なりだ。

日本人が米國の天を戀しがつて居たと同時に、支那人も亦非常に米國の天を懷しく思つて居る。彼等は日本人よりも一層巧妙な方法で密入國を企てゝ居る。そして度々失敗したが、成功した數は失敗の數よりも更に多いと言ふことである。

の二人も亦洋服を著て居たが、其不潔なことは言語道斷である。彼等は紳士の顏を見るや否や「オイ早く入つて來んか」と聲を掛けたが、紳士が無言で居るので相手にならぬと思つたのか、今度は高聲で歌を唄ひ出した。移民官は苦い顏をして紳士に向ひ、「御覽の通り、人の前で毎時でも此通りに騷いで、制止すればする程一層高聲で騷ぐには困つたものです。日本の移民は此通りに手に負へぬ者ばかりであると御傳へを願ひたい」と、繰返し傳言を賴んださうだ。此れは其紳士の直話である。其後日本人の密入國の噂は餘り耳にせぬ。唯一度二人の日本人が國境を越えて、アリゾナ州の砂漠へ迷ひ込んだが、行けども〳〵水が無い。やがて渴死するばかりになつたので、止むを得ず引伴れて來たラマ（羊の一種）を屠つて血を啜り、餘つた血を携帶して行つた大きな水筒に入れて、他の一頭のラマの背に著けて歩いて居るのを、數十人の牧

て居ても少しも遣はず、勞働せずに遊んで居るが、大抵は乞食の境遇に居て、少しも恥辱と思はないやうだから、之を目擊する日本紳士の旅行者は、誰顏を反向けて通るより致し方がない。併し此れがもう四五年前の話である。

丁度今から四年前に或日本人の紳士がエルパソを通過した時に、移民官は紳士と見て相當の尊敬を拂つて種々と日本の下等移民の談をして、彼等の爲に非常に迷惑をして居ると不平を並べた末に、此實況を日本へ行つて朝野の識者に傳へて貰ひたいと言つて、其紳士を移民の留置場へ案內したが、留置場には恰も三人の日本人が居て、何事か談話をして居たが、其紳士の姿が目に著くと、中なる一人は聲を揚げて「こりやこりや」と叫んで頻に手を叩いて居た。驚いて熟視すると、其手を拍つて居る奴は、カーキー色の洋服を著て手拭で頰冠りをして居る。他

なる。何故日本人はもつと安全な場所を撰んで通過しないであらうかと、非常に同情を籠めた言葉で日本人の密入國の事情を詳しく話して來れた。併し其處が日本人の無智な處で、服裝の嗜みがあつて、立派に英語が出來る人間なら、何も斯那危い藝當を打つて移民官に捕まるやうな下拙を遣らぬ。實際墨西哥に居る日本人の大多數は、何れも無智文盲の勞働者で、教育は元より思慮分別の無い者ばかりである。今日同國に殘留する勞働者の數は、多く見積つても五千人位であらう。今より三四年前までは、常に三四百人位の人間が國境と居て、入國の機會を窺つて居たさうであるが、實見者の談に依ると、彼等は在米の友人から送つて呉れた金を、二三百弗位は紙幣にして、胴卷に入れたまゝ肌身に著け、不潔な洋服を著て、手に大日本帝國何縣何郡何村何字何の誰某と書いた細長い竹行李などを下げて歩いて居る。そして金を有つ

たと云ふ。廣い國境であるから、何もわざ〳〵此邊へ來るに及ばないが、それが恰もエレキに吸著けられたやうに、此處へ引著けられて來る。其日本人は服裝を一見しても、言葉を聞いても、墨西哥に居た者としか思はれない。英語で立派に應對が出來ぬから、此處からサンヂーゴまで護送されて行つて、通辯著で訊問されると、皆事實を白狀して了ふから、止むを得ず桑港まで護送して、其處から日本へ送還する事になる。何も移民官は強ひて日本人を捕縛したくない。彼とて人間だもの、日本人が米國へ潛入したさの一念で、深山幽谷を跋渉して、非常な難儀をして此處まで來たかと思へば、惻隱の心も起つて來る。出來る事なら放免をして遣りたいと思はぬでもないが、何を訊いても答辯は出來ず。夜露と土砂の爲に穢くなつた衣服を著て、手荷物を提げて居る姿が、打消すことの出來ぬ證據だから、可愛想だと思ひながらも捕縛する事に

見物に行つて來るが、歸りには安全に通過が出來るやうに願ふ」と言ふと、移民官は一人の婦人を手招きして「此紳士が今チユアナへ行つて歸つて來られるから、顏を好く見覺えて置いて下さい」と言ふと、婦人は穴の明く程予の顏を凝視めて、「宜しい行つて御出でなさい」と言ふ。其處で默禮して待合して居る馬車に乘つてチユアナに著き、一寸町を見物して、他の見物人より早く引還して來ると、最前の婦人が此方を向いて立つて居たから、之に挨拶をして、別に稅關の役人から手提鞄の檢査を受けてから發車を待合せる爲に、傍へに在る雜貨店の中へ入つて休息して居ると、一人の中老人がやつて來て話をしかけた。幸ひ予も話相手が欲しく、特に日本人の密入國者の事を聞きたかつたから、種々と質問を試みた。

其老人の談に依ると、此邊へも屢〻日本人が遣つて來て、移民官に捕つ

は捕縛されたと云ふし、又或者は行衛不明になつたと云ふが、多分餓死したか、左なくば猛獸の餌食になつたのであらう。後續隊の消息も更に聞く處が無いと言ふことであつた。

五七　密入國者の捕縛

サンヂーゴで日本人密入國の話を聞いてから、急に墨西哥が見たくなつたので、同地を出立して粗末な汽車に乘つて、チユアナの町へ向つた。チユアナは加州のサンヂーゴを距ること二十哩程南に在るが、サンヂーゴから汽車で一時間程南に行けばイシドロと云ふ處に著く。此處は米國と墨西哥の境界で稅關と移民官の屯所がある。汽車から下りて移民官の前へ行つて挨拶をしながら「自分は一寸チユアナまで

に掴ませて遣つたが、札が大きいので困つて居る樣子が見えたから、懷中を測量されぬやうに、行く〳〵一弗二弗及び五弗の紙幣を集めて、六十弗にして先の紙幣と引換へて遣つたら、包み切れぬ嬉しさを顏へ出して、一同に向つて堅い謝意を籠めた握手をする。そして愈〻互に無二の親友となつて、此方が休息して居る間に、彼等が二人宛交番に食物を調へに行つて歸つて來る。斯うして一週間程旅行を共にしつゝ南加の某地點へ著いたが、其處には二三百人の日本人勞働者が開墾に從事して居たので、其中へ紛れ込んで、夜に入つてから服裝を調へて湯に入り、顏を剃つて貰ひ、一週間程休息して疲勞を息め、一人宛汽車に乘つて南加の首府ロサンゼルスに到著して、羅馬綴りの和語の電報を見て、出迎ひに來て呉れた友人に伴れられて、目的の地へ落著いたさうであるが、曩に國境で移民官に追はれた先發隊の勞働者は何うなつたか、或者

で惡臭が鼻を衝いて來るが、此方も同樣で、先方から見れば同じ仲間で唯人種が異ふのみである。人種の差別を外にしては、彼は堂々と往來を濶歩して行くに、我は人目を忍んでコソ〳〵と、夜歩いて行く移民法違反の罪人である。所詮彼等と道伴れにはなれぬから、一寸擧手の禮をして出立しやうとしたら、頻りに引留めて、手眞似に英語を雜せて話す處を想像するに、吾々と一緒に旅行せよと言ふ意味らしいから、手眞似で、吾々は夜歩いて晝寢る、晝歩くと馬に乘つた人間が追駈けて來て捕縛すると言ふと、「決して心配するな、吾々が保護して遣るから」と、手眞似で知らせるから、一同相談の上で此トラムプと同行する事にして、其處を出立したが、若し彼等が或薄少の賞與金の爲に裏切をして、移民官に密告すると惡いからと思つて、相談した上で二十弗の米國紙幣を一枚宛遣つたら、餘程驚いた顏をして容易に受取らぬ。それを無理に手

うだが、山の中で吸盡して來たから生米を兩手に一杯盛つて遣ると、「ライス(米)ライス」と言ひながら喜んで手に受ける。何うも其樣子が移民官でも、密偵でも無いらしいから、安心して飯を炊いて食べ、彼等にも薦めて遣ると喜んで食べた。そして彼等はサックの中からフライパンを出して燻肉を燒いて五切片ばかり呉れたから、半分宛分けて食べたが、出立以來纔かに燒鹽許り嘗めて居た者が、始めて鹽分の多い肉を食べたんだから、復活したやうに思はれた。

五六　安著

夜が明けてから熟く視ると、彼等は何れも乞食のやうな服裝をして居つた。トラムプ(浮浪の徒歩旅行者)と云ふのは此れであらう。不潔

を水で洗つて頰張つた。米は節して食へばまだ四日間は充分だ。よし此れで行ける處まで行進を續けやうと、晝間は潛伏し、夜は歩いて北行を繼續した。そして四日目の未明に少しく平坦な處へ出て米を研いで居ると、突然後から人の聲がするから、振返つて見ると、二三の白人が五六間程の處まで迫つて來た。

此不意に現はれた白人に喫驚して儼然と身構へながら、先方の樣子如何と凝視めて、いざと云へば、組伏せて置いて逃げやうと覺悟した。何しろ先方は小勢で此方は多勢だから、三人で一人に對抗へば勝つ事は極まつて居る。負けて一命を捨てればそれまでだ。何うせ無い命を此まで長らへて來たんだからと、泰然自若と待構へて居ると、白人は懷しさうに言葉を掛けて進んで來た。英語を話す者が無いから、何を言ふやら薩張り解らぬが、手眞似で何か呉れと言ふらしい。烟草のや

かつた。自分達は何たる輕卒な事をしたんだらう。斯那苦しい思ひをするなら、いつそ此儘此熱帶の砂漠の中で、死んで了つた方が可いと、一同輕擧を悔い不運を歎じて居たが、待てば千年の思ひもする長き初夏の日も暮れて、空一面に星が現はれ、暑き北風が熄んで、涼しき南風がそよ〳〵と吹いて來たので、一同元氣を回復して潛伏所を立出でて鐵道線路を横切つた。場所は更に不明らぬが、西北に進めば何時かは加州とアリゾナの境に在るコロラド河に達するから、其處で思ふ存分に水を飲んで米を炊いて食べたなら、假令移民官に捕縛されても遺憾は無いと、互に勵まし合つて道を急いだが、凡そ三時間程で廣い河の岸に著いた。其處で顏や手足を洗つて心適くばかりに水を飲んだが、附近の樣子を見るに、人家も程遠からぬ處にあるらしく思はれたので、夜とは云へ、何時密偵に發見されるかも知れぬからとて、炊事を止めて生米

山居る方へ行くんだから、嚢の中の鼠も同然だと思つても、聲を揚げて呼ぶわけにゆかぬ。立停まつて手拭を揮つて此方へ來いと合圖をしても、氣著かずに一散に走つて行く。他人の身の上を思ふ暇が無いから、打放任つて置いて道を急いだ。そして此時から嚴に晝は眠り夜だけ道を歩くことにした。

其翌朝は鐵道線路を前方に見た。此邊は一帶に警戒が嚴重と聞いて居るから、危險を慮つて叢の中に潛んだ。時は恰も五月の中旬で、砂漠から吹送つて來る蒸暑い風と地熱の爲に、灌木や草の中に寢て居ても息が切れるばかりであつたが、ヂッと我慢をして日の暮るのを待て居た。汗は脂肪に變じてシャツに浸染み、飢渴の苦しみが犇々と身に感應へて來ても忍耐へて居らねばならぬ。什麽に米國の天が戀しうても、斯那に苦しむ事と知つたなら、墨西哥の鑛山に留つて居た方が宜

五五　移民官の追躡

顧みればもう追手の心配は無い。前途の難關は移民官の警戒線であるが、之を突破するには、二十五六人一團となつては人目に觸れる惧れがある。其處で抽籤で數組に分れて、相前後して進んで行つた。若し先鋒に異變があつたなら、後續隊は臨機の處置を取ると云ふのである。斯うして一直線に北進して七八里程行くと、先方から二三人の仲間が駈著けて來て、「移民官々々々」と絶叫する。さては發見されたかと、急いで道を左に取つて險はしい方を撰んで疾走した。もう後續隊に知らせる暇が無いから薄情なやうだが、自分の隊だけ安全に行きたいと、前後に眼を配つて駈けて行くと、七八町離れた第三隊は氣が著いたと見えて、反對に右の方へ走つて行く。あれでは豫て聞いた牛飼が澤

物はチラリと此方を見た眼を前に移し、徐行しながら姿を彼方の叢の中に沒して了つた、多分キヤリフオルニアライオン（加州獅子）であつたらう。一同其名は知らず、怪物から不意に襲擊せられはせぬかと、恐怖を懷いて反對に左の方向へと進んで行つた。今までは唯追手に對する警戒ばかりであつたが、此からは猛獸に對する警戒をしなければならぬ。其處で途中で堅い木を撰んで切取つて、手頃の棒を拵へて杖の代りに持つて進んで行つた。彼等の中には故鄕に其歸國を待詫びて居る妻子を有つて居る者もあつた。また獨身で係累の無い者もあつたが、共に米國の天を戀しいと思ふ外には故鄕を思ふ暇も無く、晝は眠り夜は歩き、只管道を急いで北進するばかりであつたが、鑛山を脫出してから六日目の朝國境へ著いた。

取り、北斗星を眺めては方角を定めて進行した。山から山へ危き足許を踏締めつゝ歩いて行くと、やがて午前三時頃に小さな谷川の邊に出て來たから、一同喜んで手に水を掬つて心適くばかりに飲んだ。甘露の味とは眞に之を云ふのであらう。併し此先何里行つて水があるか分らぬから、せめて此處で米を炊いて食はうと、携帶して來た金盥を出して、米を研ぎ火を起して充分に煮て食べた。そして一食分を結飯にしてポケットへ入れ、身仕度をして日の出を打拜んで、太陽を右手に眺めながら行進を續けた。谷川の邊りに居ては人に出會す恐れがあるからである。斯くて道を急いで五六里來ると、折から一行の前面を横切つて左から右へと動いて行く一頭の怪物がある。

怪物を見て驚いて凝視めると、暗灰色の獸類で身長七八尺、形は猫の如く牝獅子のやうである。一同恐怖の餘り足を停めて視て居ると、怪

人員を檢めたが、先に捕まつて引還した五六人の勞働者を別にして、二三人は不足して居るやうだ。或は彈丸に中つて畑の中に死んで居るかも知れぬと思つても、搜索する暇が無いから、見捨てて北の方を差して急ぎ急いで東天の白む頃には或山の麓へ著いた。平地は危險で山は比較的安全だから足の疲勞を忘れて山を上へ〳〵と登つて行つて、麓から見えぬ山の影まで來て暫時休息して居ると、興奮して居た神經も稍、靜まつて、同時に疲勞の爲に眠くなつて來る。追々と空腹を訴へて來る。それに咽喉が非常に渴いて來て堪らないが、近邊に水は無し、まだ安全地帶に來たとも思はれぬから、水を探索にも行かれない。止むを得ず腰や背に在る風呂敷包みや、囊の中から生米を出して嚙つた。そして、評議の後に交番に眠る事にして、夕方まで互に睡眠を取つて空に星が現はれる頃を待つて其處を發足した。方向は唯一直線に北に

は逃後れた五六人の勞働者にピストルを擬して、一同を先にして後から徐行しながら元來た道へ引還して行つた。逃げた勞働者は暫く街道を走つたが追跡せらるゝ恐れがあるので、畑の中を横切つて北へ北へと急いで行つたが、凡そ一時間程經つて、復もや後方から五六人、馬で追駈けて來て五六發續けざまに鐵砲を打つた。彈丸は頭の上を掠めて飛んで行く。勞働者は驚いて玉蜀黍の中に飛込んで、平たくなつて地上へ伏して樣子を窺つて居ると、追手は何事か高聲で合圖をしながら、玉蜀黍の中へ向けて鐵砲を亂發した。危險此上も無いが、一同もう死を覺悟して靜肅にして居ると、玉蜀黍の中に潛伏して居ないと思つたか、馬首を横に向けて往來の方へ引還して行つた。

やがて人馬の聲が彼方へ消えて行くと、一同匍匐しながら玉蜀黍の中から出て來た。總數二十五六人、互に小聲で呼合つて一處へ集つて

五四　鑛山脱走

米國へ潛入するには十日餘り、徒歩で野宿をする覺悟が無ければならぬ。そして通過する處はシーラネヴァタ大山脈の、本脈又は其支脈に當る山道で、海拔一萬呎内外の高峯を辿つたり、又山を下つて谷間を傳つて歩かねばならぬ。食糧も要る、護身の武器も要るが、武器は手に入らぬ。食糧と云つても生米があるばかりだが、其れを風呂敷に包んで腰に下げ、食鹽と數箱のマッチと金盥一つ宛を持つて或日深夜に鑛山を拔出る事になつた。併し夜番が嚴重に番をして居るから覺られぬやうに、三十何人の坑夫がそつと小屋を出て、十町程迂廻をして街道へ出た。折柄後の方に馬の蹄の音がするかと思ふ間も無く、一人の男が目の前へ現はれて出たから、一同驚いて右往左往に散亂する。番人

或潛入者の談に依るに、其男は何百人と云ふ數で或移民會社の手で墨西哥へ送られた移民の一人で、マンザニロからズツと北の方へ遣られて、或鑛山で坑夫として働いて居た。其處は給料は廉し物價は高し、會社で言ふとは大違ひで勞働が非常に辛い。加之に氣候が非常に暑くて遣切れぬから、米國に居る友人の許へ手紙を出して不平を訴へて遣つたら、折返し返事が來て、直に米國へ潛入して來いと言つて金まで送つて呉れた。其處で竊かに機會を待つて居ると、思ひは同じ他にも何十人と云ふ勞働者があつて、何れも申合したやうに米國へ飛込む隙を窺つて居たのであつた。其處で或晩監督の目を掠めて祕密に相談をして、鑛山を脱走する機會の來るのを待構へて居た。

は、冒險ではあるが米墨の國境を徒歩で横斷する手段を取つた。

加州と墨西哥の國境よりする者は、チユアナの街道からサンヂーゴに入り、アリゾナ州と墨西哥の國境より入らんとする者は、カレキシコよりエルセントロの横、若くはロマスよりノガレスの左右に出やうとする。又テキサスの國境に出やうとする者は、ユアレスよりエルパソの左の方へ道を取る。併し米國の移民官は此三つの街道に關所を構へて嚴重に警戒を加へて居り、サンヂーゴよりエルパソに至るまで、八百餘哩の國境に密偵を放つて置いて、密入國者を發見すると電信電話を移民官の屯所へ掛けるから、直ちに追跡隊を派遣して之を捕縛して了ふ。洵に蟻の這出る隙もないまでに嚴重に固めて居る。其れを日本人が突破して無人の地を歩くが如くに遣つて來やうとするのであるから、其大膽な事は日本では到底想像し得られない。

た。明治四十年の二月にハワイから米國へ轉航する事を禁止されてから數箇月間は、墨西哥から米領へ入込んだ者が非常に多かつた。彼等は墨西哥の或地點から晩香坡までの通し切符を買つて汽車に乘込む。其處で汽車が米國の國境へ著けば移民官が檢めるが、切符は加奈太行であるから、咎めずに通過さして遣る。笑んぞ知らん、彼等はロサンゼルスかサンタバーバラで下りて、四十五六弗の切符を其儘捨てゝ了ふ。そして在米の友人に出迎はれて、悠々と何處かの農舍に落著いて勞働に從事する。此方法で逃込んだ者が非常に多く、確かに二三千人はあつたらうと思はれる。其處で米國政府は漸く取締を嚴重にして來て、今では旅行免狀か領事の證明の無い者の外は一切通過させず、國境で抑留して置いて桑港まで護送して來て、船で日本へ送還して了ふ事になつて居る。此に於て墨西哥より米國へ潛入せんと欲する者

或者は小作人になつて五六十人からの勞働者を使役して居る。又或者は商店を有つて十數萬弗からの取引をして居る。手紙も來た。寫眞も來た。見れば見る程羨しくなる。自分も何うかして行きたい。行けば必ず成功するが、と思つても渡航は六かしい。旅行免狀を取るのは絶對に不可能だが、一念凝つては思案に能はず、無理と知りつゝ、出來ぬと思ひつゝ、免狀無しに飛出して行つて冒險を試みては失敗する者が少くは無い。

日本政府が渡航免狀を下げぬとすれば米國の領土へ潛入して行くの外はない。潛り込むには北から行けば米國と加奈陀の國境、南から行けば米國と墨西哥の國境であるが、加奈陀は賃銀關係其他の點に於て、米國と著しい相異が無いから、此方面から米土へ潛入しやうとするものは極めて少ないが、墨國から潛入しやうとする者は可なり多かつ

して成功した事が無い。併し却々博學者で動物學の講釋でもさせれや旨いものだ。其處で一日滯在して主人の經歷談を聽き、滯米六年の感想談などをして、夜を更かした。

サンヂーゴは墨國の國境に近いだけに、墨西哥の話を聞く。別して日本人の勞働者が國境を越して、米國に潛入して來る話を聞いたが、眞に一部の冒險小說を讀む感がした。

五三　破天荒の密入國

日本に居て米國の天を望んで煩悶して居る靑年は、其數幾十幾百萬人なるやを知らぬ。アヽ米國は彼等の爲には非常に戀しい土地である。彼等の親友の或者は米國へ行つて立派な地主になつて居る。又

見を交換し、南加地方の事情を聞いて大に得る處があつた。

八日目の晩ロサンゼルスを出立してサンヂーゴに著いた。同地は墨西哥の國境に近く、人口僅かに四萬の小都會であるが、土地は天與の良港であり、住民は活氣があるから、曾て桑港と競爭して萬國大博覽會を此地に開かうと企てた位である。ジョン、ヂー、スプレックルスを始めとして、グラント、ゲージ、スポールヂング及びカリア等のチャキ〳〵の富豪があつて、土地の發達に苦心して居るから、太平洋の商港としては將來二三を爭ふことになるだらう。サンヂーゴに著いてから、早速同地の日本人世話役飯島君を其住宅に訪問する。飯島君は群馬の人で、年配は四十四五、米國には二十年以上を費して、遣らぬ仕事は一つも無い。新聞記者もすれば說敎もする。銀行の支配人も遣れば、醫者も遣つて見た。農業、漁業、ありとあらゆる事業に手を出したが、何一つと

偉大なるものである。其處で一通り市内日本人の視察を濟ましてから、同地日本人の有力者が組織して居る日本倶樂部へ行つて饗應になる。其處へは日本人會長の湯淺銀之助君を始めとして、同地の日本人の歴々が集つて來る。ロサンゼルスの日本人は、見渡すところ餘程溫順しさうである。會長から一々紹介されて挨拶しながら、土地の事情を聞いた。併し百聞は一見に如かずと、翌朝馬車を驅つて附近の視察を爲し、引續き一週間ロサンゼルスに留まつて農園の視察をしたが、農業は殆んど皆小仕掛で、櫻面都地方に於けるが如くに、大仕掛のものは無い。尤も野菜は大仕掛の經營を許さぬから、事實致方はあるまい。

ロサンゼルス市に滯在して居る間に、羅府毎日新聞の藤井天彩君に會つた。天彩君は以前横濱貿易新聞の主筆をして居た男で、文才もあり、人間も却々奥深い處があるが、甚だ不遇の地位に在るらしい。種々意

だけで日本人が失ふ金額は一年に百萬圓以上である。眞面目なフレスノの日本人は常に之を憤慨して居るが、如何ともすることが出來ぬ。フレスノの日本人勞働者は排日黨の手を待たず、支那人の爲に亡さる者であると、種々な憤慨談を聞き農園の視察を了へて、フレスノを立つてロサンゼルスに向ふ。

ロサンゼルスは各種の事業を通じて、在米日本人の一番發達した處である。特に市内に在る日本人の家數は桑港と櫻面都とを合併した位ある。そして市を中心として十哩以内に在る日本人野菜業者の數は夥しいもので、彼等は南加五十萬の白人に供給する青物野菜を殆んど一手で經營して居る。若し彼等がストライキを起して、野菜を市場へ送らなんだら、ロサンゼルス三十萬の市民は一顆の甘藍一把の青菜をも手に入れることが出來なくなるであらう。實以て日本の勢力は

て南に向ふ。

中部加州のフレスノへ來て見れば、葡萄が成熟したので、ボツ〳〵と勞働者が他地方から入込んで來る。一箇月後には三千人からの日本人が來ると云ふことである。何樣盛なことだ。米國第一の葡萄が、日本人に依つて耕作され、日本人に依つて摘採られて、乾葡萄になつて、世界各地の市場へ出ると云ふことは、實に痛快至極である。排日の風、よし吹き荒めばとて、日本人をフレスノから放逐することは出來まい。また櫻面都やロサンゼルスから日本人を排斥すると云ふことも不可能事である。實に日本人は偉いものであると、ツク〳〵感心する。併しフレスノ日本人の名譽は支那賭博の爲に差引零となる。加州日本人が支那賭博の爲に失ふ處は年々何百萬なるやを知らぬ。フレスノの日本人が第一で、ウオーナッグローヴの日本人が第二位で、此二箇處

凱と云ふ立派な手本があるんぢや無いか。

ヤンキー

五二　六年の夢

米國へ來たのはツイ此頃と思つたに、早や六年を經過した。日月の經つのは實に早いものだ。顧みれば此間に何一つ成功したものは無い。創立以來多難なる新聞社の經營に任じて、他人をして一指だも之に觸れさせず、終始一貫して最後まで奮鬪し來たつた經路には、曲折波瀾は數へ盡せぬ程あつたが、扨て得る處は何も無し。所謂本來無一物、裸で始めて裸で出て行けば差引損得無しと諦めを著けて、一切の仕事を止めて歸國することに決したが、其前に南加州や中部加州で少しく見て置きたい處があつたので、土用の半の暑い時節に櫻面都を出發し

併し日本では米國のやうな裁判は流行らない。裁判官でも警察官でも外國人の被害者に對して、災難がある毎に汲々として保護するやうに努めて居る。ツイ明治四十五年の夏、或英國の一紳士が日光へ行く途中で三百九十何圓と云ふ金を紛失したが、警視廳では極力之を捜索して遂に其金を取復して、英國に在る本人へ送つて遣つたら、本人は非常に喜んで、禮狀を安樂警視總監へ寄せて、日本警察官の怜悧と敏捷と正直なることを激賞して來た。之が米國の警察なら、其金を著服して知らん顏をして居る。米國の巡査は外國人などは保護せんでも宜しいと考へて居る。外國の思はくなど更に眼中に置いて居ない。之に反して日本では專念外國の御機嫌を惡くせんやうに考へて居る。外交も何も角も此方針で行くんだから、何時でも負けてばかり居る。日本人もこれから魂を入變へて萬事圖々しく遣るべしだ。隣邦に袁世

爲に辯護して呉れないんだ」と言つて責めて遣ると、「アイ、キャン、ヘルプ、イット（何うも仕方が無い）」と言ふ。「ナニ仕方が無いことがあるもんか、斯那裁判が何處にある。日本なら立派に證據が擧つて、泥棒の取つた金が被害者の手に復つて來るんだ」と怨じて遣ると、巡査は右手を前へ出して拇指を振りながら「ルック、ヒア」と來た。「何がルック、ヒアだ。何うだ辯解の文句はあるまい」と言つて遣ると、奴さん澄ましたもんで、「オイ此處は米國だぜ。米國へ來てお前方生意氣なことを言つたつて、仕樣が無いぢやないか」と言つて笑つて居る。成程さう言はれりや仕樣が無い。米國は道理が引込んで無理が通る國だから。一體米人は口で仁義だの博愛だのと立派さうなことを唱へて居るが、行は正反對で惡い事ばかりして居る。彼等は正しく華盛頓やリーンコーンの面に泥を塗つて平氣で居る奴等だ。だから何を言つたつて仕樣が無い。

呑んで我慢する。七百弗からの大金を取られた上に、法廷で恥辱を掻かされて居れば世話は無い。

檢事の論告が濟んでから判決があつて、強盗の首魁が八年に、他は五年と四年の禁錮を申渡された。其理由は彼等は強盗をする目的を以て日本人の家へ押掛けたが、室内に大勢人が居た爲に目的を達せなんだ。そして所持の金は彼等が鐵道人夫として、正當に働いて貯蓄したものだから、一部を訴訟費用として殘部を辯護士の報酬として、辯護士をして處分せしむると云ふことであつた。ホントウに開いた口が塞がらぬとは此事である。日本人だと思つて馬鹿にして居やがる。寄つて集つて強盗の上前を刎ねやがると思ふと腹が立つて堪らぬから、法廷の外へ出るや否やペンリンの巡査の肩を捕へて「オイ、ジョージ、何だ今の裁判は。お前はアノ事件を詳しく知つて居ながら、何故俺等の

證人調べに移る。證人は悉く日本人であるが、無教育者の悲しさには證言が一致しない。其弱點を見て、被告の辯護士が盛に切込んで來る。彼は「證人の言葉が互に矛盾して居るから參考とするに足らぬ。法律に依つて與へられたる被告の權利を保護する爲に、斯かる證言に對して、異議の申立てをする」とまくし立てる。之に對して檢事の論駁は甚だ穩かなものだが、辯護士の辯論は益〻猛烈になつて來て、散々に日本人の惡口を述べて、「日本人は常にアンデザイアブル、ビープル（歡迎すべからざる人民）と稱へられて居るが、實に其通りで法廷へ來てまで尙矛盾や虛僞の言を弄んで居る。實に言語道斷の事と言はねばならぬ。判事は、それでも尙證人の言を信用せらるゝか」と言つて、チロリと吾々を睨んで席に著く。アゝ腹が立つ。己れ能くも其那に吾々を侮辱したな。エイ何うして呉れやう、と思つても、證人では物が言へぬから、恨を

様だ〳〵、其の通り。それに寸分違はぬ」と言ふと、黑奴は嘲るやうな顏をして眺めて居た。腹の中では「オイ黃色い若い衆、お前方はブル〳〵と戰慄へて居たんぢやないか。何うして其那に判然見別が著いたかエ」と言つてるんだらう。若し其奴が法廷で糞度胸を据ゑて斯那言を云つたなら、證人の拙者は頭を搔いて判事に謝罪らなければならぬ。

五一　珍無類の强盗裁判

强盗は皆捕まつた。總べて四人で犯罪の當日中に捕つて了つたから取つた金は皆四人で分配して持つて居る。合計七百二十四弗で、金の種類は吾々が取られたものと皆一致して居る。もう到底免るゝ餘地が無いが、强盗は官選の辯護人附で頑强に犯罪事實を否認するから、

つた。實に圖々しい奴等だ。横著千萬な曲者だ。斯那奴こそホントウにリンチを加へても飽足らない奴だと、リンチを非難して居た者が急にリンチを遣りたがるやうになる。衆怨は强盜の身に集つて、早く捕縛されて來れば宜いと思つて待つて居ると、下手より見覺えのある自働車が砂を蹴立てゝ疾驅して來る。人間が四人、確かに二人多いから獲物に相違無いと見て居ると、果して其通り黑奴を一匹載せて、外にルーミスの巡査が乘つて居る。ペンリンの巡査は予の顏を見ると直に「此男の顏を見たことがあるか」と訊く。見覺えのある筈は無いが、「然り左樣だ、ある、昨夜見た。そして其奴は覆面して大きなピストルを持つて居た」と、出鱈目を言つて遣ると、巡査は四十四番型の長いピストルを出し、黑い布片を出して黑奴の顏に冠せて見せた。御手の筋と言いたい位に、出鱈目に言つた事が好く當つて居るから、急に豪くなつて「左

居ると、微かに一發鐵砲の音がする。續いて二發、三發と、都合十五六發も爆竹を鳴らすやうに響いて來る。ソレ擊合が始まつた。加勢に行けと、もう先刻の事は忘れたやうに急に元氣著いて、近邊の日本人の家からピストルを取寄せるやら、獵銃を借出すやらして今にも飛出さうとするから、「マア暫らく待て」と一同を制して夜明まで待つことにした。

夜が明けてから先刻鐵砲の音がした方向へ行くと、人が一杯集つてワイ〳〵と騷いで居るから、樣子を聞くと、三四時間前にルーミス（ベンリンの隣村）の日本人の下宿屋へ四人の强盜が押込んで四百弗の金を强奪して停車場附近まで來たが、非常線に掛かつて土地の巡査と擊合をして逃げて行つたのだと云ふ。ベンリンの宿屋で聞いた音は其時擊合つた銃聲であつたと知れた。そして彼等强盜はベンリンで吾々を襲つた上に、尙ルーミスで外の日本人を襲つて金を强奪したのであ

言ふかも知れぬ。

強盗が退去してから、一同暖爐の前に陣取つて被害の高を調べる。一番餘計に取られたのは五十六弗二十五仙で次は三十五弗、三番目が拙者で三十弗五十仙。以下十一人で、合計三百二十七弗四十仙。外に行掛の駄賃にピストルを一挺掻浚つて行つたことまで判明した。其處で予は一同に指圖して先づ巡査の許へ急使を走らせると、間拔けた面をして巡査が遣つて來た。其處で簡單に被害の顚末を話して、「早く賊を捕へて呉れ。捕へたら相當に御禮をする」と言ふと、巡査は喜んで飛出して行つた。何處までも現金な奴だ。凡そ三十分程經つと巡査はシエリフ（警部長）を伴れて自働車に乘つて遣つて來て、詳しく事情を訊いて出て行つた。シエリフは旋條銃、巡査は獵銃を携帶して居つたが、若し強盗に出會して擊合をしたら素晴しいもんだらうと話をして

猛獣に襲はれた羊のやうに小さくなつて居る。やがて森寂と静になつて了つたが、恐る〳〵眼を開けて見ると、もう曲者の影は無い。それでもまだ隣室に居るかも知れぬからと、小さな聲で隣の寢臺に寢て居る男に、「もうホールドアップは行つたらうか」と訊くと、其男は「まだ隣室に居るかも知れぬ」と答へて、一寸耳を澄ましながら一聲「エヘーン」と呼ぶ。返事が無い。更に一聲「エヘーン」と叫ぶ。復返事が無い。「オイ泥棒は退去たか」と復聲を掛けると、隣室から「もう泥棒は居ないよー」と返事をする。此問答を聽いて、各部屋に居る人夫供はバタ〳〵と足音を立てゝ廊下へ飛出したが、「ソレ泥棒だ！逃がすな捕へろ〳〵」と大きな聲で怒鳴り立てる。泥棒が一哩程も遠方へ行つてから捕へろも無いもんだ。滑稽千萬な奴等だと、寢臺の上で腹を撚る。斯那ことを聞いたら先方では「オイ、ジャップ先生、此處まで御座れ。甘酒進上だ」などと

氣が著いたから、眼を閉ぢて眠つた風をして居ると、强盜は頻りに物を搜索すやうである。凡そ五六分も經つたかと思ふ頃、ソッと眼を開けて見ると件の曲者は三つ四つ先方の寢臺の方へ行つて立つて居る。そして戸口には同じく覆面した曲者が不動の姿勢で、手にピカ〳〵した物を持つて立つて居る。步兵を掩護する砲兵と云つたやうな形であるが、若し抵抗したら容赦無く四十四番の大きい奴で、一發御見舞申さうと云ふんだらう。寢て居る日本人は恐怖の餘り誰一人聲を立てる者が無い。此光景を見て安心したか、件の曲者は悠々として上衣やズボンの衣囊を探つて、白銅貨一つ漏さず自分の衣囊の中へ搔込んで了ふ。餘りに悠然として落著き拂つて仕事をして居る爲に、一分の時間が此方には一時間よりも長い氣がする。ア、早く歸つて呉れゝば宜い。早く去つて呉れるやうにと、平素は大言壯語して居る日本人も、

ら可笑しい。

忘れもせぬ明治四十三年の十月十五日、獵銃を肩にしてメリケン河の上流へと出獵した歸途、加州のペンリンと云ふ處へ立寄つて日本人の下宿屋へ泊り込んだ。處が其晩は何だか日本人の小作人の間に紛爭があつて、大勢下宿屋へ集つて談判をして居たが、結局和解が出來たと見えて、歸る奴はドン〳〵歸つて行つたが、十五六人は泊り込んで了つた。不潔な狹い部屋へ六つから寢臺を並べて寢るんだから堪らない。神經が興奮して能く寢著かれない。隣室の時計が二時を告げる音を聞いてから、暫く經つて少しウツ〳〵したかと思ふと、何だか頭に觸るものがある。ハツと眼を醒まして見ると、帽子を眼深に冠つて黑い布片で覆面した奴が、眼の前へピカツと光る物を差著けて靜かにしろツと底力のある聲で叱り著ける。扨ては强盜が押込んで來たなと、

だが、先づホールドアップに出會したら、直に手を擧げること。それから衣囊には何時でも三四弗位の銀貨を所持することだ。金貨を澤山に持つて居れば一層申分は無いが、それは先樣には御都合でも、此方に大きに不都合だ。夜の外出には金貨は一切所持せぬに限る。其處で強盜は衣囊に手を入れて銀貨を三四弗掴めば空手にはならぬから、少いながらも滿足して行くが、若し一文も無いか、有つても二十五仙や五十仙位だと、腹を立て、「エイ此文無し野郎奴、飛んだ暇潰しをさせやがつた」と、自分の惡いことは棚へ上げて置いて、ピストルの柄なんかで、頭を二つ三つ御見舞申すなどは好くある例だ。衣囊を搔探られたり、頭を打毆られたりしては間尺に合はぬが、先方が泥棒だから不平を並べたつて仕方が無い。斯うホールドアップ論を滔々と遣る處は、什麼にも心得があるやうだが、イザ、ホールドアップに遭ふと云ふと、狼狽するか

五〇　ホールドアップ

米國の町を歩いて人通りの無い處へ來ると、帽子を眼深に冠つて、ハンケチで鼻まで包んだ奴が、突然眼の前に現はれて、「ホールドアップ」と言ひながら、ニューッとピストルを胸へ差著ける奴がある。其處で此方の腕に覺えがあつて、ヤッと掛聲諸共强盜の利腕を捕へて、宙に投げる位の武藝があつたら締めたものだが、少しばかりの藝を賴りにして、手出しをしやうものなら、生兵法は大傷のもと。直に一發胴の中へ御見舞を頂戴して、生命を捨てるやうなことになる。だから强盜に遭つたら、命ずるまゝに手を擧げて、望むまゝに何でも與へて遣るが宜しい。生命あつての物種だ。

米國へ行く者の大に心得て置くべきことは、强盜に遭つた時の覺悟

から、見物人は非常に趣味を以て見たが、今ではもう誰も彼も飽いて、ジゴマ式の活動寫眞になると人が見ない。要するに彼那寫眞は禁止をしなくつても、自然に人に見飽かれて了ふ。

貧弱なる日本の活動寫眞界では、フイルムを作るに、汽車汽船が使へず、肥大な馬が手に入らず。騎手がお粗末で乘方が型になつて居らず、資本が手薄と來て居るので、役者を汽車で遠出さすことが出來ず。結局自然の風色を背景として、手近に在る神社佛閣を舞臺にして、お粗末な畫を作つてお茶を濁して居るより外は無い。

ホールドアップの話をしたから、此處にホールドアップされた實驗談を書いて見やう。

や、旅客の所持金並に貴重品等を强奪する光景は、却々物凄いものがある。實物のホールドアップは毎年二度や三度は必ず列車を襲擊して荒療治をする事がある。詳しい事を書けば其筋の忌諱に觸れるから止めるけれども、太平洋沿岸から大陸を横斷する鐵道幹線が七本からあつて、何の線も七八哩位は人跡稀なる山中や、砂漠の中を通るのであるから、巧妙な方法を以て、列車の進行を妨害するホールドアップの惡戯を絕滅することは、不可能である。又ホールドアップは獨り列車を襲擊するのみならず、アリゾナ、ニューメキシコ邊に出沒して、合衆國の駐屯軍に送つて來る經理部の金櫃を强奪することがある。少數ながらも十數人の軍人が護送して來る金櫃を、横合から飛出して掠奪しやうとするのであるから、其の大仕掛と大膽なる事には一驚を喫せざるを得ない、而もそれが事實だ。其事實を活動寫眞に作つて見せるのだ

ら輸入する。それはイタラ、フィルム會社、エクレア會社、エム、バテー兄弟會社、ゴーモン會社外一社であるが、佛國で出來たフィルムは皆デゴ式で、寫眞の人物が貧乏臭くつて不景氣である。尤も近頃エム、バテーは米國に出張して、米國人の俳優を使つて撮影するから、立派なものが出來る。米國人は之で無ければ決して滿足しない。

米國では一時ジゴマ式の活動寫眞が非常に流行した。日本人はジゴマを見て非常に奇拔だと言つて驚いて居るが、吾輩は彼那ものには一向驚かぬ。米國にはあれ以上に斬新奇拔なものが澤山ある。併し米人はもう斯那ものには飽いて來たから、近頃は專ら小說的のフィルムを製造して居る。尤も以前活動寫眞が流行かけた時分には、カウボーイの情話とホールドアップで持切つて居た。ホールドアップが大陸の急行列車を襲擊して、郵便物や、ウエルスファーゴ通運會社の金櫃

犧牲者は翌朝監獄から刑場へ送られたが、從容として一糸も紊れず、踏む足も確かに斷頭臺の上に登り、鬼のやうに獰惡な首切人が今や斷首機に手を掛けんとするを、暫時と言つて推止め。旭に向つて心適くばかりに深呼吸をしてから、微笑を浮べて見物に向つて、「善事を爲す者は幸福なり。吾れ今善事を爲して此斷頭臺の露と消ゆ。死すとも更に遺憾無し」と言つて死に就く處で終了になつて居る。此フイルムは非常に米國人の喝采を博した。一體米國の活動寫眞には活辯なるものは一人も使はない。フイルムの中に處々に現はれ來る文字に依つて次の繪を想像するやうに出來て居る。此れは敎育が普及して居る結果である。活辯の口を借用しなければ見物が滿足しないと云ふ日本の活動寫眞界は、實に幼稚なものである。

米國の興行者が使つて居るフイルムは、米國製の外、主として佛國か

持添へて一滴の液をたらして相手の鼻に押當てたが、強烈な麻睡藥の爲に間も無く昏々と眠つて了ふ。其處で手早く自分の衣服と相手の衣服と著換へて牢番を呼ぶ。牢番は來て見ると、今しがた訪問したばかりの紳士が倒れて居るから、驚いて樣子を訊くと、「急病が起きて卒倒したと言ふから、牢番は其男の住所を訊いて、直に一人の同役を呼んで、二人で舁いで外へ出で、馬車に乘せて紳士の住宅へ送り屆けた。此時まで悲痛の爲に聲も嗄れ涙も盡きて床の上に倒れて居た新婦は、送られて來た戀人の顏を見て、夢かとばかりに驚き、且つ喜んで其胸に縋つて熱い接吻を交換する。正氣に復つた新郎は始めて樣子を知つて、戀人に再會した喜びと、犧牲となつて牢に居る助命者の身の上を念ふ悲しみの爲に胸を搔亂されたが、遂に決心をして新婦を携へて倫敦へ落延びる。

（下）

戀の成功者と失敗者とは雙兒と思はるゝ位に酷く似て居た。其處で失敗者は監禁されて、明朝は斷頭臺の露と消えんとする戀の成功者に向つて、「俺は假令戀に失敗しても孃の幸福を念ふ心に變りは無い。孃の爲に身を殺してもお前を助けて遣らねばならぬ。サア早く此俺の衣服を著變へて俺だと言つて此處を脫出して、孃と共に倫敦へ逃げて行け」と言つて、自分の衣服を脫がうとしたが、彼は「折角貴君の好意であるが、もう死ぬことに覺悟して居る。貴君は何卒孃と結婚して仲好く暮して呉れ」と言つて、何うしても應じないから、己が好意を受けて呉れぬ先方の强情に立腹して、齒噛みをしながら相手を凝視めて居たが、儼然と思案して相手の側へ身を寄せ、右手を持つて其首を抱きながら、手早く左手を衣囊の中に入れて小さな壜を取出し、右手にハンケチを

代の悲劇で、熱烈なる情話を寫したものである。其筋書を云ふと、佛國の或侯爵の爲に迫害を受けた或醫師の娘に二人の男子が戀した。一人は侯爵の甥で、一人は一平民である。處が競爭の結果侯爵の甥が發つたキユーピットの矢は、娘の心臟を射貫いて、兩人は芽出度く結婚をする。一人は失戀の爲に病氣になる。併し娘を想ふ心は變らなんだ。然るに結婚後間も無く新郎が貴族であると云ふ事が知れたので、巴里の暴民は新郎を捕へてバスチルの監獄へ投り込んだ。もう當然斷頭臺の露と消えることに極まつて居るから、新婦は死ぬばかりに泣き悲んだ。之を見た失戀の男は、戀の敵は憎くてならぬが、女の悲痛を目擊しては、敵を斷頭臺へ送るに忍びぬ。其處で彼女の爲に犧牲となることに決心して、一夜牢番に賄賂を使つて、新郎が監禁されて居る一室へと忍んで行つた。

ミッシッピーの大河を越えやうと思つて河の岸まで來たが、橋が中程から落ちて居る。其處で凡そ三丈もあらうと思はれる橋の上から馬諸共ザンブと河中に飛込んだ。決して馬の上に藁人形を著けて下へ落したのでは無い。此れは實地に其フィルムを調べた拙者が證明する。そして間諜はミッシッピーの濁流を對岸へ乘切つて林中へ沒したが、敵の騎兵は同じく河を渡つて後から追駈けて來る。敵の追跡愈〻急なりと見た間諜は、馬を走らせながら、左右から道の上へ手を出して居る木の枝へ手を掛けると見る間に、ヒラリと其上に上つて、木の葉の中に身を隱して了ふと云ふ奇拔な光景が寫してある。何うだ、日本の活動役者で此眞似が出來るか。

フィルムで一番長いのは、ヴイタグラフで拵へたツーシチースと云ふ三幕物で、之を全部見るには二時間位掛かる。此れは佛蘭西革命時

のフィルムを作る時には必ず役者を技師と共に一定の場所へ派遣する。例へば西班牙人に關する史劇ならば、加州のサンタバーバラとか、墨西哥のメキシコシチーとか、ヴエラクルーヅとかへ百人でも百五十人でも、要るだけの人數を送る。日本の活動寫眞會社のやうに、增上寺門前の場を清水寺で失敬するやうな卑吝垂れたことをしない。

更に驚くのは、活動寫眞に出る俳優の動作だが、それが餘りに眞に迫つて居るから實物としか思へない。セリッグ會社が南北戰爭最中の情話を仕組んで寫した長尺のフィルムがあるが、其中に或軍事探偵が危險を冒して敵地に入つた爲に、遂に發見せられ歩哨から亂射せられて右腕に一彈を受けたが、走り〳〵ハンケチで繃帶をして或民家まで逃げて來て、厩から馬を引出して來て、それに跨つて逃げると、歩哨の急報を聞いた敵の騎兵は五六人で、鐵砲を擊ちながら追跡する。間諜は

仕合を撮影する爲に、十五萬弗からの金を出した。然るに此仕合の實況を寫してフイルムを製造して、イザ全國各地の寄席へ送らうとしたら、各地の警察署では席亭の主人に嚴達して、其フイルムの使用を禁止した爲に、會社は一時非常に損失を蒙つたが、大會社の事だから、其那事位にはビクともしなかつた。一體米國の活動寫眞會社は非常に大資本を下して、驚くばかり多數の人員を傭つて居るが、就中セリッグとヴイタグラフとは、人員場所兩ながら驚くばかりの設備をして居る。此二者は相當に手腕のある役者を十數名常傭にして居るのみか、何百人と云ふ人間を蓄へて置いて演伎の術を敎授して居る。そして紐育附近に四五百町歩の控地があるが、其中には山もあり、河もあり、一寸した市街もあるから、それを背景にして、大仕掛の寫眞を取る。此れは、一寸日本では想像出來ぬことだ。のみならず、米國の活動寫眞會社は、史劇

掛けて居る。此光景を見て機敏な奴は、早くも俄普請の活動寫眞小屋を拵へて盛に客を引いた。それで活動寫眞のフイルムの需要が激增する。此需要に應せんが爲に、米國の各活動寫眞會社は大車輪になつて、役者を督勵してフイルムを製造した。米國の活動寫眞はエヂソン活動寫眞會社が始りで、後に四つの大會社が出來た。其會社の名は、

エヂソン、コムパニー

セリッグ、コムパニー

ヴイタグラフ、コムパニー、オブ、ニユーヨーク

ルピン、マニュフアクチユリング、コムパニー

ニユーヨーク、バワー、コムパニー

等である。此中初の三つが大い會社で、ヴイタグラフ、コムパニーの如きは明治四十三年にリノで興行したジエフリー對ジョンソンの拳闘

遺つて居た新聞經營の事業も漸々に實が入つて來た。其處で事業の傍ら、暇さへあれば田舍へ行つて農業の視察をする。別してユー、ミー、オールセーム（汝も吾も同じ人間）の移民社會を充分に研究する。移民でも精密に研究したら一科の學問が出來るが、此れは後日に讓る。

四九　活動寫眞

（上）

明治四十一年頃から、四十三四年に至る間は活動寫眞全盛時代で、米國の寄席は勿論、小さな芝居小屋は爭つて活動寫眞の興行をした。看客は何時も場に滿ちて、入場券を購ふ見物人は、恰も急行列車の三等客が、新橋驛の改札口に行列をして居るやうな案配に、興行場の入口に推

沿岸は愚か、亞米利加の何處にも御座んすまい」と力む。「成程恐入つた。こいつはお爺さんの言ふ通りだ」と、此も手帳の中へ書付ける。

沿岸第一の講釋で滿腹して了つた。もう此れで充分と電車の停留場まで送つて貰ひ、夕刻ロサンゼルスへ歸つて來た。洵にロサンゼルスは其名の如く天使の土地で、氣候は溫和で附近には數へ盡せぬ程名勝が多い。此地は是非一度見物して置く必要がある。況んやロサンゼルスの野菜大市場は日本人が支配して居ると云ふ位だから、日本人の狀態も一度視察して置く必要があると思つたが、切符の通用期限が切れ掛つて居るので、後日に讓つて其處を出立し、途中フレスノに一泊して桑港へ著いた。

*　*　*　*

日本へは暫らく歸らぬでも宜いことになつた。假りに腰を据ゑて

間あると思はつしやるか」と問ふから、「左樣さなあ、五十もあるかな」と答へると、「イヤ五十位ぢやない、八十七ある。そしてお前さんあの中にお婆さんがタッタ二人住んで居る切りでがすよ」と言ふ。成程驚いた。二人で八十七の部屋を占領して居るのは沿岸第一中の秀逸だ。此れもスッカリ氣に入つた。「オイお爺さん、まだ沿岸第一はあるかえ」と次を催促すると、お爺さんは前面の大空に聳ゆる高山を指さして、「あれが沿岸第一さ」と言ふ。「オイ戯談言つちや可けない。あれはマウント、ローぢやないか。彼那山ならば外に幾箇もある。タコマのマウント、レニヤは一萬八千呎あるし、加州のシャスタは一萬三千呎からあるぜ」と言ふと、案内の爺さんは「お前さんは恐ろしい氣の早い人だ。山の高さを言ふのぢやない。あの山の六千呎上まで電車が通るだよ。彼那高い處まで電車が通つて居るのは、瑞西の外にはマウントローばかりだ。

（下）

ブッシュガーデンを出てから、オレンジグローヴ街を通つて北へ行くと、途中に大きな二階建の家屋がある。馭者は其れを指して「沿岸第一の厩だ」と教へる。其建物は山縣公の椿山莊に在る洋館の五倍位ある。日本の大勳位公爵山縣有朋の君が住はせらるゝ館を五六倍した位の廣大な建物の中に、勿體無くも人間を乘せて走る馬奴が棲んで居るとは怪しからぬ。此れでは沿岸第一處か、世界第一だ。バサデナは却々偉い物があると實に氣に入つた。「オイ案内人、沿岸第一はまだあるかい」と言ふと、案内人は「待つて御座れ、お前さんが驚く物を見せて進せるから」と、或三階建の立派な家の前へ伴れて來て、「あれを見さつしやれ、大きな家で無いか」と言ふ。成程大きな家だ。「併し斯那家ならイーストで幾つも見た」と言ふと、案内人はそれを耳にも留めず「あの家は幾

れば一丈に三丈位の一枚ガラスで、周圍に蔦葛が這はしてある。此れや立派だ。確かに沿岸第一であらうと感心される。それから三町程行つてプッシユガーデンの門で車を停めて、案内人と一緒に中へ入つて見物する。此庭園は日比谷公園位あるが、米國の麥酒王でセントルイスの大富豪アムホイサー、ブッシユの所有で、一般公衆に觀覽を許して居る。實に壯麗なもので、沿岸第一の名を辱めない。此庭園は十二三人の日本人が庭師として管理をして居る。パサデナの富豪で日本人の庭師を傭つて居る者は少くはないが、庭師の上等な者になると、食事、部屋共主人持で月に七十五弗位取る者は珍しくない。若し夫婦共稼で女房が外で五十弗も取つて來れば、日本の勅任官位の收入になる。それで貯蓄高は月に百七八十圓位になるから大きい。此れも一つ沿岸第一の中に加へたい。

て居る。併し同じく此れ軍艦で、何國の領海に屬するとも、海は海なりと云ふに同じといふ意味である。併し戰勝國の人民から見れば、此句は實に痛快である。それは兎も角、八代將軍は桑港の米國人から大驩迎を受け、尋で南の方サンピードロに航して南加白人の驩迎をバサデナのホテルで受けることになつたが、其驩迎の舞踏會に招待を受けた白人の女供は、無禮にもジャップと一緒に舞踏はせぬと威張つて、將軍の一行を侮辱したと云ふ話である。生意氣な阿魔ッちよ供だ。日本人も斯う度々米人から侮辱されては堪らない。帳面を調べれやもう大分貸になつて居る。一度何とかして帳面を整理せにやなるまい。

ホテルの通りを南へ行つて左の方へ曲ると、オレンジローヴと云ふ町がある。其處に富豪の別莊が庭を接して建つて居る。案内の馭者は或一軒の家の窓を指して、「あれが沿岸第一の玻璃窓だ」と敎へる。見

ンドだ」と言ふ。別に大した建物ではないが、バサデナでは最初のホテルである。此ホテル、後に日本人の爲に忘るべからざる記念物となつた。確か明治四十三年の頃と記憶するが、日本政府は日米の親交を圖る爲に、練習艦隊を派遣した。司令官は時の海軍少將八代六郎氏で、威風堂々と二隻の軍艦を率ゐて桑港灣へ入つて來た。軍艦は阿蘇宗谷の二隻で、露國より分捕つたものだ。餘談ではあるが、入港の光景が非常に詩的で、桑港クロニクルは斯那なことを書いた。

The warship is a warship,
Whatever flag it flies;
As the sea is a sea,
Whatever seashore it washes.

此れは阿蘇宗谷共に元と露國の有であつたが、今では日章旗を掲げ

四八　何を見ても沿岸第一

（上）

暑熱の激しいアリゾナの砂漠を横斷して加州に入り、ロサンゼルスに著いたのは四日目の正午頃であつた。其處で早速ホテルに行つて湯を浴び、食後市中を見物して一時間ほど散歩して、其夜は手足を延ばしてユックリと寢み、翌日ホテルの前から電車に乘つて、ロサンゼルスの東九哩に在るバサデナの見物に出掛ける。バサデナは沿岸第一の別莊地で、米國東部の富豪が金に飽かして拵へた別莊が何百とある。先づバサデナに著いて電車から下りると、丁度一輛の馬車が客待をして居て、バサデナの案内をすると云ふから、値段を定めて之に乘る。馭者は一町程行つて右側に在るホテルを指さして、「之がホテル、メリーラ

うな顔をして主人の顔と引き較べる。また主人は自分の手にした寫眞を見て驚いて寵臣の顔を凝視める。寵臣の手にしたのは主人が女優とイチャ著いて居る處を撮影したもので、主人が手にしたのには、寵臣が露西亞へ行く汽車の中で、或一女優と接吻して居る處が寫してある。「それ御覽、眞御さんだつて其通りだ」と、寫眞を突著けられて、寵臣大敗北の體であつたが、流石は老功者「オイ娘、婿殿と接吻だ〳〵」と娘の手を取つて男の側へ伴れて來る。娘は元より男を嫌つて別れた譯でないから、恥しさうに男の側に寄添ふ。男もピタッと娘の側へ寄添つて、型の如く接吻した後、目出度く元の鞘に納まつた。筋書の大要は右の通りであるが、此れをミユージカル、コメデー（歌劇）で行くのだから一層面白い。

して居る」と、親子諸共法廷へ出て、離婚の裁判を受けたので、憐なる哉、婿殿は飽きも飽かれもせぬ女房と別れることになつた。

それから、數箇月後の事、或日某は知人朋友を招待して舞踏會を催した。最愛の女房に別れて快々として樂まざる彼には、舞踏會が何よりの慰籍であるから、彼の友人は彼を慰める爲に、一人も漏れなく出席して、賑やかに舞踏をした。やがて舞踏も酣なる頃、珍しくも皇帝の寵臣が其娘と共に遣つて來た。そして舞踏の有樣を見物して居る處へ、汽車の車掌が制服を著て遣つて來て、朗かな聲で「扨て貴女及紳士諸君、今度新發明の寫眞機械で汽車中に居る乘客男女の一擧一動を撮影することが出來るやうになりましたから、其見本を御目に掛けますと言つて、一枚の寫眞を主人に、他の一枚を寵臣に與へ、其他數十枚の寫眞を貴女紳士に渡して出て行つた。寵臣は手に持つた寫眞を見て、苦々しさ

普通のレヂーで無くて女優である。それで談話が其れから其れへと進んで、ツイ異な事になつたらしい。左無きだに一般乘客と仕切つたコムパートメントの中で、ブラインドが下してあるから中を窺ふ便も無い。それに男が好男子で女が美人。而も素人にあらぬ女優と來て居るから、無事に納まる道理が無い。それがツイ妻君の耳に入つたから堪らない。さう云ふ夫では末の見込が無いから、離緣をして貰はうと、火の玉のやうになつて實父の許へ駈込んで「御父上樣夫は斯々の不品行をしましたから、妾は勘忍出來ません。何うしても離緣をして戴きます、ネー御父上樣」と言ふと、子の可愛ゆい父の大官は「左樣か、婿殿は其那不行儀をしたか。不都合な奴だ。其那不都合な婿なら其方が離緣せぬと言つても、乃公が承知出來ない。苟且にも獨逸皇帝の恩寵を蒙つて居る拙者の娘を侮辱して居る。イヤ娘ぢやない、此拙者を侮辱

たことが原因で、其妻君が非常に腹を立てゝ離婚の訴訟を起した。大官は娘可愛さの餘りに大に婿の不都合を鳴らして法廷で爭つた結果、遂に娘の主張が徹つて離婚の宣告があつたが、後にその大官の斡旋で復縁すると云ふ筋書である。

歐洲大陸の列車には便利なコムパートメントがある。旅客の爲に非常に重寶なもので、彼等に慰安を與へるものには相違は無いが、同時に彼等をして不善事を爲さしむる機會を作るものである。此處に獨逸皇帝の寵臣の女婿某は或日汽車にて長途の旅行をして、コムパートメントの中から窓外の景色を眺めて居ると、或驛から一人の美人が乘込んで來た。而も一人旅のやうであるが、此方も丁度一人旅で、長途の旅行で無聊に苦む折柄、美人と對談して旅情を慰むるには復と得難き絶好の機會と、早速其美人をコムパートメントの中に請じた。美人は

た。此勇俠な處に女王が戀し、辯護士も女王と知らずに戀して、到頭グロースタルクまで尋ねて行つて、百難を排して入夫婚姻の手續に依つて、グロースタルクの王位に登つたと云ふ筋書だ。洵に屁のやうな小說だが、一平民より大統領になれると云ふ米國人は、米人なるが故に他國へ行つても、帝王になれると云ふ空想から、他愛も無く此小說を愛讀して居る。其處へ行くとウインスローで置いてけぼりを食はされたヒブルー先生は、鼻摘み者だけに小說の材料にもならず、車掌は猶太人のバースへ來て黑奴のボーイを指揮しながら、行李や雜物の始末をして、次のフラッグスタッフへ來た時に、ポンと車外へ投捨てた。

また白耳義で出來た脚本で、英語に譯してガールス、イン、ツレイン(汽車中の女)と云ふのが、英國や米國の劇場で時々演ぜられる。此れは獨逸皇帝の祕書官をして居る或大官の女婿が、汽車中で或女優と密會し

王とが、デンヴァーから紐育へ行く汽車の中で懇意になつて、打連立つて途中の或驛で下車して居る間に、列車が出立して了つた。女王は其汽車に乘損つては豫定の船に乘れぬ。國では卽位式の日が定まつて國民が待つて居るから、何うしても其船に乘らなければならぬ。女王は大に困却した。隨行して來た女王の家臣は列車の中で女王の身の上を心配し、家臣として斯う云ふ失態を演じては陛下及び人民に相濟まぬと歎き且つ悲しんだが、取殘された才子の辯護士は咄嗟に思案を定めた。丁度次の驛と此の驛との間は軌道が非常に屈曲して居る。次の驛では五分の停車時間がある。進行の時間と合して二十五分間あるから、間道を取つて駿足を驅つて行けば、確かに汽車に追著ける。ヨシ此少女を元の列車へ送り屆けやうと、直ちに二頭立の馬車を驅つて間道を走らせたが、幸にして二十四分で打たせて元の汽車に追著い

無情の列車は「へー左樣なら」とも言はずに走つて行く。昇降口に立つて見て居た紐育の若い衆はウイ〳〵と奇聲を發し、手を振つて「バイバイ(左樣なら)」と叫び「シエリーを頂戴します」と言つて冷笑かす。乘後れたのは氣の毒だが、排斥せられて居つた人物だけに、光景が什麼にも滑稽であつた。

四七　車中の喜劇

米國人は能く乘客を骨子とした小說を書く。汽車に乘合したが緣の端と云たやうなローマンスを書く。有名なグロースタルクと云ふ小說は米國の或少壯辯護士と、バルカン半島內の一小國の女王との戀物語を書いた小說で、此若い辯護士と歐洲の一平民の少女に扮した女

宛然傍若無人の態だから、奴さん四面楚歌の聲と云ふ處だが、一向平氣な者だ。

三日目の夕刻アリゾナのウィンスローへ著いた。停車二十分間と云ふので、ニューメキシコとアリゾナの砂漠を通つて、一日暑氣に中られた乘客は、一同ゾロ〳〵と汽車から下りて散歩する。猶太人の夫婦者も亦腕を組んで町の方へ行つた。奴さん乘損ひはしないか知ら、乘損つたら驚くだらうと、時計を見ながら散歩をして居ると、もう發車には二分しか間が無い。前方を見ると遙か二町程離れた處を歩いて來る。呑氣な奴等だ、とても二分には此處まで來られまいにと思つて見て居ると、車掌は「オールボー」と聲を掛ける。一同急いで乘車すると、間も無く列車は汽笛と共に徐々に進行を始めた。猶太人はと見れば手を擧げてワーワッと叫びながら、列車を目掛けて飛んで來たが、時既に遲し、

ら面白い道連が出來たと思つた。

猶太人の新夫婦は車内のレヂース、エンド、ゼントルメンから嫉視と侮蔑と嘲弄の標的となつた。男の客は「新夫婦が人前をも憚らずイチャ著くから可かん」と言ふ。女の客は「彼等猶太人は餘りに野卑だから可けない」と非難する。それに彼等は大きな旅行鞄の中から、シェリー酒を出しては飲み、出しては飲みして居る。併し夫婦で見せびらかして飲むのも如何と思つたか、左側に居る若い衆に洋盃を差して、「一つ如何か」と勸める。甲は「ノー、サンクス（欲しく無い）」と捨てゝやるやうに言ふ。乙も「アイ、ドン、ケア」と平に辭退に及ぶと、後を向いて予に「一つ遣れ」と強ひるから、同じく辭退すると、それでは此方二人で頂載しやうかと、言はんばかりに夫婦で仲好く飲む。それが先づ一口飲んで半分程殘した奴を女房の唇へ當てゝ手づから飲まして遣るのだから恐入る。

云ふ二人の若い男は之を見て、我慢がしきれなくなつて、喫煙車の方へと逃げて行く。其れを追うて此方も喫煙車へ行くと、若い衆は予に向つて「何うだい、彼の猶太人は」と訊くから、「何うも朝から晩までイチヤ著いて、見て居られない」と答へると、甲の男は彼奴等は餘程デム、フール(馬鹿者)だ、宛然犬のやうな奴だ」と言ふ。犬とは好く出來た。人間ならもう少し他人の前と云ふことを辨へて居る筈だ。彼等は人間でもジユー類だけに下劣な眞似をすると言つても、此洒落は若い衆には通用しない。スルト乙の男は「一體ヒブルー(猶太人の事)は色に濃厚だ」と言ふ。此點は白人共通で、米國人は他人種のことを彼此批評する資格は無いから、笑ひながら「貴君方も時としては濃厚だらう」と言つて遣ると、乙は「お前は何うだ」と反問する。「日本人は色には頗る冷淡だ」と言ふと、「但しお前は此限りにあらずだらう」と冷評かす。二人共甚だ快活な男だか

だ。彼女をソッと盗み出して、立派な白人の家庭へ奉公をさして、五六年正當に稼がせて、金の三四千圓も出來たら、日本へ歸らせて、銀座の横町邊で煙草屋の店でも出させて後見をして遣つたら、兩親も嘸喜ぶだらうにと、下らぬ空想に耽つて居るうちに、電車は停車場へ著いた。

四六　猶太人の新夫婦

夕刻にカンサス、シチーを出立した。往路はプルマンで威張つて通つたが、歸途は一等下のツーリストを取つた。二等車だけに客種が落ちる。予のバースは幸に一人だが、其前には猶太人の若い夫婦が乘つて居る。新婚者と見えて折々お安く無い處を見せ付ける。併し自分だけは神妙に拜見をして居るが、左側のバースに居る紐育から來たと

切賣するのは勿體ない位だと思つたが、其女に向つて「お前は何縣の生れで名は何と云ふか」とも訊かれないから、談話を雜へながら樣子を見るに、廣島や九州邊の安種で無くつて、矢張り關東邊から來た者らしい。何うして米國へ來たものか女一人なら詳しく問うて見たいが、外に三人も男女が居ては訊きたいことがあつても何も訊かれない。其うちに女は食事を濟ましてサッサと奥へ行つて了ふ。もう彼等の營業時間が來たらしい。其處で此方も匆々に食事を濟まして、三十分程主人と話をして其處を出た。

停車場へ歸る道すがらツク〳〵日本醜業婦の勢力の偉大なるに感心した。彼等は世界到る處に其足跡を印して居る。孱弱い女の身で萬里の異境へ足を踏出して、各國の荒くれ男を相手に商賣して居る大膽さには感服せざるを得ない。それにしても彼の美人は惜しいもの

壜まで添へて出す。時は三時だが、「今頃食事をするのか」と訊くと、「これが吾々の朝飯だ」と言ふ。午後三時の朝飯は驚いた。多分晝飯が午後の八九時頃で、晩飯が午前の二三時頃であらう。「それでは女達はまだ御飯前だらう」と訊くと、「ヘイ左樣です」と言ふから、「それでは此處で一處に食べやう」と言ふと、男は聲を掛けて中に居る女を呼ぶ。却々出て來ない。それを無理に呼ぶと一人の女が出で來た。三十許りの肥滿つた醜い女だ。男はそれに向つて「オイ皆なに早く來るやうに言へ」と命ずると、肥滿女は癇高い聲を揚げて外の女を呼ぶ。聲に應じてまた一人の女が現はれて來て、默禮しながら、テーブルに著く。其處で數回の獻酬をして、オクデン以來の日本酒の快味を味つて居ると、一人の女が洋裝をして出て來た。和裝の二人の女に比ぶれば雪と墨、漁夫の娘と大家の令孃程の相違がある。ア、惜しい容貌だ。斯那美人を毛唐に

男は三十七八で人品賤しからず、醜業者には惜しい風采を有つて居る。その言葉を聽くと確かに關東邊の者らしい。談話が進むに伴れて安心したと見えて、種々のことを話す。彼は三人の女を伴れて、始めワシントン州のスポーケンからモンタナへ入り、それからサウス、ダコタに移り、次にミネアポリス、セントポール、オマハ等を經由してビッツバークへ行つて商賣をしたが、家賃が高くて却々引合はぬ。都合の好い日には一日に百五十弗位稼ぐことがあるが、其反對に惡い日には二十弗も取れぬことがある。それに病氣其他の事故で時々休業することがあるから、高い家賃を拂つたり、警察に附屆をしたりすると、殘る處が無いから、同地を引揚げて此處まで來たが、マア御蔭で何うか角うか遣つて居る」と言つて、自分の經歷談を非常に面白く話す。其間に「料理が出來たから御喫りなさい」と言つて、二三種の日本料理に日本酒の白

此方を見た男は非常に驚いて、用心深い眼を見張つたまゝ、庖丁の手を休めて居る。一人も日本人が居らぬ處へ天から降つたか、地から涌いたか、突然一人の日本人が裏口から覗き込んで來たんだから、驚いたのも無理は無い。自分は先づ彼等に安心させる爲に、「自分は決して怪しい者で無い。東から桑港へ歸る途中時間があつたから、市中見物をして居る間に、道を誤つて此處へ來たんだが、不圖日本語が中から聽えたから入つて來た。君達が驚くより自分の方が驚く位だ。マア一服させて呉れ」と言つて男の側へ行くと、男は稍〻安心したと見えて、椅子を出して「之へ掛けよ」と言ふ。椅子へ掛けて樣子を見るに、彼等は醜業者で、此處で商賣をして居るのだと云ふ事が直ぐわかつた。日本人が斯那處まで來て居るとは實に意外の事であつたから、「お前方は何うして斯那處へ來たか」と訊いて見た。

「ア、熟く寢た、今日は割合に涼しいねー」と、明瞭した日本語で言うて居る。矢ッ張り日本人だ。女の聲らしいが何者であらうと聲のする方へ近著いて行くと、塀の中から戸を開けて出て來た者がある。見れば一人の黑坊の女で怪訝な顏をして此方を眺めたが、何事か合點したと見えて「お前中へ入つて行け」と言ふから、其開戸を開けて中へ入つて行くと、二軒の家があつて、左の方の裏口にエープロンを掛けた日本人の男が、何か料理をして居るらしい。そして其横には一人の女が楊子を使ひながら立つて居るから「ヤア」と言葉を掛けると、男女共非常に愕いた顏をして此方を凝視めた。

手紙の返事は加州で受取る筈だ。

＊　＊　＊

カンサスシチーで市俄古から來る汽車を捕へるには、まだ三時間の時間がある。それに停車時間が四時間あるから、合せて七時間の餘裕がある。其間に市中を見物しやうと電車で、市中を乘廻はした。時計を見ればまだ四時間はある。其處で徒歩でブラリ〳〵と散歩をしながら遣つて來ると、板塀のある處へ出た。立停つて見ると前方には溝のやうなものがあつて通路が塞がれてある。ハテ可笑しい處へ來たと立ちながら考へて居ると、突然塀の中で、

「もう何時だらうねー」と、

日本語で言ふ者がある。アッ日本語のやうだ。誰か日本人が居る。ソレとも此方の聽誤りであるか知らんと耳を澄まして聽くと、

などはして居られぬと歸思急に動いて來た。他の一通は櫻面都に在る友人からの手紙で、或事業の計畫が成立つたから、早速來て共同で遣らんかと云ふことが書いてある。何れにしても、東部漫遊は中止しなければならぬと、ブローネル君に事情を明かし、一同に別離を告げて、デートンを出立してシンシンナチを素通りにし、セントルイスも夢の如くに通過して、往路と別線を取る爲にカンサス市まで遣つて來たが、同地へ著いた頃には氣が稍〻落著いた。薄情のやうであるが死者は最早追ふべからず、歸國せんでも濟めばユル〳〵米國に留る。若し急に歸國しなければならぬとあれば、桑港から歸るまでのことと思案を定めて、カンサスシチーから國許へ手紙を出して、實は今著手しやうと思つて居る事業がある。成るべくならば留つてそれが遣りたい。併し是非共歸らねばならぬと云ふなら歸ることにすると言つて遣つた。此

して、四五年引續きに之を行つて居るのに、遂に一人の犯人をも捕縛することが出來なんだといふ事は、米國が什麼に無警察の國であるかといふことを事實に證明するものであるが、兎に角キユー、クラックス、クランのやうなものが出て、リンチを遣るのは必ずしも惡くは無いと、ホール君益〻得意になる。

四四　希望の手紙と絶望の手紙

デートンに滯在すること二週間、もうソロ〳〵紐育へ行つても宜いと思つて居ると、或日一度に二通の手紙が來た。一通には封筒に黑框が著いて居るから、先づ見ぬ前から胸が動悸つく。恐る〳〵封を剪つて見ると岳父が心臟麻痺で死んだと云ふ報知である。もう米國漫遊

燒かれたり、財産を掠められたりした者が澤山あつた。何れも白衣覆面で馬に乘つて出沒するのであるから、何れが眞物で、何れが僞物であるか更に判然せぬ。其處でキユー、クラックス、クランは僞物退治の爲に非常に苦心をしたが、之が爲に各地に騷動を起して、一方からは大に良民の反感を買つた。

其後數年にして此奇怪なる祕密結社は烟の如く消失せて了つた。何人が其首領で、何人が其社員であつたか、關係者は口を緘んで語らないから、之を知る便が無い。國會は調査委員を設けて調査の結果、一千八百七十年より二年に亙つて、キユー、クラックス法律二種を發布し、十四卷の報告書を作成したが、一人も社員の捕縛された者が無かつたのは奇妙な事である。要するに其成立の目的の善惡は別問題として、キユー、クラックス、クランの如き祕密結社が出來て、勝手に人を逮捕處罰

へたアブラハム、リーンコーンは甚だ先見の明を缺いだものであると謂はなければならぬ。

今日に於ては彼等は唯投票の買收に應ずるのみであるが、其始めて投票權を與へられた當時には、白人の不利益を計るが爲に三重四重の投票をして、大に南部諸州の白人を苦しめた事がある。キユー、クラックス、クランは斯罪惡を掃蕩する爲に非常に奮鬪して、遂に其目的を達した。善良なる南部諸州の民は今尙此一事を以て、大にキユー、クラックス、クランを德として居る。成程之を聞けば運動費を三重四重に取る日本の選擧運動者を取締る爲には、確かに、キユー、クラックス、クランの如き者が必要である。

眞正のキユー、クラックス、クランは大に稱揚すべき者であるが、後に至つて僞物が出來た。其目的は放火、强盜、復讐等に在つて、富豪で家を

無いからだ。

法權無くして法律を執行したり、官憲にあらずして官憲以上の權力を行使するのであるから、キユー、クラックス、クランの仕事は元より不法たるを免れぬが、道德上の意味から言へば、彼等は非常に善事を行つた者であると謂はなければならぬと、ホール君は大に之を讃める。

（下）

黑奴は元來人類と言はんよりは獸類に近い方で、泥棒と野荒しを正當なる仕事のやうに心得て居る奴が、彼等の大半を占めて居る。特に彼等が米國の選擧界を腐蝕する事は夥しいもので、今日米國の選擧界の一半が非常に腐敗墮落して居るのは、無智文盲なる彼等の有權者があるからだ。南部十數州に在る黑奴の數は二千萬人近くあるが、彼等の大多數はロハでは何人にも投票しない。斯の如き者に投票權を與

併しキユー、クラックス、クランは無益に黑奴を襲擊するやうな事をせぬ。唯威嚴を示して、若し黑奴が生意氣にも多數を恃んで、白人の財產を官沒するやうなことをしたなら承知しないぞといふ暗示を與へる爲に、折々不意に單騎で黑奴の住宅へ來て、堂々たる雄姿を示して彼等の心膽を寒からしむる事があつた。尙感ずべき事は此祕密結社には、三人の裁判官があつて、事件を鄭重に審議して、惡漢だからとて直ちに判決を下すが如き輕卒な事をせぬ。そして宣告を下して死刑に處せんとする時、又は笞刑に處せんとする時には、裁判を行つた場所附近では遣らない。必ず遠方から執行者を呼寄せて、之に暗號を以て命令をする。斯うするのは一つは被告が犯罪を行つた地方で刑の執行をすれば、執行者の氣が立つて居るから、殘酷な取扱をする惧れがあるし、一つは遠方に居る人間なれば、後に至つて其人相を識別される心配が

び活動の方針を決議した。其要點は

（一）弱者及び無辜の良民を保護し、不正不義及び不法の待遇を受くる者を保護する事、並びに南軍に從軍したる兵士の寡婦及び孤兒を保護する事。

（二）合衆國の憲法及び其他の法律の勵行を計り、各州及び人民をして法律の利益に浴せしむる事。

（三）私有財産の不法官沒を防止し、及び人民に對して不法の裁判を行ふ事を防止する事。

此決議が通過すると共に迅速に實行に著手した結果、強盜、放火、及び殺人等を行ふ者は片ッ端から猛烈なる制裁を加へられた。同時に對白人策を協議する爲に集會を開いて居る黑奴は、屢々キユー、クラックス、クランの襲擊を受けて大に元氣を沮喪した。

會し、騎馬で巡廻しては一寸保安警察のやうな眞似をして居た。之が非常に成功して漸々會員の數も增加するやうになつたが、此處にキユー、クラツクス、クランが一層活動する事件が出來て來た。

（中）

南北戰爭後黑奴の地位は非常に昂まつて來た。從來法律上の人格を認められなかつた黑奴は立派に人格を享有することになり、或處では白人以上の勢力を振ふことになつた。特にサウス、キヤロライナ州にては、黑奴が法律の制定にまで干與することになり、且つ其數が非常に多かつた爲に白人は衆寡敵せず、黑奴の爲すが儘にされて居た。其結果黑奴の橫暴跋扈を制して遣らなければならぬといふ聲が、白人社會から喧しく起つて來たから、キユー、クラックス、クランはテンネッシーのナシュヴイル市に於て各地委員の大集會を催して、其主義綱領及

布を被ぶせてあるから、何物とも判別が著かぬ。唯怪物の胸に一尺位の黑字の紋があつて、圓にK、K、K、と染抜きがしてあるから、其文字だけが手掛りになつて、其怪物が現はれる時は大人も小供も、「それケー、ケーケーが來た」と言つて戰慄するのであつた。

國會の調査は不得要領に終つたが、此怪物の正體を研究する者は漸漸と要領を得て來て、其發端から活動の顚末まで明かになるやうになつた。丁度南北戰爭が濟んだ翌年、從軍兵士が十數名テンネッシーのプユラスキーにて落合つたことがあつたが、彼等は除隊されたばかりで仕事は無し、無聊に堪へぬから、何か始めやうぢやないかと、或晩或辯護士の宅に集つて密議の結果、一の祕密結社を拵へた。其結社の名をキユー、クラックス、クランと稱へ、社員は何事にも總べて、祕密を嚴守するといふ事を宣誓し、幽靈のやうな制服を製つて、一定の祕密場處に集

北の爭が白人種對黑奴の喧嘩になつた。處で其頃テンネッシー州の各地に夜な〳〵白衣を纏つた怪物が現はれて、黑奴を襲擊したり、惡事を働く不正人物等を殺戮したりして、大に土地の住民を騷がした事がある。怪物は何れも騎馬で隊を組んで歩くけれども、肅々として蹄の音も立てず、幽靈の如くスウッと現はれてスウッと消えて無くなるから、其正體を見屆けやうと思つても殆ど雲を掴むやうで薩張り解らぬ。其處で漸々噂が高くなつて遂に米國々會の問題となつて、調査委員まで設けられ、テンネッシーの住民まで召喚して取調べ、浩瀚な調書まで作つて見たが、更に其要領を得なんだ。併し甚だ不思議な事には因業な事をして、無辜の良民を苦しめた奴があると、不思議にも其怪物が見舞つて來て、情狀に依つては銃殺又は笞刑等を加へて行く。處が此の怪物は寬潤い袖の著いた白衣を纏ひ、顏は白頭巾で深く覆面し、馬も白

つて殺すことがあるが、それでも構はぬか」と言ふと。ホール君は「其處だ。其點は充分に吟味しなければならぬ。それには斯う言ふ面白い者がある」と、長々と語り出した。

四三　キユー、クラックス、クラン

懲惡的祕密結社

最早四十年も前の事で、自分がまだ學校に居て勉强して居る頃のことであつた。丁度世は南北戰爭が終つて平和になつたが、恰も火事場の跡のやうで鄉里のナッシュヴイル地方は實に荒涼たるものであつた。其當時黑奴は解放されて、法律上の人格を得たと言つて急に威張り出す、白人の住民は彼等の傲慢な態度に業を煮やすと云ふ騷ぎで、南

なるのは六かしく無い。金さへ使へば人殺しでも無罪で出て來られる。要は金力が上で、法律や裁判は其下だ。見給へ、ハリー、ソーは其妻エヴリンの情夫を銃殺した。併し彼は千萬弗からの金持だから、五十萬弗と云ふ大金を出して、桑港からデルマスと云ふ立派な辯護士を招んで辯護して貰つたから、何うやら精神病者として無罪になるらしい、斯那馬鹿げた事が何處にある。併しハリー、ソーは唯痴情の爲に殺人犯を行つた者に過ぎぬが、人を苦しめたり、無形の殺人罪を犯して平氣で居る奴がある。斯う云ふ奴は人民の手に掛けて、處分をして遣る必要がある。黒坊でも白人種でも更に區別が無い。貴君は米國にはリンチを加へて遣らにやならぬ惡人が充滿して居ることを知られまいが」と、ホール君は熱心にリンチの必要なる所以を說明する。其處で「宜しい解つた。リンチは必要だ。併しリンチは往々罪の無い人間を誤

のやうな穴を明けると云ふのは、實に殘忍極まることでは無いかと言ふと、ホール君は、「君はまだ米國を知らぬ」と、人を馬鹿にしたやうな言を云ふ。憚りながらこれでも米國に二年居る。船中でジエームス、ブライスのアメリカン、ニンモンウエルスを精讀して、シアトル上陸以來二箇年間實地研究をして居る拙者に向つて、米國を知らないと言ふのは、河童に向つてお前はまだ水を知らないと言ふやうなものだと、言つて遣りたい位だ。「モシ、ホール君、まだ米國を知らんと云ふのは何う云ふ譯です」と、言葉だけは冷靜に、腹でムッと怒つて訊くと、ホール君は「マア聽き給へ」と言つて話をする。ホール君は口癖のやうに「リッスン」とか「ルックヒア」と云ふ言を連發する男だ。

「マア御聽きなさい、米國の裁判は當にならぬ。警察は元より腐敗して居る。狡猾な奴は上手に法律の網を潜る。假令捕まつても無罪に

と言つて居る。スルとブローネル君も矢張り下等人間の仲間だ。またサウスキヤロライナ州選出の上院議員のヂルンマンは、黒奴は蟲の如き者であると罵倒して、演説の中にもゴッデーム、ニガー（黒奴の畜生奴）などと暴言を吐いて居る。博士ブーカー、ワシントンは黒奴唯一の學者で、ルーズヴエルトの親友だが、華盛頓へ來て宿屋に泊つた時に、宿の下女は「お前のやうな黒坊の寢室を掃除する位なら、暇を取つて外のホテルへ行く」と言つて恥辱を搔かせたさうだ。ブローネル君は此話をして少女の意氣大に愛すべしだ」などと讃めて居る。成程黒坊は下等だらう。併しリンチをする奴は尙下等だ。國に法律がある以上、また警察と裁判所がある以上、惡事を犯した黒奴の制裁は、宜しく官憲に一任して置くが可い。ヤレ、西瓜畑へ忍んで野荒しをしたと云つて、散彈を浴せ掛けたり、ヤレ、ホールドアップをしたと云つて、胴體に蜂の巣

國が二世紀も三世紀も保つて行けたら、西班牙などは千年の後まで世界の一等國で威張つて居られる筈であると、斯う痛罵して見たい。

四二　お前は米國を知らぬ

ホール君は一種の私刑論者である。彼はリンチが必要であると主張する。成程黒奴の多いテンネッシーの、ナシュヴィルから來たんだから黒奴を憎む餘りにリンチをするのが當然だと云ふ考を有つて居ると見える。シテ見ると、ホール君は有名なるジエームス、ブライスから言はせれば、下層階級に屬する人間かも知れぬ。又ブローネル君は黒奴は人間で無い、彼等に人類の待遇を與へるのは勿體無い、黒奴の人數を勘定するには、一人、二人と云はず、一匹二匹と云ふ方が適當だなど

といふばかりでなく、充分に嫌疑者を取調べず、往々無辜の良民を虐殺して、其遺族に謂れなき苦痛を與へるからだ。況んや彼等リンチを行ふ者共は市井の無賴漢か、無學文盲の低級兒で、他人の善惡邪正を判斷區別する資格の無い人間ばかりであるから、斯の如き者をして暴行を恣にさして置いたなら、遂には比較的安全な都市警察の保護の下に在る人民と雖も枕を高うして眠る事が出來なくなるであらう。斯う云ふ人道を無視した人間の多い米國だから、日本人を排斥して私慾を滿さうとする、惡德政治家が頻々と出て來るのである。米國を文明國と云ふのは、恐らくは米人自ら己惚れて云ふ言で、眞面目な歐洲人は決して左樣認めて居らぬ。特に英國人は米國人を以て世界最强國中で最も粗野下劣なる人民の集合して居る國であると罵倒して居る。予を以て言はしむれば、米國は新式の洋裝を施した野蠻國である。これで

沒却した野蠻陋劣の所爲であるから、學者、政治家並びに宗教家は擧つて之を排斥する。特に前大統領タフトの如きは千九百六年のエール大學の講演會に臨んで、米國各州の刑法施行の缺點を指摘した序に、最も激越の口調を以て、米國隨處に行はれて居るリンチの蠻風は、米國の文明に對する最大恥辱なりと論じた事があるが、獨りタフトのみならず、苟も常識を有つた人間は、一人としてリンチの不法を絕叫しない者は無い。

リンチも眞正の犯罪人に加へるなら、まだ幾何か恕す處があるが、眞の犯罪人でも何でも無く、唯嫌疑者であるといふ一點だけで、直ちに之を行ふ事がある。誤解と一旦の激憤の爲に、前後の思慮なく、貴重の人命を絕つと云ふ事は、文明の今日に於て實に赦すべからざる罪惡と言はねならぬ。リンチが大に非難されるのは、獨り其方法が殘忍である

搜索をしたが、遂に下手人が見著からなかつたと云ふ事である。

（下）

暴民がリンチを行はうとする時は、血に渴した阿弗利加の蠻民よりも尙ほ獰惡で、群を爲して罪人の留置されてある監獄を襲擊する事がある。併し警察では容易に罪人を渡さぬ。雲霞の如くに押寄せて來る暴民に對して必死に防衞を試るが、防げば防ぐ程暴民は激昂するばかりで、下手をすれば警察が暴民の敵となつて、正面から暴民の銃擊を受ける事になるから、後には抵抗を斷念して暴民の爲すがまゝに放任すると、暴民は決水の勢で牢舍の中へ侵入して來て罪人を强奪して行く。斯うなれば唯これ暴を行ふのみで、散々に弄り殺しにして、屍體に向つて有らん限りの侮辱を加へて、湛能するまで其場を去らない。

リンチは米國の法權を無視し、官憲を侮辱した不法の行爲で、人道を

馬で五人の男が乘込んで來て、自分はシエリフ（警察本部）の役人だが強盜の嫌疑者が捕まつたといふ報知を聞いたので、犯人を引取りに來た故引渡して呉れと請求した。其處で巡査は一應取調べて見たが、チャンと徽章を附けて居るし、身分證明書も所持して居るから、安心して犯人を引出して來て渡したが、萬一を慮かつて同行しやうと言ふと、それには及ばぬと言つて、強ひて拒絶つて、犯人を受取つて外へ出て行つたが、翌朝に及んで黑奴が慘殺されて居るといふ急報に接したので、巡査は早速現場へ駈著けて見ると、町から三哩程離れた畑の中で、前夜引渡した黑奴が銃で擊たれた上に、眼を抉られ鼻を削がれて死んで居たから、早速警察本部へ照會すると、誰も犯人を受取りに行つた者は無いと言ふ。扨てはシエリフと詐つて犯人を受取つて引卒して行く途中に、自分達で殺して了つたのだ。實に殘念な事をしたと言つて、兇行者の

此蠻風は今尙熄まず、南部諸州や落機地方で頻々と行はれて居る。リンチを受けるのは白人にもあるが、原則として黑奴に限られて居る傾きがある。白人でリンチを受けるのは强盜をして捕まつたり、婦人に非常な侮辱を加へて捕まつたりして、群集の憎しみが一時に集つた場合である。此例外を除けば、リンチの犧牲者は常に黑奴で、奴隷解放以來黑奴の地位が高まつたのが、南部白人の反感を增す原因を成して、黑奴が犯罪を行つたと知れたら、警官の手を待たず、直ちに隊を組んで其黑奴を追跡して行つて引捕へる。捕へられたら最後、其黑奴は獵師の手に掛つた猛獸の如くに處分されて了ふのである。

曾てインヂアナ州の某地で、或二人の黑奴が强盜の嫌疑で捕縛され、土地の留置場へ監禁された。其土地は人口三千許りで、警察の設備も不完全なもので、巡査が三人しか居なかつた。其處へ夕刻になつて騎

つたことを讀んだ。リンチは未開時代の遺風で、米國の新開地に集つて居る人間の中に犯罪人が出た時に、警察官も裁判官も無かつた場合には、群集が犯罪人を捕縛して、尋問の末に死刑に處して、片を著けて了ふ。死刑の方法は絞殺と銃殺であるが、犯罪の性質が殘忍なものである時には、死刑の方法も亦頗る殘酷で、首を縛つて大木の枝に吊して置いて、四方からピストルを亂發して、胴體に蜂の巣のやうな穴を明けて了ふ。更に一層殘酷な殺し方は駢馬の背に仰向けに縛著けて、馬の尻を叩いて、五里も十里も飛ばして遣つたり、暴れ馬を引張つて來て、犯人の首を縛つた繩の一端を馬に結著けて、地の上を引摺つたまゝに二里も三里も走らせる。甚しきは生きながら人體を燒く事がある。先祖代々基督教の教を受けて來た者が、斯ういふ殘酷な眞似をするから、米人は歐洲人から非常に批難を受けるのである。

強盗に遭つて金を取られたと言つて、警察へ訴へたから、警察では直ちに探偵を放つて、犯人を物色して、三人の嫌疑者を捕へて來た。白人が強盗に遭つて金を取られたことは事實であるが、其嫌疑者が果して眞の強盗であつたか何うだか解らぬが、兎に角捕縛されて警察へ護送されて行くのを見て、附近の白人は「それ強盗が捕まつた。遣著けて了へ」と叫んで後から從いて來た。始めは五六十人位であつたが、後には何百人と云ふ澤山な人數になつて、護送して行く巡査を包圍して其犯人を寄越せと請求したが、巡査が頑強に拒んで、兎も角黑奴を留置場へ伴れて行かうとしたから、群集は激昂して巡査を袋叩きにして、黑奴を強奪して引揚げて行つた。それから廣い野原へ引張つて來て、ピストルや獵銃で其黑奴を打殺して了つたと報道してある。

リンチは米國では左まで珍しくない。自分は屢〻新聞でリンチを行

活潑なアクセントを有つて居る英語を話す國で獨逸語を聞くのは、東京の眞中で麗島辯を耳に入れるやうなものだ。グリンバウム先生獨逸丸出しの英語を使ふので、款待ざること夥しい。之に反してホールは生粹の米人であり、而も座談に達して居るから、傍聽者を非常に悅ばせる。

四一　リンチ

（上）

或朝食事の後バラーで新聞を讀んで居ると、アルカンサスのパインブラフと云ふ處で數百人の一揆が三人の黑奴を捕へて私刑を加へたと云ふ電報が出て居る。詳しく讀むと、パインブラフで白人が三名の

て赴任して居た。賢い男だから出世をするだらう。今度桑港へ行つたら是非訪問して見やう」と樂しさうに言ふ。ブローネル君は餘り日本人には知られないが、心から日本に同情する一人で、確かに記憶に値する。

ブローネル君は毎日學校へ通勤するから、予は散歩をしたり、同宿の米人や獨逸人と往復して世間話をするを日課とする。グリンバウムは獨逸のミュンヘンの男で、商用の爲に米國へ來て滯在して居るが、之が頻りに獨逸の話をする。予がミュンヘンと言ふと、其發音は間違つて居る。あれはムンジンと發音しなければ可けない。丁度ロスアンゲレスをロサンゼルスと間違つて發音すると同じ事である」などと、ツマラぬ事に力を入れて話して居る。一體獨逸語と云ふ言葉は、發音から云ふと實に粗野なもので、確かに蠻調を帶びて居る。輕妙な發音と

コニャックを強い珈琲の中へ雜ぜて飲んで居たが、それが惡かつたと見えて、門弟にピアノを敎授して居る間に、心臟麻痺を起してピアノに倚掛つて往生したさうだ。妻子や兄弟も無かつたから、門弟や友人で葬式を出したさうだが、實に人生の最大悲慘事で、ベトーヘン（匈牙利の大音樂家）と好一對だね」と言つて眉を顰める。桑港に居た無名の親日黨は、僅か一年の間に凋落して了つたが、達者な二人が今斯うやつて邂逅して親交を溫めるのも盡せぬ緣があるからだらうと、互に手を取合つて悅ぶ。プローネル君は話頭を轉じて「時に今桑港に居る日本領事は誰かと訊くから、「小池張造君が總領事としてツイ此頃赴任したばかりだ」と言ふと、「ウム小池君か、彼なら能く知つて居る。彼の男がまだ小供の時に、自分達の關係して居た馬場へ來て、乘馬の稽古をして居たものだ。其後倫敦に行つて見ると、小池君は公使館の三等書記官になつ

面白がつて、聽きながら「それや殘念だつた」など、冷評かす。「時に貴君は加州で遭つた友人の消息は聞かぬか」と問ふと、ブローネル君は一々之を話す。先づエマソン大佐はフレスノヘラルドの主筆を半歲程遣つて居たが、社長と喧嘩して、辭職をして、今では紐育に居る。社長のカーキンスは、八十萬弗のシンヂケートが破產して、所有の新聞を皆他人に取られたが、ツイ此頃ホーキンスと僞名して北京へ行つたのが其男らしい。何うせ彼奴の事だから、袁世凱と結托して排日新聞でも起すだらう。上海に居るミラードや、朝鮮に居たハーバート等と、兄たり難く弟たり難しの代物さ。米國人で居ながら日本人を排斥するなんてデームシング（不埒な事）だと、日本人最員だけに憤慨する。「それでは例のピアニストの御爺さんは何うした」と訊くと、ブローネル君は「ウム彼か、彼は死んださうだ。何でもエマソンの話に依ると、死ぬ前大分强烈な

だから、初對面の晩から市が榮える。四人がパラーへ行つて互に談笑をして居ると、一人の小男が入つて來た。年齡は四十五六にもなるだらう、却々愛嬌のある男だが、丈は五尺位しかない。此家の主人で郵便局の雇書記をして居ると云ふ。此れが一寸予に挨拶し、外の三人にも叮嚀に物を言つて奥の方へ退く。後姿を見ると、眞に蚤の夫婦で、女房に比ぶれば、三分の一位しか無い。若し女房の逆鱗に觸れたら、襟首を掴んで三尺も宙に吊上げられる方だらう。

四〇　親日黨の凋落

ブローネル君の部屋へ退いてから、一別以來の事を詳細に話す。特にミネアポリスの一件を誇張を著けて話すと、ブローネル君は非常に

位置に在つて、それに櫻面都を合併した位のものである。ブローネル君は此狹い土地へ來て相當に幅を利かして居るらしい。

夕刻には二十人の人が一堂に集つて食事をする。老人もあれば若い者も居る。又婆さんもあれば娘も居る。五人は止宿者で他の十五人は外より來て食事をするばかりだ。外來者は一週間四弗で、食事が出來るから廉いものだ。ブローネル君は月三十弗で下宿をして居る。加州や落機地方に比ぶれば物價は非常に廉である。食事が濟めば外來者は皆歸つて行く。一人の止宿人は二階へ上がり、予とブローネル君外二人の止宿人は揃つてバラーへ行く。一人は六十許りの男で、獨逸人で名はグリンバウム、他の一人はテンネッシーのナシュヴイルの男で、ホールと呼ぶ。年齡は五十四五になるだらう。兩人共却々好く喋る。それにブローネル君が達辯家で、予が廻らぬ舌で相當に喋る方

早速サンドウイッチを頰張りながら、一別以來の話をする。併し話は却々盡きず、疲勞して居るからと云ふので、予の部屋にと定められた別室に退いて寢床に入つた。翌朝食事のテーブルに著くと、ブローネル君は止宿人の誰彼に紹介する。豫て好い吹聽をして置いて呉れたと見えて、何れも予に向つて鄭重に挨拶をする。それから食事が終るとブローネル君と一緒に、羅甸語學校に行つて參觀する。彼は此學校で數學と地理を敎授して居るが、年俸は驚く勿れタッタ九百弗で、安値此上も無い。月七十五弗では隨分苦しからうが、本人は一向平氣なもので、暇があれば切々と何か書いて、種々な新聞雜誌に寄書しては、月給以上の金を取つて安樂に暮して居る。學校の參觀を濟まして數多の職員に紹介されてから、一人で市中へ出て見物すると、市街は案外に狹い。面積は桑港の六分の一位のもので、加州のスタクトンと云つたやうな

から三軒目の家の前へ來ると馬車が停つて、ブローネル君がまづ先に下りて馬を繋ぐ。それから予も續いて下りると、ブローネル君は一つのスーツケースを持つて階段を上つて家の中へ行くから、其後からスーツケースを右手に提げて隨いて行くと、年齢は三十五六位の、ブローネル君と夫婦にしたらば似合ふだらうと思はるゝ肥大な女が出て來て挨拶をする。此れが此家の主婦で、ミセス、ガードナーと云ふのださうな。獨身者のブローネル君は相も變らず下宿生活をして居るのである。

二階へ上つてブローネル君の部屋へ行くと、直に彼の注意で湯が出て來て居ると云ふから、早速湯に入る。其間にブローネル君は下へ行て、馬車の始末をして部屋へ歸つて來たが、湯から出て來ると部屋のデスクの上にサンドウイッチにウイスキーと曹達水が添へて置いてある。

斯那種々な話を聞いたり聞かせたりして、其處を立つて再會を約して、アイ君と別れた。そして其翌日の朝市俄古を出立してデートンに向つた。

三九　安値な教授殿

其夜デートンへ著くと、肥大なるブローネル君がチャーンと、停車場へ出迎へに來て居て、汽車より下りる予の姿を見ると、手を擧げながら「萬歲」と言ふ。何時に變らぬ元氣の好い男だ。熟く見ると色も白くなつて居るし、服裝も實に立派なものだ。頭髮の禿具合や前面から見た處など、酷くブライアンに似て居る。停車場から馬車に乘つて二十分程行くと、閑靜な町があつて、庭の廣い家が澤山並んで居る。或町の角

男を冷遇する。果ては愛憎盡かしを言ふ。のみならずお前と夫婦約束をしたが、今日限り取消しだと絶縁の宣告をして、ブイと別室の方へ行つて了つた。女に惚拔いて居た令息は、女の變心を聞いて烈火の如く腹を立て、宿へ歸つて來てピストルを持つて外出しやうとしたが、豫て其擧動を監視して居た後見役は抱留めて、先づピストルを奪取り、アイ書記生を招んで坊チャンを料理店まで引張出して、二人して懇々と說諭をした。坊チャンは最早女に未練は無いが、欺されたが口惜しい。何とかして復讐して遣りたいと言つて駄々を捏ねるから、「傾城に眞實無し」と云ふ事は日本人も白人も同一だ。それを賢明なる貴君が御存じないとは、坊チャン何うしたんですなどと、叱つたり持上げたりして、漸くにして坊チャンを納得さして、其翌日直に市俄古を立つて歸途に著いたさうだ。

歐洲の美人を見て有頂天になり、或は巴里の月、倫敦の花と眺め飽かして米國に來て見れば、此處新世界の花は舊世界の花に比べて、また一段と異な處があると、紐育や華盛頓で遊び暮らして、飽かぬ別離を惜んで、市俄古へ來て二週間ほど滯在して居る間に、坊チャンには第二十六街の去る處で妙な深間が出來たが、兩者の關係は益〻濃厚になつて、女は男を離しともないと言つて獅嚙著けば、男もお前に別れては日本へ歸れぬと言つて、手放しで泣くと云ふ騒ぎ。後見役は旅行の日限が切れるから早く歸へらうと急立てゝも、いつかな動かぬ大盤石。お前歸りたければ自分一人先へ歸れと言つて動かぬ。二週間の滯在豫定が一月にもなつた。其處で後見役は此上は兵粮責にして還すに如かずと、固く財布の紐を締めて錢を出さぬ。領事も後見役からの依頼があるので金を貸さぬ。其處で金の切目が縁の切目と云ふ遊里の憲法通り、女は

コテーヂインへ行つて予に晝飯を饗應する。雙方共飲ける口だから混成酒や葡萄酒をチャンポンに飲んだので、陶然として醉つて來た。談話はそれからそれへと進んで、不圖同窓の某法學士の事に及ぶと、「ウム彼は昨年富豪の△△家の悴の御伴をして市俄古へ來たが、其富豪の悴と云ふのが活劇を演じ掛けたので大に弱つた事があつたと話す。併し話は極他愛も無いことであるが、坊チャン一時は駄々を捏ねて手に負へなんだよと、語出した話を聞くと斯うだ。

△△家の令息もモウ二十四五にもなられたから、一度歐米漫遊をして置くのも宜からうと云ふので、主人の男爵からの勸めがあり、本人の令息も元より其希望があつたので、信任のある部下の某支店長を、後見役として二人で出立させた。兩人共始めての洋行であるし、令息は世間見ずの坊チャンで、後見役はまだ三十六七の男盛りと來て居るから、

たのは實は支那人の子供だつたと言つて辯解しても許して呉れぬ。市俄古に居なければ彼那奴等に遭ふ心配は無いからと、其翌朝下宿を引拂つて下町のホテルに移り、次の日を待つてデートンへ向けて出發することに決定た。

三八　欺されたが悔しい

ホテルに引越すや否や、ツイ近處に在る商業會議所構内の第七階に在る日本領事館を訪問する。領事では最も古顔の清水精三郎君は留守とあつて、書記生のアイ君に面會する。書記生の中にも稀に見る快活な男で傍若無人に不平談を遣る。ツイ一見舊知の如くなつて二三時間話込んだが、アイ君は折角の珍客だから、敬意を表しやうと言つて、

書を強奪つた奴まで席を離れて來て握手を求める。熊でも摑み殺すやうな、恐ろしい太い手をして居るが、平氣を裝つて二三度打揮りながら、其奴の顏を熟く見ると、飽くまで獰猛な面付をして、眼は鷲のやうに光つて居る。これが婆の情夫で、一座の取締役でも勤めて居るのかも知れぬと思つたから、其奴に向つて「自分は何町の何番戸で二階を上つて、左へ突當つた部屋に居るから、用事があつたら何時でも尋ねて來い」と言つて、下へ下りて往來へ出て、ホッと呼息を吐いた。虎口を脫した感とは此れであらう。

ア、實に驚いた。ホントウに恐かつた。市俄古の危險區域と知らずに、飛んだ處へ足踏みをしたが、先づ身體に怪我が無かつたのが、何より幸福だつた。併し市俄古に居ては、彼奴等に遭ふかも知れぬ。遭つた時市俄古に日本人の子供は一人も居ない。日本人の小供と思つ

ては大變だと思つたから、決意したやうな顔をして、「宜しい承知した。併し一人百弗では廉い。五百弗呉れたら屹度三人の子供を引張つて來る。若し二人であつたら三百五十弗、一人であつたら二百弗呉れ」と言つて遣ると、婆は「二人なら三百弗、一人なら百五十弗出さう」と言ふ。其處で話は決定つたから歸らうと思つたが、溫順しく歸らうと言へば必ず復何那難題を吹掛けるかも知れぬ。宜しく機先を制すに如かずと思つて、「オイお婆さん、俺も危險い無慈悲な仕事をするんだから、却々骨が折れる。少し著手金代りに小遣を貸して貰ひたいが」と言ふと、婆はヂツと予の顔を凝視めて「著手金を出さんでも、お前が明晩にも子供を伴れて來れば、其子供と引換へに現金を渡して遣るから、金のことは心配せんでも可い。それよりも早く小供を伴れて來る工夫をして呉れよ」と言ふ。「それでは引受けた」と言つて婆と握手をすると、最前繪葉

つもりであらう。隣の部屋にゴロ〳〵して居る娘達も、いづれ婆が誘拐して來て養育ねたものに相違あるまい。實に惡い奴だ。それに人もあらうに、此俺に日本人の子供を誘拐して來いッて、人を馬鹿にして居やがる。貴樣達には何と見えるか知らんが、俺は立派な日本の紳士だ。貴樣等のやうな下等人間と同席するやうな、安ッぽい人間で無いぞと言つて遣りたいが、情無い哉、彼等の眼には子供を誘拐でもしさうな人間と見えるらしい。一人百弗の報酬を呉れて遣つたら、喜び勇んで此沒人道の仕事をする適任者と心得て居るらしい。そして子供を攫つて伴れて來たら、子供を强奪つて一昨日來いてんだらう。ホントウに人を甘く見て居やがる。が、此處で斷然否と言ふと、何う云ふ無理難題を吹掛けるかも知れぬ。此儘俺を捕虜にして、大陸の町から町を巡廻して歩く、ヂプシイの雜人足にして扱使ふかも知れぬ。さうなつ

に當てゝグッと飲乾したから、婆さんは怒つて、「何だ、貴樣は俺の酒を默つて飲みやがつて」と怒鳴ると、其奴は「可いよ婆さん、俺が後で買つて來るから」と言つて平氣で復骨牌を遊んで居る。

（下）

婆さんは續けて三杯程ウイスキーを飲んでから予に向ひ、「何處かに日本人の子供は居ないか、男と女の子が一人宛欲しいが世話して呉れぬか、其代りお前に二百弗遣るから伴れて來い。子供と引換へに金を遣るから」と言ふ。ハテ日本人の子供を何うするだらう。好く支那人が日本から子供を攫つて行くと云ふことを聞いて居るが、事情を知らぬ者は子供の生膽を取つて藥にすると言ふが、眞逆其那亂暴な眞似もしまい。多分遊藝を仕込んで金儲けの種に使ふか、左も無くば暫時養育して、醜業者の手に渡して了ふんだらう。婆も多分遊藝の種に使ふ

言つたら、必ず素ッ裸にして檢査をするかも知れぬ。ズボンの衣嚢には一弗五六十仙ある切りだが、其れを全部取られては宿へ歸る電車賃が無い。一弗五十仙は遣るが、十仙だけ殘して呉れと哀訴歎願して、此場を遁れるに如かずと思案して、婆さんに向つて「何う云ふ用談があるか」と問ふと、婆さんは「マア其處にお掛け」と言ふ。不勝々々に椅子に腰を掛けると、婆さんは次の部屋に居る女に命じて、何か持つて來いと言ふ。聲に應じて一人の女は下へ下りて行つたが、直に上つて來て、婆さんの前へ出すものを見ると、何か酒の壜らしい。婆さんは受取つて、小さな洋盃を前に並べて酒を注ぎ、自分の分にも注いで、「サア一杯飲め」と勸める。强烈なウイスキーの香が鼻を衝く。「俺は酒は不調法だから折角だが御免を蒙る」と言つて辭退すると、テーブルの此方側で骨牌を遊んで居た奴は、ツト猿臂を延して、手に宛てた洋盃を取つて、自分の口

端に居た奴が、「マア、チョッと見せよ」と言つて横から強奪つて、手早く七八枚分を衣嚢に入れて了つて、右の衣嚢から五仙の白銅貨を出してポンとテーブルの上に置いて、「サア代金を取つて行け」と言ひながら、殘りの繪端書を床の上へ投著けた。己れ無禮な奴め、ミネアポリスで親しくして居たミルドレッド孃にさへ三枚しか遣らなかつたものを、よくも其那事をしやがつたな。ヨシ目に物見せて呉れんと、其奴の襟首を掴んで、ヤッと掛聲諸共、飜筋斗打たせて床の上へ投著けて、殘る奴等を一々手毬に取つて片ッ端から投著けて遣りたいが、扨て生憎と弘道館免許の伎倆は無い。云はゞ此方は箱根の山で雲助に包圍された旅商人の如きものだ。所詮溫順しくして歸るに如かずと、床の上の繪端書を拾つて衣嚢の中に納めて、其處を立たうとすると、婆さんは「マア待て、相談がある」と言ふ。今度は金を貸せか、金は生憎と持合せが無いがと

掛けて、百五十弗の處を百弗まで値切らせて、ポンと手を拍つことにしやうかと、咄嗟の際に思案して「五弗だ」と言ふと、婆さんは「三十枚でか」と訊くから、「一枚が五弗だ」とキツパリ答へる。「ナニ五弗？斯那物が一枚五弗だつて」と、婆さん驚いて、後を向いて手に持つて居た繪端書をテーブルの此方に居る男の眼の前へ差著けると、男は手に受けて五六枚の繪を見て、「何だ、斯那つまらないもの」と言つて次の男に渡す。次の男は亦其次へ順々に廻はしたが、向側に居た一人の男は、此方を向いて「一枚五仙で澤山だ。全部で一弗二十五仙にするなら買つて遣る」と言ふ。聯合艦隊司令長官として、波爾的艦隊を全滅さした世界の勇將、トラファルガーのネルソンと共に、古今の二大偉人と云はれた東郷大將の記念繪端書を、一枚五仙とは失敬な事を云ふと、腹が立つたから、「宜しいそれでは買つて貰はぬ」と、起つて行つて其繪端書を取らうとすると、左の

いた態度を示しながら、約束に依つて訪問ねて來たと言つて、新聞紙の包みを解いて畫と繪端書を出してテーブルの上に置くと、婆さんは取上げて烏の畫を見たが、一向趣味が無いと云つた風に、直にテーブルの上へ置いて、一枚々々に繪端書を點檢するが、視力の强い婆さんと見えて眼鏡無しで平氣で見て居る。やがて見終つて「全部皆買ふが、幾何にして呉れるか」と訊く。成程買ふ氣があると見える。それなら何も心配するに及ばなんだと、背景の物凄いのに、怯氣を起した自分の臆病さ加減が可笑しくなつたが、扨て値段を何うしたもんだらう。一枚一弗とすると三十弗だが、あの記念繪端書の、遞信省の記念スタムプを捺したものを、一弗に賣るのは惜しい。此方で二弗と附けて、先方が負けろと言つたら、三十枚買ふなら五十弗だと言つて遣らうか知ら。併し若しそれでも宜しい、五十弗拂はうと言ふと下手をする。寧そ五弗と吹

間通しの大きい部屋がある。四邊は非常に亂雜で、樂器や衣裳のやうな物が、一杯に並べてあつて、中には四五人の男が、テーブルを圍んで頻りに骨牌の勝負に耽つて居たが、チロリと物凄い眼で此方を睨んだが、直ぐ目を骨牌に移して、熱心に勝負を爭つて居る。また其次の部屋には大小七八人の女が椅子に掛けたり、床の上に豚のやうに寢轉んで居たが、婆さんを見ると、一齊に居住居を直す。サア愈〻解らなくなつて來た。乞食芝居の群か、チプシイか、何れにしても尋常の者で無いことは一見して知れて居る。却々日本畫を買ふやうな御客樣でない。左樣だ此方を日本人と侮つて、此處まで誘引寄せて、何か仕事をする氣に相違ない。こりや偉いことになつたと急に恐ろしくなつて來た。

（中）

婆さんが與へて呉れた、一脚の粗末な椅子に腰を下して、ワザと落著

怒鳴ると、階段の上から「誰か」と叫ぶ奴がある。誰某だと言つたつて先方には通じないから、日本人だと言はうと思つて「私は日本人だ」と言つたが、ドギマギして旨く音が出ぬ。上では「誰だ／＼」と頻りに誰何する。「ジャパニース、ジャパニース」と續けざまに叫ぶと、漸く日本人だと云ふ意味が通じたらしいが、「何用があつて日本人が此處へ來た」と訊く。怪しからんことを言ふ、俺を招んで置いて何用があつて來たもないもんだ。此奴人を馬鹿にして居やがると、少々癪に觸はつたから、「今晩此處へ來いと云つたから、それで來たんだ」と言ふと、「俺は日本人なんかに用事は無い」と言ふ。其處で五口六口上と下とで問答をして居ると、靴の音がして入口から中へ入つて來た者がある。見れば先刻取引所で遭つた婆さんで、「オヤお前さん御出たかエ」と言つて、手招きをして上へ上つて行くから、其後へ附いて上つて行くと、二階は思つたより廣くて、二

財布も時計も部室へ置いて來た。ズボンの衣嚢に一弗五六十仙ある切りだ。繪端書や烏の畫など取られたつて知れたものだ。何もビクつくには及ばないと度胸を据ゑて、一軒々々番地を尋ねて行くと、中程に空地があつて、其隣が確かに其れだから、案内を乞はうと思つて見ると、電鈴の釦らしいものが無い。其處でトン〳〵と戸を叩く。一向返事が無い。力に任かせて叩いたら、戸が自然に開いた。中には瓦斯燈が盆鎗と光つて居るが、一向人の氣が無い。不用心な家だが、一體中に人が居るか知らん。エイ構ふことは無い、中へ入つて聲を掛けて遣らうと中へ入つて見ると、長い廊下があるから、其れを通つて奥の方へ進んで行くと、突當りに部屋があつて、左手には階段がある。多分部屋の中に人が居るだらうと思つてコツ〳〵と叩いたが、返事が無い。二三度叩いたが森寂として音がせぬ。其處で「誰か居らぬか」と大きな聲で

ドと同じく貧民窟で、外國人などは夜行けない所である。併し知らぬが佛で、慾と二人連で、五十七街と云ふ北の端から、二里も南に在るサウスサイドまで電車で急いだが、ダウンタウンの商業區を越してから、道は漸々と寂しくなる。車掌に訊けば「まだ一哩程行かなければ、其番地の處へは著かぬ」と言ふ。時計を見れば正に七時五十分で、日はトップリと暮れて、半町毎にある瓦斯燈の光りが物凄く見える。少々怯氣が著いて來た。此儘電車で終點まで行つて引還さうかと思つた。電車の中には自分一人乘つて居る切りだ。其中に或町の角へ來ると、電車が停つて車掌が「此處で下りなさい」と言ふ。何だか下りともないが、仕方が無いから飛下りた。

扨て下りて見た以上、目的の番地へ行かなければならぬ。此處まで來た以上、今更歸へる譯には行かぬ。此方も男子だ。それに宿を出る時

は高いが、何の株は廉いとか何とか言ふが、此方は株に經驗が無いから更に解らない。婆さんは暫らくして「お前は日本人か、支那人か」と訊くから、日本人だと言つて遣ると、婆さんは「左樣か」と言つて、「お前は何か日本の畫を持つて居ないか」と訊く。一體畫を何にするか知らんが、若し値を好く買ふなら幸ひスーツケースの中に、三十枚程日露海戰の記念繪葉書があるし、外に桑港で貰つた烏の畫が三四枚あるから賣つて遣らうと、商賣氣を起して、「畫は種々持つて居るが、値好く買つて呉れるなら見せて上げやう」と言ふと、婆さん手提鞄の中から紙片と鉛筆を出して、町名番地を認めて、「今晩八時に其番地まで來て呉れ」と言ふ。宜しい承知したと其處を出て宿へ歸つて夕飯を認めてから、婆さんの宿所を差して出掛けた。何でもサウスサイドの端の方にある家だ。一體市俄古のサウスサイドは、紐育のイーストサイドや、倫敦のイーストサイ

ちて居る米國人だけに、場内一面に殺氣が充滿して居る。一頻り盛りが濟んで見物人がボツ〳〵と退散するから、自分も外へ出やうと起上つて、二三歩進みながら不圖横を見ると、一人の老婆が熱心に前なる黑板の上に在る數字を凝視めて居るのが目に著いた。年は六十四五にもならう、畫に見るフオーチユンテラー（賣卜者）と云つたやうな風をして居る。此年配で而も女の分際で、株式取引所へ來るとは偉い婆さんだ。特に其異樣の服裝が一層予の目を惹いて、一體婆は何者であるか研究して見たいと云ふ好奇心がムラ〳〵と起つて、復席に著いて婆の樣子を窺つて見る。彼女は暫く黑板の數字を眺めて居たが、其眼を移して此方を見た。先方の眼と此方の眼がハツと合ふ。其處でテレ隱しに帽子に手を掛けて默禮すると、婆さんも亦默頭いて禮をする。其れを機會に婆さんの側へ行つて、二言三言物を云ふと、婆さんは何の株

越や白木屋などの店を見て居た眼には珍しく、唯壯觀に打たれるばかりであるが、スタックヤードへ行つて、日に何萬と云ふ牛豚を屠る光景を見に行つて、腕の太い屠手が血刀を提げて針金に吊られて來る豚をヂロリと横目に睨む態を見たら、氣の弱い者は一縮に戰慄ひ上つて了ふだらう。若し屠手が豚を手近に寄せて、豚切庖丁を首に打込んで、ギヤーと擧げる悲鳴に連れて、颯と迸る鮮血諸共庖丁を引いて、次なる豚を眺める光景を、念佛婆樣等に見せたなら、ペタリと尻餅を搗いて、南無阿彌陀佛と來るのは請合だ。斯那殺風景なものを見なくても、見る物は幾何でもある。人口二百萬の大都會は新來の客が一月居ればとて見る物に自由は缺かさない。或日偶然株式取引所へ入つて場内の景況を見る。音に聞くウオールストリートには及びも著かぬが、却々賑やかなものだ。何處へ行つても取引所は殺風景なものだが、元氣に滿

ヤンキー

に仕組んだら、嘸面白いものが出來るであらうと思つたが、其那餘裕は無く、前途を急いで居たから、友人に別離を告げて、ミルウオーキーを後に市俄古へ向つて出立した。後で聞けば、堀田の妻は夫に愛憎を盡かして、離緣をして妹と共に紐育へ歸つて行つたさうだ。恆產が無くて異人種と雜婚をする者の末路は、得て斯那ものだ。

三七　惡人の棲家

（上）

市俄古は流石に大都會である。桑港やシアトルとは遙かに樣子が違ふ。萬事が大都會式で、旅客の人目を奪ふものが多い。横濱市で一夜中に使ふ電力を一軒の家で使ふと云ふデパートメントストアは、三

から交際しなかつたものと思へば可い。怨みのピストルを擊つて見た處が、世間の人は決してお前を讃めはしない。彼那奴は妾から夫に言うて恥辱を搔かして、絶交の宣告して遣るから、我慢をせよ」と慰めながら意見をしたので、ピストルで擊つことだけは思ひ止まつたが、猶太人の習慣として、女が男の爲に名譽を毀損された時には、ピストルを一發男の足許へ擊込んで、其名譽の恢復をすると云ふことであるが、遂に其事無くして濟んだのは男の爲に幸福であつた。

友人の話を聞いて男の薄情を憎むと共に、女の輕擧を憫まずには居られなかつた。元來見ず知らずの男と手紙の往復をして、終世を契らうと思ふのは、實に輕卒の至りである。己が淺慮を咎めもせで唯男を怨むと云ふのは、大間違ひで、亞米利加にも斯那無分別の女があるかと、他人事ながら實に憫然に思へてならなかつた。併し之を小說か脚本

此一發は貴郎の足許へ

て來た。何卒口實を設けて破談にしやうと思つて考へて居たが、此方から進んで斷る勇氣が出ない。併し思ふことは穗に現はるゝで、女は男の樣子が少し變だと氣著いて來たから、姉から男に結婚する意思があるか何うかと云ふことを確めさした處、男は「緣談を取消して呉れ」と言ふ。姉は驚いて「其れは約束が違ふ。今更其那言を云つて、妹はワザワザ紐育くんだりから遣つて來たんぢやありませんか」と言つても追著かず、仕方が無いから妹に男の返事を告げると、彼女はソッとばかりに泣崩れたが、暫く經つてから奥へ行つて、ピストルを持つて來て外出しやうとするから、姉は驚いて抱留めて「其那物を持つて何處へ行くのか」と、ピストルを取上げて無理遣に椅子に掛けさせて其譯を訊くと、妹は男の許へ推掛けて行つて、一言怨言を述べて、一發其足許へ擊込むつもりだ」と答へるから、姉は種々と宥め賺かして「彼那下等な人間は始め

男は手紙の中に造花を疊み込んで、それに香水を吹掛けて送ると云ふ騒ぎになつた。併し考へて見れば雙方共實に輕卒な至であるが、互に見ぬ戀に憧憬れて居た男女は、もう手紙の遣取では我慢仕切れなくなつて、男の方から送つた二百弗の仕度金を受取るや否や、女は紐育を出立して姉の家まで遣つて來た。

女は先づ男を見て滿足した。これなれば自分の想像と違はなかつたと思つて安心した。併し男は女を見て驚いた。可愛い顏をして居るが、正に判然と猶太人である。同じ姉妹でありながら、姉とは似も著かぬ女である。それに餘程お轉婆らしい處がある。結婚をすれば非常に金が掛かるだらう。鐵道で儲けた二千や三千の金は半歲位で消耗なつて了ふかも知れぬと怯氣が著いた。それに寫眞を見て想像して居た處と、大に違つて居ると思ふ心が先入主となつて、益〻厭氣が差し

妹は、豫て自分の姉さんが日本人と結婚して非常に幸福であると聞いて居たから、其手紙を見て飛立つ程に喜んだが、まだ男を知らぬから、姉に問合して寄越した。其處で姉は、其男は立派な紳士で日本人としては風采も好し、金も澤山持つて居て、却々働きのある親切な人だと言ふ返事をして遣つたので妹は益〻乘氣になつた。そして一方男に對しては、堀田から其妹の話をして、男も結婚する氣になつて、雙方が手紙で意思を通ずるやうにした。手紙は三日に揚げず往復して、男女は顔こそ見ないが意氣相投合するやうになつた。そして男からも女からも寫眞を送つて見合をした。日白人の結婚の順序方法としては、甚だ奇妙であるけれども、女の義兄に當る者が日本人であるから、さう云ふ風にして話を早く進行させたのである。そして女の熱度は愈〻高くなつて、果ては蜜のやうな甘い文句を書聯ねた手紙を何本も寄越した。また

のコックをしたり、ボーイをしたりして金を儲けるが、家庭には病身の妻君が始終厭な顔をして居るので、自棄を起して、他所で泊つたりして歸らぬことがある。それに近頃妻君の妹と云ふのが、紐育から訪ねて來て寄食することになつたから、堀田は一層自棄を起して居る。併し此妹に就ては小説的の奇談があると言つて、友人は次のやうな話をした。

堀田の友人に某と云ふ日本人がある。これが鐵道のギャング長をして多少の金を蓄へたが、堀田が新婚當時に頻々と遊びに來て、睦じさうにして居るのを羨しく思つて、自分も白人を女房に持つて見たいと言出したから、堀田は之を妻君に話したが、丁度妻君には一人の妹がある。「紐育でタイプライターガールをして居るが、郎君の御友達が貰つて下さる氣があつたら妹の考を訊いて見やう」と言つて手紙を出した。

た。堀田は予等の來訪を喜んで、自分でピアノを彈いて聽かせたが、却却旨い。白人を女房に持つ位の男だから、器用に出來て居ると、感心しながら耳を傾けて居た。其中に夕景になつたから歸らうと思つたが、頻りに引留めるから、腰を据ゑて晩餐の饗應に預かる。餘程貧窮な生活をして居ると見えて、家内の樣子が見すぼらしく目に著く。實は饗應に預るのも心苦しい位である。食後一時間程經つてから、友人に目配せして暇を告げて外へ出て、宿へ著いてから堀田の身上に就て種々と訊いて見た。

友人の話に依ると、堀田は非常に不幸な結婚をした。女も堀田と結婚したのは淺慮の至りである。堀田は恆産の無い男で、妻を養ふ資力がない。妻は堀田の豫想とは違つて一文の貯蓄も無く、働かねば食べて行かれないが、此頃は病氣勝で思ふ通りに働けない。堀田はホテル

田勇夫（假名）を知つて居るか」と訊く。「知らんが、それは何人か」と尋ねると、「名士何某の忰だ」と言ふ。「何某なら名は常に聞いて居るが、其息子が何うした」と訊くと、「其息子が今當地の某所に借宅して居るが、訪問して見ないか」と言ふ。「一體某は何をして居る、農業かそれとも商業か」と問へば、「無職だが、白人の女と結婚して一緒に生活して居る」と言ふので、好奇心がムラ〳〵ッと起つて一緒に訪問することになつた。

來て見れば家は郊外に在る小さな平家建である。案内を乞ふと二十一二の小綺麗な女が出て來て、友人を見て嫣然笑ひながら「マア上れ」と言ふ。其處で友人は予を促して中へ入ると、直ぐバラーで、風采の好い日本人が三十ばかりの女と對話をして居る處であつたが、直に起つて握手をする。友人は其女に叮嚀に挨拶した後で、一同に予を紹介せる。男は堀田で、女は其妻君、また取次に出て來た女は妻君の妹であつ

予と同郷出身の某と云へる者が、ミルウオーキーにて働いて居るとのことを聞いて居たので、ミネアポリスに居る時に手紙で照會をして置いて出立の時刻を知らして遣つたら、丁度マヂソンまで出迎に來て呉れた。見れば見違へる程立派になつて居る。互に再會を祝し合つて兎も角もミルウオーキーまで行かうと、乘換をして同地へ著いた。

ミルウオーキーは、ウイスコンシン第一の大都會で桑港に匹敵する位の人口を有つて居る。市民の大部分は獨逸人で、夫の南北戰爭の時には獨立して別に獨逸人の一國を作らうとした位であつたが、其計畫は遂に沙汰止となつて、戰爭後は堅實なる發達を遂げて、今では市俄古以北に於ける第一の大都會になつて居る。停車場から、直に或小さなホテルに入つて部屋を定めて、友人と一緒に市中を見物して、湖邊の景色の佳い芝生の上で寢轉んで暫らく雜談に耽つて居ると、突然友人は「堀

思ふ心から、ソッと拙者から忠告して上げて呉れとのことであつたから、何卒荆妻を惡く思はないやうに。と、認めて、別に婦人に對する心得ともなるべきものが、五つ六つ書添へてあつた。之を讀んだ時には流石に米國を股に掛けて歩く予でも、冷汗三斗、穴へでも這入りたい心持がした。之を前にしては渡米の船中でスープとコンソンメとを引續いて註文して、傍人からスープの御換りは偉いぢやないかと、冷評かされた事があつたが、二度あることは三度あると云ふから、此先何那赤毛布を演るかも知れぬと、ソロ〳〵怖くなつて來た。

三六　此一發は貴郎の足許へ

思ふと、急に恥しくなつて、封書を眺めたまゝ開封する勇氣が出て來ない。が、實意を籠めた老人の忠告書だから一應讀んで見やうと、さながら死刑の宣告書でも讀むやうに封をきつて見ると、

貴君は此頃荆妻に向つて洗濯の話をされた時に、日本で百圓位の月給取りの妻君になれば洗濯物はしない、するのは唯自分の汚れた下帶だけであると言はれたさうだが、斯う云ふ不潔な言葉を使つては、レヂーに對して失禮である。其のみならず荆妻に向つて、米國の便所は清潔であるが、日本の便所は不潔で仕樣がないと言はれたさうだが、此れは一層惡い言葉だ。紐育に行つて斯那言葉を使つたら、必ず人に嫌はれるから、能くビヘーヴ(注意)するが可い。併し此忠告は自分の眞心から出たものであるから、惡く取つて下さるな。荆妻は貴君を立派な善い人と信じて居るから、前途に誤りが無いやうにと

て貴君に忠告するが、レヂーに對してあゝ云ふ失禮な言を云つては可けない」と言ふ。合點の行かない老人の言葉と、たゝ茫然として老人の顏を眺めて居ると、彼は重ねて「自分の忠言は貴君の心に逆ふかも知れぬが、貴君は立派な日本紳士であるから、紳士の體面を保つて行かれるやうにと思つて、此處に書いて來たから、同情のある言葉であると思つて汽車の中で讀んで下さい」と言つて、一封の手紙やうのものを呉れた。其中にオルボー（オール、オン、ボールドの略で、皆乘つて下さいの意）と車掌が發車を告げるので、老人と固い握手をして、汽車に乘つて其處を出立したが、レヂーに不作法をしたとは何事であらうか。或はミルドレッド嬢に對してしたことが何か無禮に當ることであつたかも知れぬ。アッ左樣だ的切り其れに違ひない。嬢の態度が餘りに挑發的であつたから、此方も少しく氣を許して、打解け過ぎた形跡があつたやうだと

車の上へ投り込んで置いて、バラーへ來て一同に挨拶をする。そして一々握手をしてバラーを出て、ヒラリと馬車に飛乘つて其處を出立した。そして凡そ十間程行つて左に折れて一町程來た時に、後を振返つて見ると、孃はアンナと共に町の角に立つてハンケチを揮つて居た。憐れな少女よ、御身は益々健勝で幸福で、卒業の後は立派な男子と結婚をして、最も幸福な生活をするやうにと、心の中に念せざるを得なかつた。かくて無心の馬は老人と予を運んで、ミネアポリスの停車場へ著いたが、老人が馬車を繫ぐ間に市俄古行の切符を買つて、手荷物の始末をする。やがて發車時刻も迫つたので、客車の昇降口まで來ると、老人は時計を出して見て、「まだ五分あるが」と言つて、予の腕を取つて、自分の腕と組合せて二三歩脇へ寄りながら、小さな聲で「貴君は此頃レヂーに向つて、無作法な言を云はれてたが、記憶して居られるか。自分は親友とし

らうか」と訊くと、孃は「マイ、ケンタッキホームが好からう」と云ふので、ウイニフレッドは直にそれを彈くと、孃が唄ふ。リーダもアンナも一緒に唄ふ。座が大分陽氣になつた。凡そ一時間ばかりでピアノの彈奏も止んで、一同思ひ〳〵に談話をする。予は孃の隣りに席を占めて、「ミネアポリスの二箇月は、予の一生を通じて忘れることの出來ぬ幸福な生活であつた」と言ふと、孃も亦「自分にも非常に幸福な月日であつた」と言ふ。何れの日に再會が出來るか、また出來ぬか知らんが、此愉快な家族や可憐な少女と別離れるのは好い心持はせぬ。併し其晩は眞面目な親情の籠つた言葉を換して、十時頃まで談り續けた。

翌日出立時刻になると家族は皆揃つて居る。何時の間にか孃も來てバラーに居た。ウイリアムス老人は一頭立の馬車を以て表に待つて居る。其處で二階からスーツケースを兩手に提げて下りて來て、馬

を訪問して別辭を述べ、其足でミルドレッド孃の止宿して居る家を差して行く途中で、孃とバッタリ出會つた。孃は「今貴君の許を訪問しやうと思ふ處だ」と言ふ。何うしてかと訊けば「貴君が紐育の方へ御出立になると云ふことを、先刻アンナから電話で聞いたから」と言ふ。「それは御叮嚀に恐入る。兎も角一度御出なさい」と、連立つて家へ歸つて來た。出立は明日と云ふので、其晩は送別の爲に食事を共にしやうと言つて、饗應を受けたが、ミルドレッド孃も亦陪賓として招待された。

主人が心盡しの饗應を受けてからバラーへ來て、一同で種々な談話をする。今宵が名殘で再會を豫期することは出來ぬと思へば、談話にも力が入らぬ。此方の氣のせいか女達も沈んで居るやうに見えるから、末の娘にピアノを所望して、一座を引立てやうとする。娘は早速ピアノに向つて「何を彈かうか」と問ふから、予はミルドレッドに「何が好か

三五　老人の忠告

ミッシッピー河の氷が解けたのは、ツイ此頃と思つて居たのに、もう五月の中旬になつて了つた。居れば面白いけれども、左樣々々いつまでも此處には居れぬから思ひ切つて紐育の方へ出發しやうと決心して、ウイリアムス老人へ其旨を告げて、長々世話になつた禮を述べた。老人は非常に別離を惜んで、一應は今暫く此地に居よと勸めたが、留めても留まらぬから、「それでは一先づ行つて御出でなさい。若し歸りに都合が出來たなら、大北鐵道で日本へ歸られるやうにして、是非もう一度ミネアポリスに寄つて下さい」と言ふ。主人の厚意は感謝の至りで、自分は是非さうしたい、又さうする考だと言つて、厚く禮を述べ、折角出立するなら、懇意になつた人々に、一々挨拶をして行かうと、隣家の人々

置いて呉れ。と、

皮肉に出て來たから、ギャフンと參つたが、何とかしてもう一矢酬いて遣らうと思つて、封入の切拔を見ると、「プロフエッサー、ブローネルの講演」と題して、ブローネル君が東洋の話をして、非常に日本を讃めた事を報道して、最後にデートンの交際社會に此の如き快濶なる紳士を迎へることが出來たのは、デートン人の爲に幸福だと書いてある。彼奴あの肥大な圖體で以て、却々器用に出來て居るので、旨く女や子供に取入つて、間接に亭主や兩親を動かすんだから、もうデートンへ行つて、チャーンと成功して居ると、感心しながら考へて居る間に、トウ〳〵手紙を書く氣が無くなつて了つた。

認めて送つて遣ると、折返し返事が來た。プローネル君は非常に筆健な男である。手紙の中には新聞紙の切拔があつた。

僕は斯う見えても倫敦のR、G、S、のメムバーだ。大學の教授の資格は充分に有つて居る。デートンの羅甸學校の教授ではチト役不足だ。女學校なら結構だが重に男學校だ。生徒は無上の光榮として俺を迎へて呉れる。生徒が好く俺に服して居ることは來て見れば解る。と、

大分怒つたやうな書方をして居るが、其次に、

ミネソタは瑞典や那威の移民が多いから、美人と云つてもライトヘア、ブルーアイ（銀髪碧眼）の女が多いだらう。俺はあゝ云ふ名は嫌ひだ。併し貴公のスウキートハートはレッドヘッデット、ガール（赤い頭髪の女で、醜婦の意味）かも知れぬが、何卒俺に代つて敬意を表して

返事を寄越せ、ブ。と、

片假名で書いてある。「ブ」とはプローネルの頭文字である。彼は片假名全部と「美人」と「藝者」と云ふ四字を辨へて居る。奴さんまだフローレンス嬢のことを忘れずに居るのは感心だが、此方には嬢よりもズッと上等のミルドレッドと云ふのがある。一つ早速返事を出して遣らうと洋筆を走らせて、

手紙を讀んだ、學校の先生とは驚いた。生徒が能く貴君に服して行くかそれが心配だが、多分其學校は女學校であらう。都合に依つてはデートンへ行く。併し其地には美人は居るまいが、此方には美人が澤山居る。フローレンスなどは、此處へ來れば、とても存在は認められまい。スウキートハートが二人出來たが、撰擇に苦しんで居る。此處置が著かねば、其地へは行かれない。と、

ーネル何うして自分の居所を知つて居るのか知ら。附箋も著けずに來た手紙だから、確かに居所を知つて寄越したに相違無い。それに亞米利加の切手が貼つてあるが、奴さんまだ米國に居るのかなと、手に取つたまゝ、暫らく眺めて考へて居たが、兎に角封を剪つて讀むと、

都合に依つて倫敦行は止めにした。紐育に暫く居たが、面白くないからデートンへ來て、ラテンハイスクールで教鞭を執つて居る。學校の先生にならうとは、夢にも思はなんだが、ツイ、フラ〳〵ッと其氣になつた。併しなつて見ると却々面白い。相變らず下宿生活だが、暫時遊びに來ないか、紹介する人は澤山ある、何れも善人ばかりだ。紐育へ行くなら是非此方へ寄つて行け。一體貴公は何時までミネアポリスに居るつもりだ。スウキートハートでも出來たか。フローレンスのやうな好い女でも居るのか。此手紙を受取つたら直に

でもなければ、子爵でもないし、男爵の事でもないと言ふから、それでは士族かと言ふと、さうでないと答へるし、平民かと訊くと、其那身分の輕い者でないと言つて、ブリ〳〵して居たから、譯官は「それ御覽、華族でなし、士族でなし、また平民でないとしたら、殘る處は新平民だが、眞逆閣下が新平民と御結婚になる譯はないからと思つて、準士族卽ち足輕としたのです。それで惡ければ自分に屆書を御書きになるが宜しい」と言つて、何處までも主張を枉げなんだと云ふ珍談がある。

三四　情婦でも出來たか

或日、散歩から歸つて來ると、テーブルの上に一通の手紙が置いてある。手に取つて見ると見覺のあるブローネル君の手跡である。ブロ

揶揄つて遣ると、孃は儼然として、

「妾は平民で澤山爵位は決して望みません」と

言ひ放つ。矢ッ張り孃は偉い。

餘談ではあるが、日本の貴族で米國婦人を妻に有つて居る者は無いが、歐洲諸國から輸入した者は三四人あるやうだ。何れも幸福な家庭を有つて居ると云ふことだから、大に結構だ。何人であつたか知らんが、其夫人の父親の姓名の上に、Den とか Von とか云ふ名稱が附いて居たので、婚姻の屆書を認める時に、公使館の譯官に惡戲者があつて、日本貴族何某と何々國足輕何某の娘何孃と婚姻云々と書いたから、其貴族は非常に立腹して、譯官を責めたら、譯官は平氣な顏をして、そんなら其ドンとかフォンとか云ふのは公爵の事かと訊くと、貴族はイヤ公爵ではないと答へる。それでは侯爵かと問ふに、さうでもない。また伯爵

アムス一家の人々は何うだ。隣家のエヂスは何うだ。イヤそれよりもミルドレッド嬢は何うだ。嬢に限つて眞逆金婚や爵婚を有難がるやうなことはあるまいと思つたが、念の爲め訊いて見やうと、或時嬢に向つて、「亞米利加のレヂーは歐洲の貴族と結婚する爲に、大分金を遣ふやうですネ」と言ふと、嬢は當り前の事のやうに、

「エヽ左樣です、大分金を遣ひます。亞米利加の金を全部持つて行けば、世界の貴族の爵位を買潰して了ふことが出來ます」と、平氣な顏して答へる。これや可かん、嬢も矢ッ張り亞米利加女だ。爵婚主義だ。財産の配分が百萬弗もあつたら、伯爵夫人とか、子爵夫人とかになるやうに運動する方だらうと思つたから、

「何うです、一つ貴嬢もタイトル、ハンター（爵婚者）になつて、日本へでもいらしッては。御意に召すのが幾らでもありますよ」と、

が、米國に似合の夫たるべき者があるのに、強ひて歐羅巴くんだりまで夫捜しに行くのは、讃めたことではあるまい。平民の娘は平民で終るが宜しい。何も笏などを渉獵に行く必要はない。斯那物を欲しがるのは、亞米利加女の氣位が既にヒマラヤの峠に差掛つて居る證據である。そんなら中流以下の女は何うかと云ふに、まだ相思の男のない女は、未來は富豪を夫に持たうなどと考へて居る者が多い。夫のグリーン未亡人の息子のグリーン大佐と云ふのは、年收七千五百萬圓の家を相續する身分でありながら、四十にして未だ室を有たなかつた程晩婚の運命を有つた男であつたが、求めもせぬのに一年に五千本位の求婚狀を國内の女から受取つて居たさうだ。此一事を見ても亞米利加女の氣質が好く解る。米國の婦人全部悉くさうでもあるまいが、おしなべて云へば、一は爵位に憧憬し、一は金力を渇仰して居る。扨てウイリ

ふ虚榮の奴隷となつて居る女達から、大に羨まれて居る女で、米國第一流の富豪の家から出た貴婦人を調べて見ると、先づヴアンダービルトの家では、コンセロ嬢と云ふのが英國のマーボロー大公爵の夫人となり、グラジス嬢と云ふのが露西亞のゼヒニー伯爵の夫人となつて居る。またグールド家からは、英國のデシー卿夫人ヘレンを出し、佛國のザガン公爵夫人を出し、アスター家からは、獨逸のゾロースキー伯爵夫人を出して居る。前英國印度總督カーゾン卿の夫人はリター家の第二女メリー、ヴイクトリア嬢で、同國サツフオーク伯爵夫人はメリー嬢の妹マーガリツト、ハイド嬢である。此等は米國第一流の富豪の家から出た者だが、尙第二流以下の家からも、數多の公爵夫人や伯爵夫人を出して居る。

富豪の娘が貴族の夫人になると云ふ事は、必ずしも惡い事ではない

たと云ふ實例が、米國人を發奮させて、金と力を貯へる爲に奔走し、奮鬪し、煩鬪させつゝあるのである。

男子の事は暫らく措いて、米國上流社會の子女が常住憧憬して居るものは爵位で、金が山程あつて何一つ不自由を感じない彼等でも、平民主義の國體を有する米國に居るだけに、一層痛切に爵位が自由ならぬのを詫つて居る。而して彼等の爲に最も惡い例を作つたのは、今日までに米國富豪の家庭から出て、歐洲貴族の夫人となつた者が四五十人からある事で、これが俑を爲して、今や熾に若い娘の虛榮心を煽つて居る。女は淺慮な者であるから、ミッセスよりバロネス（男爵夫人）と云はれる方が嬉しい。またバロネスよりもヴアイカウンテス（子爵夫人）の方が嬉しい。カウンテス（伯爵夫人）マルショネス（侯爵夫人）等より進んで、プリンセス（公爵夫人）となつたら、何れ程嬉しいか知れない。斯う云

番多く作らるゝのである。

ヤンキー

三三　金婚と爵婚

東西女の共通點を求めると、第一に非常に氣位が高くなつた事だが、我日本の女の氣位は漸う箱根の山から、富士の頂上を望んで居る位であるのに、亞米米利女はレニア嶽の頂上に在つて、遙かにヒマラヤの高峯を想つて居ると云ふ形がある。傲慢なる亞米利加男子の氣象は、凝つて金力を以て世界を支配して見やうと云ふ野心になり、驕奢なる亞米利加女の虚榮心は、結晶して歐洲の貴族を自由自在に飜弄して見やうと云ふ慾望となる。夫の一平民から大統領になつて、國を支配し得ると云ふ國體と、一町人の娘が一躍して、英佛獨伊の公爵夫人に出世し

も野營をすることがある。若しも一方の兄弟が其姉妹や從兄弟を伴れて行けば、其兄弟の友達もまた其兄弟や從姉妹を引伴れて行く。其仲間には決して夫婦者や年長者を加へない。何れも獨身者ばかりだが、同じ獨身者でも老孃として賣殘つて居る者は伴れて行かない。斯うして互に銃獵や釣魚をして樂しんで居る間に、離れ難い關係を作つて了ふのである。此れで間違が起らなんだら結構だが、青春の血が漲つて居る男女が、唯二人切りでボートに乘つて談り合つたり、人跡絶無の山間を手を引合つて歩いたりして間違が起らんと云ふのは、生理が許さない。常識が承知をしない。何故に米國に離婚の數が多いかと云ふ原因を充分に研究したら、直ちに解る。若い男女が戀に眼が闇んで、前後の思慮も無く直ちに情交を通ずる結果、輕々しく結婚をするやうになるからである。其情交を結ぶ機會は右の如き旅行に依つて一

と云ふに、矢ッ張り若い男女互に手を携へて、往來や公園などを什麼にも樂しさうに散歩して居る。また女子は家に在つては若い男から公然と訪問を受けて、二人切りで自分の部屋で對話することがある。訪客は女の兩親に用があつて來たのでも無ければ、また兄妹に會ひに來たのでもない。唯自分と會談するつもりで來たのだから、自分が一人で其男を獨占して居るも差支へがないと云つたやうに振舞つて居るが、親兄妹は敢て之を怪まず、却つて邪魔をしてはならぬと云ふやうに放任して置くんだから驚く。そして彼等兩人は二人切りで料理屋へも行けば、芝居見物にも出掛ける。飽かず自由の交際を樂むと云ふ習慣が、西は太西洋より、東は紐育の果までも行渡つて行はれて居る。

加之、米國では、青年男女が打連立つて山へ旅行することが流行る。彼等は人跡稀なる森林又は湖邊を選んで天幕を張り、一箇月も二箇月

喜ぶべきことで、米國の習慣は極端に走つて居るから、日本に倣つて之を一變する必要があると、眞面目になつて主張して居る。此には老婦人も贊成だと言つて居る。

米國の遊覽地へ行つて見ると、直ちに男女が放縱な交際をして居ることが目に著く。例へば東部の遊覽地たるアトランチック、シチーや西部加州のサンヂーゴ又はサンタクルーヅ等へ行つて見ると、若い男女が互に手を取組んで散歩をしたり、又は一緒に馬車や自働車を驅つて走つて居る。それは必ず青春の血が燃える男女に限られて居つて、決して中年の男女や既婚の男女を雜へない。而して彼等は勝手に散歩し、勝手に運動し、談り吟じ且つ踊つたりして居る。彼等は家を出る時は女同志又は男同志であつても、遊覽地へ著けば必ず異性の友達が出來る。そして放縱なる避暑生活を終つて、家へ歸れば謹嚴であるか

非道い、此頃彼の女は一晩部屋を空けて何處かで泊つて來ましたが、ホントウにダラシのない人達です」と言ふ。成程ダラシがない。男女の交際は什麼に自由でも、異性の者を引張つて來るのに、其家の主婦に紹介しないと云ふ法はないと、大に主婦の言に贊成する。併し考へて見れば、別に不思議なことはない。一體米國と云ふ處は怪しからん國で、男女の交際が全く自由で何等の制限が無い。青年男女は勝手に好きな男女を選んで自由自在に交際する。英國や獨逸のやうに男女の交際が制限されて居る處から見ると、別國を爲して居る。日本のやうな男女の交際の嚴重な國に居ては、若い米國男女の交際は到底想像し得られない。尤も近來男女間の風儀が著しく惡くなつて來たやうであるが、米國に比すればまだ天地雲泥の相異がある。ウイリアムス老人は度々日本の事情を聞いては、男女間の關係が非常に嚴重であるのは

して來て、二階へ上つて行つたが、バラーに居る主婦をチラッと見たまま、無言で駈上つて行つたので、主婦は顏を顰めながら、其後姿を眺めて居た。什麼にも忌々しいと云つたやうな顏付だ。これが日本であつたなら、「モシ、奧さん、少々燒けますネ」と言つて一寸揶揄つて見る處だが、若し左樣言つたなら、主婦は何と言ふだらう。「何です馬鹿な、此年齡をして、ホントウに貴君は氣樂ですネー」とでも言ふか知ら。イヤ割合に嚴格な婦人だから、若し其那言を云つたなら、腹を立てゝ「貴君のやうな失禮な方はない、今日限り此家を引揚げて下さい」と來るに相違ない。今追ひ出されては少々豫算が狂つて來る。其處で此方も苦い顏付をして、「奧さん、今二階へ上つて行つた男は何者です。餘ッ程不作法な人間ぢやありませんか」と言ふと、主婦は「彼は二階の女學生のお友達ですが、吾々に紹介もせず、勝手に男子を自分の部屋へ引著けると云ふのは

のはツイ此頃の事である。斯う云ふ事は新聞に書かぬから同室教育の弊害が社會の表面に現はれて來ないけれども、裏面に隠れて居る弊害は非常に夥しいことであらうと思ふ。夫のエリオットの如き、又はジョルダンの如き、實際家は大に此點に付て苦心して居るといふことである。

三二　男女の交際

ウイリアムスの家は却々廣くて、十二三の間數があるから、二階の一間を一人の女學生に貸して居る。此女學生は三人の娘とは交際しないが、男子の友達は相當に有つて居るらしい。それで折々男學生を引張つて來ては、面白可笑しく談笑して居る。或時一人の男學生が訪問

其處で無記名投票の方法で採決をすると、男生禁制案を可とする者七人、之を否とする者七十四人で、見事に原案が敗れて了つたから、男生は狂喜して出て來る女や外に居る女の肩を抱き、手を握つて祝辭を述べる。

縲絏を下げたのは動議提出者の雲嶽女史で、己が醜婦の餘りに嫉妬に驅られて、斯那愚案を提出して、平地に波瀾を起したが、失敗したのは好い氣味だと、男生から散々に惡口を言はれて居たさうだ。

米國の男女同室教育は多年の習慣で、一朝一夕に之を矯めることは出來まいが、十七八歲以上の男女を同室に容れて教育するのは非常に弊害がある。之が爲に現に學校監理者が、屢〻頭腦を痛めた問題が起つた事がある。學校の名譽の爲に名前は預つて置くが、西部に在る或著名の大學校で、女生徒が男生徒と私通した結果、懷妊した者が三人からあつて、評議員會の祕密會議に附せられたが、其結果除名處分を受けた

放逐するが可い。左もなければ此動議は矛盾して居る」と言ふ。老人却々旨い事を云ふ。確かに理窟に適つて居るから、兩女は反對運動をすると言つて出て行つた。後で聞いて見たら、寄宿舍で會議の當日は、通學の男女が傍聽の爲に押掛けて行つたが、祕密會とあつて、何れも場外に放逐されたから、一同窓の外に立つて居た。やがて議事が進行すると、贊否の論者が交々起立して辯論を戰はせる。贊成論の方が多くて、反對論の方が旗色が惡い。大勢を察知した男生は、窓の外で聲援を與へるけれども、形勢益〻非になつて、何うやら此動議が通過しさうになつて來た。處が愈〻討論終結となつて、贊否を決すると云ふ段になると、其採決の方法に付て議論が別れて、記名無記名の爭が起つた。窓の外では男生が頻りに無記名〻〻と連呼する。之に勢を得た女生は盛に無記名說を主張したが、起立に問うて見ると、無記名說が大多數である。

男生の間に非常に恐惶を來して、皆必死に反對運動を始めた。男生の賴む處は通學の女生で、其女生徒より親密に交際して居る舍生を說伏せて、此動議に反對させて揉潰して遣らうとする。アンナもミルドレッドも勸誘を受けて居るから、下のバラーで相談をして居る。其處へウイリアムス老人が入つて來て、兩女の意見を聽いてから、予を呼びに寄越した。何事かと思つて下へ下りて行くと、老人は問題の要點を話して、「一體日本でも斯う云ふ事があるか」と訊くから、「日本では其那例は無い。男女は絕對に隔離敎育を施すから、男生が女生の寄宿舍へ訪問することは、絕對に禁止されて居る」と言ふと、老人は「其處だ」と言つて、恰も討論でもするやうな手付で兩女に向つて、「男女の同室敎育を許さにや兎も角、之を許した以上、相當の時間を限つて、互に訪問するのは仕方がない。訪問するのが惡いと云ふなら、ミネソタ大學から女生を全部

になつて困ると言ふけれども、女の父兄に餘裕があつて、女の希望に任せて學問をするのは決して惡い事ではない。寧ろ之を奬勵して傑出した婦人を出させるのが、國家の爲に利益である。之を非難する者は動もすれば婦人が參政權運動を起すから、餘り學問をさせては宜しくないと言ふけれども、女を壓迫すれば無教育の女でも默つては居ない。勃發するのは當然だ。處が或日面白い問題が起つた。

米國では小學校は勿論、中學校以上の學校は、殆んど男女を同室に入れて教育をして居る。ミネソタ大學も亦男女同室教育を實行して居る。尤も寄宿舍だけは男女別々であるが、一定の時間に互に訪問することだけは許して居る。處が女生の寄宿舍に居る一人の女生徒が發議して、寄宿舍の神聖を保つ爲に、絶對に男生の來訪を謝絶すべしとの動議を提出して、舍生會の議に附した。これが非常の大問題となつて、

ある。其處へ行くと我國の職人の女房程、お粗末な者はあるまい。雜誌處か新聞すらも碌に讀む者が無い。獨り下等社會の女のみならず、中等社會に入つて見ても、雜誌を手にする主婦は實に寥々たるもので、什麼に日本婦人の知識が低級に在るかは、此れを見ても解る。

ウイリアムスの娘のアンナは、大學で古文學を研究して居る。また姉のリーダも大學に居た時には古文學研究生の一人であつた。ミルドレッドも亦其一人である。一體米國の女學生は、古文學に對して熾烈なる趣味を有つて居る。彼等が古文學に憧憬するのは、戀人に對するよりも熱烈なものがある。米國の大學に在る二十歳前後の女で、古文學を研究する生徒は男學生と略同數である。特に西部諸州の大學では、文學を研究する女生の數は男生よりも著しく多い。何事に付ても女を愚にしたがる人々は、女が其那に勉强しては宜しくない、生意氣

られない。雜誌ではレヂースホームジョーナルを始めとして、俗受けのするカリヤ、ビープルマガジン等より、ウオールヅウオーク、サターデーイヴニングポスト及びハーパース等。高尙なものでは、アウトルック、レヴィユーオブレヴィユース、ノースアメリカンレヴィユー等が家庭に入つて讀まれる。併し職人の女房でノースアメリカンレヴィユーなどを讀む女は殆んど無いが、雜誌を讀まぬ女は、土著の米人では一人も無いと言つて宜しい。曩に家庭の事に關して述べて置いた生活費の月計中に、新聞と雜誌の購讀料と云ふ目があつたが、米國では職人の女房でも雜誌は缺かさず讀むから、特に此目を置いて、新聞雜誌購讀料として文房具を入れて、一弗五十仙と云ふ費用を書立てゝある。好く職人の住宅の前を通ると、主婦が入口に在る椅子に腰を掛けて、雜誌などを耽讀して居るのを見受けるが、此れは確かに米國婦人の美點で

るやうに、出來て居るからであらうと思ふ。

米國の少女は必ず小學校だけは卒業する。小學校は六年で、日本の小學八箇年に相當するだけの教育を授ける。其れ以上高等學校に入つて勉强する女子も甚だ多いが、米國は實業の發達した國で、實際教育を重んずる處であるから、多數の女子は先づ小學校だけで止めて、實地に就いて仕事をする。併し女子の知識、特に讀書力は非常に發達したもので、何那職人の女房と雖も立派に新聞を讀む。家庭では必ず一二冊の雜誌を購讀する。新聞雜誌に依つて生きた知識を養成するから、婦人の地位が自然に向上することになる。米國は世界の新聞國で、日刊、週刊及び半週刊と名の附いた新聞紙で、米國郵政院から、第二種郵便物の特權を受けて居るものが二萬幾千からある。此れが家庭に入つて消化されて行くのであるから、婦人の知識は勢ひ增進されずには居

ば、米國婦人の權力の强いのは當然である。

三一　婦人の教育

米國の婦人は教育の點に付て、確かに日本婦人に優つて居る。彼等は男子と同じく、小學校、中學校等を經て大學に入り、又は專門學校に入つて、高等の教育を受ける。女子なるが故に、男子より劣つた教育を受けると云ふことは、米國に於ては決して無い。彼等は男子と同一の課程を受け、男子と同一に試驗を受けて進級したり、卒業したりして居る。女子が研究する高等の學術は、文學、美術及び音樂等を外にしては醫であるが、此等の學問の研究に於て事實男子に後れを取つて居ない。此れは主として米國婦人の身體が非常に强壯で、男子と競爭に堪へ得

夫人附女中　三十弗乃至五十弗
乳母　五十弗以上
自働車運轉手　六十弗以上

上流の家になればこれだけの人數は要る。外に給仕女の二三人は要るから、使用人の給料だけでも、一箇月に四五百弗は要る。それに彼等の食費(時として洗濯賃共)は一切主人持であるから、富豪の體面を保つ爲には、少くとも二三千弗は要る。これだけの世帶を主人一箇の力で張つて行くとしたら、妻君は餘り威張れた義理で無い。上流社會の家庭に於ける主婦の權力が餘りに振はなくて、却つて下等社會の家庭に於ける女房の權力が割合に強いのは、一切合切一人で屋内の仕事を切廻はして、隨分過度の勞働をするからである。之を安い給金で瑞西や獨逸生れの下女を傭つて、安樂をして居る英國の主婦などに比ぶれ

堅實なる米人の家庭は中以下の社會に多く、上流社會の家庭の基礎は、先づ大半常に動搖して居ることは、否定すべからざる事實である。

米國は下男下女の給金の高い國だけに、上流社會の生活費は豫想外に多く掛かる。今米國上流の紳士として、恥しからぬ生活をするには、何れだけの人間を備つて、何れだけの給料を支拂はなければならぬかと云ふに、東部と西部とに依つて、多少賃銀に差異はあるが、先づ概して左の通りである。

下婢（掃除又は給仕を爲すに止まる）	三十弗
下男（掃除又は家の廻の用を爲す者）	三十弗乃至四十弗
料理人	四十弗乃至六十弗
バトラー（食堂の管理及び給仕の取締）	四十弗乃至七十五弗
ヴアレット（主人の衣服の世話を爲す）	三十五弗乃至六十弗

少くは無い。家庭に在つて夫婦別々に食事することは珍しくないし、寢室は大抵別々で、唯細い通路を通つて、稀に室を同くすることがあるばかりである。一家の主人は朝起きると食事を認めて事務所へ出掛けて行つて、晝は料理店で飯を食べ、晩には倶樂部へ行つて遊んで居る。また主婦は子供を乳母や下女任せにして置いて、此れも自由に外出して勝手に遊び暮して居る。平和な家庭生活に慣れて居る日本人の眼から見れば、實に不思議に堪へない程である。尤も此れだけならまだ平穩なものだが、米國富豪の妻君は、單獨で世界漫遊を遣ることがある。女から言へば夫と一緒に旅行してこそ面白味があるだらうが、それが自分だけで一人旅をして保養をしやうと云ふんだから、驚かざるを得ない。米國の上流社會に比較的離婚の多い原因は、夫の放埒に由るのでもあらうが、一半は妻が女性として優しい行をしないからである。

助けて米國で五人の大富豪の一人に數へられるまでに成功さした。そして今では大勢の侍女に奉仕かれて、心靜かに老を養つて居る。ゼームスヒルの家庭は非常に立派であるが、他の富豪の家庭は必ずしも左樣でない。一體米國の富豪と云ふのは大抵は俄分限で、故ハリマンは今の若主人で二代目、石油王のロックフエラーは一代、カーネギーも亦一代で、グールドとヴァンダヴイルドが、三四代を經て居るのみだ。斯樣に成功した日が淺いので、立派な家庭を作ると云ふ餘裕が無い。米國富豪の家庭は大に紊亂して居る。實例は枚擧するに遑が無いが、今此處で一々事例を擧げることは出來ない。

米國富豪の家庭は極めて無趣味なものである。上流社會の妻女は、女として自由の權利が認められて居ると云ふだけで、恰も夫と別物扱ひをされて居た日本の大名の奥方と撰む處が無いと云ふやうな女が

ブラリと外へ出て、ミネソタ大學の前から電車に乘つて、セントポールへ行く。セントポールは人口二十五萬、ミネアポリス市と伯仲の間に在るミネソタ州の首府で、ミネアポリスと僅かな距離で並んで居るから、ツウインシチー(雙兒の市)と稱せらるて居る。此頃は氣候が追々暖くなつて、雪や氷が解けたのが、ミッシッピー河へ落込んで、滔々たる濁水が急流を爲して下へと落ちて行く。其河を下手に見下した小高い丘に、城のやうな赤い石造の家が建つて居るが、此れが有名なるグレートノーザン鐵道の社長ゼームス、ヒルの邸宅である。ヒルは今から四十年前には、ミッシッピーを上下する川蒸汽の船頭であつた。そして上流へ遡航してセントポールに來る毎に、或宿屋へ來ることにして居たが、其宿屋のチャムバメード(掃除女)と相思の仲になつたが、遂に夫婦になつて、一生懸命に働いた。此女餘程偉い處があると見えて、夫を

では月收三四百弗以上の家でも、主婦は必ず毎日外出して買物をする。主婦は、何處の八百屋が品物が良くて値段が廉いかと云ふことを研究して、自身に買ひに行く。然るに日本では月給の百圓も取る家の妻君になると、ハンケチ一枚すらも自分で洗濯をせず、腮で下女に指圖をして八百屋の御用聞きと談判をさして居る。日本と米國の婦人萬人が萬人悉くさうでもあるまいが、兩者の相距ること甚だ遠いのは事實だ。彼は戸外の女王で、家庭の下婢であるが、我は戸外では溫良貞淑で、家庭では打つて變つて放縱氣隨な者である。若し男子の立場から註文さして呉れたなら、予は兩者の中間を取るつもりである。

三〇　米國富豪の家庭

一二	弗	瓦斯及び電氣料
一五	十仙	雜誌及び文房具
一二	十仙	石鹼
一二	十五仙	白粉
一五	十仙	リネン類損失
一十	三弗	諸雜費
	合計 六十三弗	

右は、電車の車掌又は郵便配夫の如き、最下級の勞働賃銀を以て經營して行く生活費の計算であるが、此處に注意すべきことは、其那下等社會でも、新聞は朝刊と夕刊の二種、外に雜誌を二種位は取つて居る。米國婦人の知識は、全世界を通じて一番進んで居ることは特に注意すべきである。また日本婦人の爲に特に注意を促して置きたいのは、米國

ヤンキー

一六弗	牛肉
一十二弗	八百屋支拂
一一弗	新聞二種
一一弗	藥代
一二十五仙	散髮代
一一弗	帽子代
一二十八仙	亭主用シャツ一枚月割
一二弗	洋服月割(一著十二弗の割にて二著)
一五十仙	夫婦下著月割
一十二仙	カラー月割
一五十仙	靴下
一三弗	主婦被服費月割

と云ふやうな勘定になる。右の計算は餘程巧みに一家の經濟を遣る人でなければ立てられぬ。之を見ても却々汚れ物を洗濯屋へ遣るやうな餘裕は無いことが解る。

最近ロサンゼルス市會に於て、全米國に於ける生活費調査會の報告會を催したことがあるが、之に依ると米人の最低生活費は、夫婦者にて月六十三弗、若し二人の小供があれば八十弗を要すると云ふことである。其報告書に記してある月計を見るに、

一十五弗	家賃
一三弗	亭主電車賃
一三十仙	主婦電車賃
一四弗	洗濯賃
一三弗	牛乳

ヤンキー

一二弗五十仙	茶、珈琲、砂糖其他
一二弗五十仙	鷄卵、乾豚肉及び豚脂肪
一二弗五十仙	燃料、瓦斯代
一五弗五十仙	電話及び電燈料
一三弗	主人電車賃
一五弗二十仙	主人晝食料
一九弗	小供敎育費及び文房具
一六弗	小遣
一二弗	洗濯代
一五弗	雜費
一十五弗	被服費月割

合計　百六弗二十仙

却米國の婦人では思ひも寄らぬことである」と言つて、近頃日本の女特に女學校を出て、月給取の女房になつた女が生意氣で困ると云ふ話をしたら、眼を圓くして聽いて居たが、後で老夫人は「妾供の家でも汚れ物は可成家で洗濯するか、または洗濯婆を傭つて家で廉く遣らせることにして居ります。却々洗濯屋へは高くて遣られません」と、什麼にも歎息したような顏付をして居た。

實際百二十弗內外で一家五口を支へて行くとすると、其月計は、

一二十五弗	家賃
一七弗五十仙	牛肉
一五弗	野菜
一七弗五十仙	麵麭及び小麥粉
一三弗	牛乳

も實に感心に能く働きますが、一體米國の女は皆彼那に能く働きます
か」と訊くと、夫人は「左樣です、吾々位な收入しか無い家では皆さうです」
と答へる。「それにしても隣家の主婦のやうでは、餘り勞働が嚴過ぎる。
セメて洗濯物だけなりと、外へ遣つたら何うでせうか」と言ふと、夫人は
「何うして、貴君、洗濯物を外へ出したら、直に十弗位要つて了ひます。そ
れでは親子の小遣が無くなつて了ひます。隣家は月給が百二十五弗
しか取れません。それに家は借家ですもの、却々樂は出來ますまい」と
言ふ。「成程左樣でせうが、日本の女は貴女方のやうに、洗濯はしません」
と言ふと、老夫人は驚いて、「日本では女の地位が低いと聞いて居ります
から、女は餘程激しく勞働をさせられることと思つて居ましたに、洗濯
も碌にしないと云ふのは何う云ふ譯ですか」と訊くから、予は一寸した
月給取になると、大抵の物は洗濯屋へ遣つて了ふから主婦は樂だ。却

米國の女は家庭で懶けて居るかと云ふに、決して左樣でない。予が今まで遭つた女は皆感心に能く働く。近い例が、ウイリアムス老夫人でも、右隣りの寡婦でも、左隣りに住んで居る或大商店の賣子頭のお神さんでも皆能く働く。其お神さんは三十八九の細そりした、餘り强さうにも見えぬ女であつたが、部屋の掃除から勝手の用事まで、自分一人で足して、其餘暇には朝から晩まで洗濯ばかり遣つて居る。其處で亭主はと云へば朝起きて、一寸水道のホースで處々へ水を撒いて、そして庭の草木の手入をしてから、一緒に飯を食べて、珈琲を飲みながら新聞を讀む。それから店に出勤して、晩に歸つて飯を食べてから遊んで居る。然るに女房の方は一生懸命に仕事をして、其れが終るまでは容易にバラーへ出て來ない。之を見て米國にも感心な女があるもんだと、ツク〳〵感心したから、其晩ウイリアムス老夫人に、「貴女も隣家の主婦

面憎くもあり、男の意氣地無さ加減が苦々しくもあるが、此れが米國では普通の現象であると云へば、男尊女卑で仕込まれて來た日本人が、米國婦人を女房に持つたら、一日も亭主の役が勤まらないであらう。

右は戸外の場合だが、若し家庭の内部を窺つて見ると、米國の男女關係は、什麼に表裏が多いものであるかと云ふことが直ちに解かる。家庭に於ける夫は一家の長で、妻は其命令に從はなければならぬ。夫は女房に對して隨分無理を言ふ。また横著をする。非道い奴になると、女房を打擲する奴がある。併し戸外に出て荒い仕事をする者は亭主で、一家を支へ女房小供を養つて行く者は亦亭主であるから、之を思へば女房は亭主に向つて、一々其無法を咎めることは出來ぬ。大抵な事は亭主の言ふなりに、無理を利かせて置く。人情は何處へ行つても同一で、優しい女の性情に變りのあらう筈が無い。

等が男子に對する態度は主人が家來に接するが如きもので、男子は一樣に汲々として婦人の意を迎へて居る。男子が若し婦人と一緒に外出する時は、相手の老弱を問はず、手を籍して扶けて遣らねばならず、靴の紐が解けた時には、己れ跪いて之を結んで遣らねばならぬ。また女が席に著く時には外套を脱がせて遣り、席を離れて外に出る時には、外套を取つて後から之を著せて遣る。家庭の外へ出ては、何を措いても先づ婦人を先にし、婦人に務めた餘暇を以て吾身の始末をする。日本人の眼から見れば、亭主が逆に女房の勤務をして居るやうなものだ。併し女房の威張ることは此れのみに止らぬ。馬に乘る時には御免を蒙つて、亭主の膝を蹈臺にして鞍の上へ跨る。亭主は馬側に在つて折敷いた右の膝頭を、女房の土足に掛けられて澁面も作らず、反つて嬉しさうな顔をして居るが、之を慣れぬ眼で見た時には、女の傲慢な態度が

から暗號のやうなことをして居る。大方其那意地の惡い言を云ふなといふ謎らしい。二人共確かに醉が醒めて了つて、一時間ばかりは白洲に坐らされて居る罪人のやうに溫順しくして居たが、やがて或船著場へ著いて、婦人連が出て行く時之を目送して、其姿が彼方に消えて了ふと二人は「ハラヽヽヽヽ」と舌を鳴らし、「ウイ」と奇妙な掛聲をして、衣嚢の中から例の一物を出して飲掛けた。米國婦人の勢力の偉大なることは之を見ても好く解かる。

二九　家庭の内外

往來や公會及び公衆の出入する場所に於ける米國婦人の權威は、實に偉大なもので、到底日本に居る者では想像し能はざる處である。彼

て居ると、船は次の船著場へ來て、偶然三人連の婦人が乘込んで來たが、客室が狹いので、二人は予の横に腰掛けて醉漢と向合ひ、一人は其醉漢の横に席を取つた。醉漢は先とは打つて變つた態度で、窓を開けて煙草の煙を出すやら、居住居を直すやらして、大騒ぎをした後で、行儀好く腰を掛けて聲をも立てずに神妙にして居るから、不審に思つてよく見ると最前のボットルが無い。ハヽア奴さん流石にレヂースには參つたなと思ふと可笑しくて堪らぬ。ヨシ先刻の返報だ。此方から一つ揶揄つて遣れと醉漢に向つて「川風が寒くて身に泌みる。斯う云ふ時に何かメヂシン(藥)でも遣らなければ堪らない。オイ最前君が持つて居たメヂシンのボットルは何うした」と言つて遣ると、一人の奴は眼を剝いて睨み著ける。好い氣味だ。奴さん非道く恐縮したなと思つて、もう一人の奴を見ると、時々レヂーの隙を見て、眼をショボ〳〵させな

相違ないが、女の方から自分の事をジャッ[プ助倍と言つたから、それで此方からも惡口を言いて遣つたのだ。自分を罰するなら女も共に罰して貰ひたい」と言ふと、警察判事は、「馬鹿なことを言ふな。レヂーが何で其那下等な言葉を使ふものか、其方は言葉が解らぬから、そのやうに誤解したんだらう。餘計なことを申さずと早く下れーッ」で、日本人は到頭五弗の罰金を納めて阿房拂ひになつた。これは相手が日本人だからと云ふので、特に其女を保護したのではない。亞米利加人でも男子なら矢ッ張り同じやうにレヂー侮辱罪に問はれる。米國婦人が什麼に權威を有つて居るかと云ふことを證明する一例は、曾て予が或川を小蒸汽で下つて行つた時に、二人の醉漢に出會したことがあるが、醉漢は日本人と見て頻りに予に揶揄ひ、衣嚢からウイスキーの壜を出して「藥だから之を飲め」と言つて强制する。ホト〳〵困つて應待ひ兼ね

子は彼等に對しても、常にレヂーたる尊敬を拂はなければならぬ。それを日本固有の思想の拔けぬ日本人は、往々誤まつてレヂーに無禮をするから、非道い目に遭はされることがある。曾て或處で日本人が電話を掛けたが、交換手が思ふ通りに取次いで呉れぬ。言葉が自由に通せぬので、日本人は大に苛立つて、ボン〳〵と怒鳴つたから、交換手も腹を立てゝ、二言三言口應へをした。之を聽いた日本人、止せば可いのに「キス、マイ、アス、(臀食へ觀音)」と遣かした。レヂーに尻を舐めろとは非道い言葉だ。「ゴッデーム、サノバ、ヴイッチ(此ン畜生)」と言ふ位の處に當る。果してレヂーたる交換手は怒つて、其日本人が使つた電話番號と使用時間とを調べて監督に訴へた。其處で監督は之を警察沙汰にして詮議の結果、其無禮な言葉を使つた日本人は憫れなる哉、五弗の灸を据ゑられた。其處で日本人は抗議を申込んで、「成程尻を舐めろと言つたに

二八　米國婦人

米國は女ならでは夜の明けぬ國で、世界文明國を通じて最も偉大なる權威を有つて居る女は、亞米利加女の外には無い。米國の女は法律の上に於て非常に保護されて居るのみならず、社會上男子に比して特殊優越の地位を占めて居る。米國婦人に對する社會的の保護は至れり盡せりで、工場職工から店の賣子及びタイプライターガールに至るまで、婦人に公開されてある仕事の範圍分量は非常に廣大であるから、米國婦人が就職難を訴へた例は曾て耳にしたことが無い。

米國の婦人は皆レヂーである。車掌の妻君でも、郵便配夫のお神さんでも皆レヂーである。また月に二十弗貰つて働いて居る賣子でも、二十五弗から三十弗位取つて居る工女でも、レヂーに相違がない。男

ましたネ」と言ふ。アッ、此れや不用意千萬なことであつた。獨身者で通して置けば可かつたのに、ウッカリ「左樣です」と答へて了つたから、もう取復しが著かぬことになつたと、自分の輕卒を後悔しながら、種々と考へて居る中に、此頃アンナがミルドレッドの使者だと言つて來たのは、事に依ると、獨身者か何うかと云ふことを探りに來たんではあるまいかと思出した。ヤッ左樣かも知れぬ、若し果して左樣であつたら、早まつた事をしたと、愈、後悔しながら頭を搔く。

* * * *

ウイリアムス家に居て、婦人の中に埋沒つて居る間に、亞米利加婦人に關する研究が大分に積んだ。これだけは大なる獲物である。

互に相談して、此方を飜弄しに來たのではなからうかと、胸が少しく變になつたが、吾も一人の男子だ、女位に飜弄されて堪るもんかと、勇氣を鼓舞して下へ下りて、バラーへ入つて行くと、白いウエーストに黑いスカーツを穿いて、頭髪を綺麗に分けた孃が、椅子に掛けて、嬌羞を含んだ眼で、此方を見て居たから、ハッと思つてドギマギしながら挨拶をする。自分の好む服裝を著けて、見せて呉れる孃の心、矢ッ張り飜弄する氣ではなかつたなと思ふと、頭腦が妙に混線して來た。

＊　＊　＊　＊

それから二三日經つてから、バラーでウイリアムス老夫婦と種々世間話をして居ると、老人は突然「貴君はマリードマン(既婚者)か」と訊く。ツイ正直に「左樣です」と答へると、傍に聽いて居た夫人は驚いた顏をして、「オヤ左樣ですか、貴君は獨身の方だと思つて居ましたが、鑑定が誤り

嬢が何か用事があるのか知らん、用事があるなら自分で來れば可いにと思つたから、

「ミルドレッドさんは何處に居ますか」

「下のバラーに居ます」

「何う云ふ用事ですか」

「知りません」

使者に來なから用事を知らぬとは、妙な言を云ふ。

「使者に來なから、用事を知らんていのは、可笑しいぢやありませんか。言つて御覽なさい、使者の口上を」

「左樣々々アノ……アラ妾スッカリ忘れて了ひました」と言つて背を後にして、急いで下へ下りて行つたが、暫く何かヒソ〳〵と話をして居るらしい。五六分程經つと、兩女の高い笑聲が聞えた。

合つて居るのか好く解らない。暫時すると談話が止まつて、誰か二階へ上つて來るやうであるから、開け放した儘の戸口を見て居ると、アンナの姿が現はれた。予は聲を掛けて、

「サア御入りなさい」

「イヽエ此處で澤山よ」と言つて立つて居る。

「イヤ澤山なことはありません、マア御入りなさい」

「イヽエ入りません」

「何故入らないんです」

「妾御使に來ただけですから入りません」

「一體誰の使に來たんです？」

「ミルドレッドさんの使に來たんです」

老夫人が退去した後で、一頻り東洋の話をして聽かせた。嬢は大に滿足して、思はず長坐をして傾聽した。そして歸へる時、奥へ行つて老夫人と二言三言話をして、戸口の方へ出て行つたが、予は彼女を見送りながら、彼女に向つて、「學生服の方が好く似合ふ。頭髪は前夜の結方が好い」などと、男の癖に著物のみか、頭髪の具合まで、氣にするやうなニヤケた言を云ふと嬢は嫣然と笑つて、

「アラ左様！それでは此次には學生服を著て、そして頭髪も分けて參りませうね」と

云つて出て行つた。

（下）

今日も嬢は下のバラーへ來て居る。何かアンナと談話をして居るらしい。頻りに笑聲がして居る。上と下で話聲は聞えるが、何を談し

ヨッと御免下さい」と言つて、奥の方へ入つて行つた。老夫人氣を利かしたのか知らん、若しも左樣であつたら、ホントウに話せる。お婆さん偉い！却々日本の婆さん達の及ぶ處にあらずだ。一體怪しからぬのは日本の婆である。若い者が談話をして居る時には、必ず奥へ引込んで、念佛でも唱へて居れば可いのに、唯もう若い者の席へ出遮張りたがる。年寄は一切若い者の領分へは入るべからずと云ふ法律を作つて、六十以上の老人は隱居をすることとし、若し犯した時は日本アルプスへ持つて行つて捨てることにしたら、若い者は何れだけ助かるか知れやしない。日本は老人が跋扈して、若い者の壽命を縮めやうと掛つて居るのは實に苦々しいことだ。其處へ行くと米國の老人は偉い。別してウイリアム老夫人は偉い。席を外すから感心だ。若し孃が歸る頃まで奥に居て、出て來て呉れなければ、金鵄勳章でも遣る。

今日は、嬢は絹の細かい碁盤縞の揃ひの衣服を著て、頭髪も先夜とは異つて、前髪を高く取つた束髪に結つて居た。美人は何を著ても、又何那髪の結方をしても、よく適恰る。併し嬢には矢ッ張り白いウエーストに黒いスカーツと云ふ學生服が好く似合ふなどと考へて居ると、嬢は「今度御閑暇がありましたなら、少し東洋の御話が承りたいと思ひます」と言ふから、「東洋の話なら今日でも宜しい」と言ふと、「今日と云ふのも何ですから、また此次に御願致しませう」と言ふ。「それでは此の次に」と言へば、嬢は必ず歸つて行くに相違無いと思つたから、「今日は幸ひ閑散だから、何か話しませう」と、少時でも嬢を引留めるやうにする。此處で嬢が尻を落著けて聽いて呉れゝば非常に嬉しい。序の事にお袋が奥の方へ引込めば尚宜しい。腹の中で、お婆さん奥の方へ引込んで行つしやいと、言つて遣りたい位に思つて居ると、老夫人は何と思つたか、「チ

するとて寢て居たから、孃は五分間程アンナと談話をして、下のバラーへ來てお袋と話をして居る。綺麗な透徹るやうな聲が、自分の部屋まで聞えて來る。ア、何だか會つて見たいやうな氣がするが、此方から下りて行つては、何だか安ッぽく思はれはしないか知ら、それとも階段の上から聲を掛けて、孃に此方へ御遊びに御出なさいと言はうか知ら。イヤ其れでは失禮に當る。其那日本流の手は出せない。寧そこれから下へ下りて行つて、今日は！てな言を云つてバラーへ入つて行く方が淡泊して宜いと、ツカ〳〵ッと階段を三四段下りかけたが、不圖立停まり、それでは餘まり不作法だからと、チョッと考へて部屋へ戻つて、帽子を冠つて、下へ下りた。テレ隠しに外出を裝つて、孃の顏がチラッと見えたら、チョッと挨拶の爲に、バラーへ入ると云ふ見えだ。孃は予の顏を見ると、椅子より起つて愛想好く迎へた。

手腕如何に在りだ。男子と生れて、想ひを懸けた女を手に入れることが出來んで、ミス〳〵他人に取られるやうなら、潔く男を止めて了ふが宜しい。

其處で先づ孃と交際する。そして孃の好きさうな物を研究して、嗜好を同じくするやうに努める。男子として非常に賴母しいと云ふ處を見せる。手腕があつて、必ず出世をする人に相違無いと思はせるやうに仕向ける。人情には東西共に異變は無い。日本の女に好かれるやうな男なら、大抵は米國の女にも亦好かれるであらう。日本婦人に對する原則を少しく牛酪臭くして應用するなら、成功疑ひ無しだ。これあ少し面白くなつて來た。

（中）

中一日を隔てゝ孃はアンナを訪問した。折柄彼女は風邪の心地が

色が非常に宜い。顔の輪郭が正しい。之を三人の娘と一緒にして、花に譬へて見るなら、嬢は薫床しき薔薇の花で、アンナは夕顔の花、姉のリーダは枯尾花で、妹のウイニフレッドは南瓜の花位の處である。アンナは立派に賣口がある。併しリーダはあの痩せてヒョロ長くて、愛嬌の乏しい具合では、何うやら一生スピンスターで暮らすらしい。妹のウイニフレッドは先づ車掌か、郵便配夫のお神さん位が關の山だ。扨てミルドレッド嬢は何うであらう。あの立派な縹緻で、氣質も顔の通りに優しさうだから、何那立派な處へでも緣著ける。求婚者は雨の降るが如くに多いだらう。若し假に自分が結婚するのであつたなら、必ず嬢のやうな女を撰む。若し競爭者があつたなら、辣腕を揮つて、片ッ端から敵を征伐して呉れる。何も日本人だからとて悲觀したものでない。日本人で立派な米國婦人を娶つた例は幾らもある。要は男の

ンケトー在の農家の娘で、年齢は二十二歳、非常な美人で、黒味掛つた髪を頭の中央から分けて居る處が一層美貌を添へる。老人の紹介が終つてから、孃は予に向つて、「昨晩の御演説は非常に面白かつた」と言ふから「少し激昂して居ましたから、能く解らなんだでせう」と言ふと、孃は「イイエ、大變能く解りました。もう一度御聽したいものです」と言ふ。實際當夜の演説には精神が籠つて居たし、ユックリ遣つたから、出來が好かつたやうに思はれる。其れを美人の孃から、讃められたんだから、心から嬉しいやうな氣がした。種々な話をしたが、三十分程經つて孃はアンナと共に外へ出て行つた。

孃は實に美しい。アンナも美人の中だが、愛嬌が乏しい。姉妹としては向くが、友達としては不向だ。何と無く物足りない感がする。其處へ行くとミルドレッド孃は實に立派な者だ。第一愛嬌がある。血

說を遣つたから、ツイ逆ッ腹が立つたので、懲しめの爲に牛刀を揮つて見たが、之を聽いたウイリアムス老人は、滿面に喜悅の色を浮べて喜ぶ。他の人は何うかと三人の娘を見ると、何れも同情の眼を以て予の顏を見て居たが、最前から二番目の娘アンナの横に腰掛けて、熱心に傾聽して居た一人の女學生がある。

二七　ミルドレッド孃

(上)

討論會の翌日、下のバラーで、老人とアンナに向合つて對話して居る一人の女がある。無聊の折柄中へ入つて行くと、老人が紹介する。其女はアンナと同級生で、名はミルドレッド、ピアスといひ、ミネソタ州マ

も足を踏入るゝことが出來ぬと云ふなら、先づ以て米人は米土以外に足を踏出してはならぬと云ふ規則を設けてからでなければならぬ。然らざれば此說は通用せぬ。少くとも黃色人種が占領して居る亞細亞大陸と馬來人種の住む南洋諸島へは、白色人種は入らないと云ふ前提を置いてからでなければ、甚だ遺憾ながら、貴君の說には贊成を表することが出來ぬ。予は米國は米人の有にして、黃色人種入るべからずと云ふ貴說に對して、亞細亞は亞細亞人の有にして、米人其他白色人種は之に入るべからず。從つて英國は印度より、露西亞は西比利亞より、佛國は安南より退去し、又米國は本來馬來人の有たる比律賓より退去すべきものなりと主張するを當然なりと思ふ」と遣付けた時には其大學生は更に顏色が無かつた。何のミネソタ大學位のヘボ大學の鼻垂小僧に、少々大袈裟な議論だと思つたが、現在日本人の居る前で彼那演

ふのが、非常に癪に觸はる。無禮な奴だ、眼前に日本人の拙者が坐つて居るに、斯う云ふ不都合な演說をするとは憎い奴だと、腹の中で業を煮やして居ると、老人何と思つたか、「お前も一つ遣れ」と勸めるから、「ヨシ來た」と言つて起上つて駁論を始めた。「先づ米國は果して諸君が自ら米國人であると、稱へて居る處の白色人種の有であるか、甚だ疑問である。少くとも自分の見解では、コロンブスが此大陸を發見した以前より、米土を占領して居た印度人が、米國は吾物なりと主張し得る權利者であると思ふ。然るに後に至つて歐洲より來た移民が、什麼に此憐むべき印度人を迫害して貴重なる彼等の領土を掠奪したか、歷史を讀んだ諸君は知つて居る筈だ。併し歷史上の事實は兎も角、現在に於て如何なる人種と雖も、此米土に對して權利を主張する者が無い以上は、此大陸は正しく諸君の有である。けれども此米土に對して、黃色人種は一步

舌を練つて居る。或日のこと、下のパラーに男女の學生が十數名集まつて盛に辯論を戰はして居たから、退屈凌ぎに下へ下りて來て傍聽すると、討論の主題は「婦人參政權の許否」と云ふので、男女が火花を散らして辯難して居る。可とする論者は米國の獨立宣言の文句及び奴隷解放の理由等を楯に取つて、婦人參政權の必要を主張すると、否とする者は之に對して男女各天分あり、政治は婦人の仕事にあらず、若し婦人に此權利を認むるならば男子と同じく一切の義務を負擔せしむべしなどと、月並的の事を言ひ合つて居たが、結局一時間で勝負が著いて、婦人參政權論者の勝となつた。

勝負が濟むと、或一人の氣障な男學生は、突然起つて例の米國は米人の米國で、支那人の米國にあらずと云ふ陳腐な議會の演說の復誦を始めた。其演說の中に頻りにエーロー、ゼンツルメン(黃色紳士)の語を使

予に向つて、「日本の女は何うですか」と訊くから、「日本の女は米國の女のやうに教育が無いから、批評の價値は無いが、近頃は無暗に新しがつて困まる。日本の女の地位もこれから一變するであらうと思ふが」と言ふと、老人は笑いながら、「其れは困まる。女が生意氣になつては、社會の秩序が紊れて來る。貴君は日本へ歸へられたら、大に婦人の美德を養成するやうに、努めなければならぬ」と、眞面目になつて忠告する。之を聞いて娘達は非常に不平らしい顏をして居た。

二六　日米討論會

此頃ミネアポリスなるミネソタ州立大學では、懸賞討論會があると云ふので、男女の學生は吾こそ二百弗の賞金を得やうと、一生懸命に辯

老人は竹を割つたやうな男で、何でも思ふことは忌憚無く言ふ。「貴老は米國で何が一番好物か」と訊くと、「リヴアサイドのオレンヂだ」と答へる。「嫌いなものは」と訊くと、「ルーズヴエルトだ」と言ふ。「それは何う云ふ譯か」と問ふと、「少しも誠實が無いからだ」と答へる。老人はルーズヴエルトのことをビッグ、グラフター(不正な政治家)だと罵つて居る。又老人は常に口癖のやうに米國婦人を非難して、「米國の婦人は氣位が高くて可かん。其處へ行くと蘇格蘭の女は溫順で優しい。英國婦人も惡しくは無いと言ふ。老人の母は蘇格蘭人であるさうな。併し米國で生まれた三人の娘は蘇格蘭人の祖母を有つて居ることを、格別有難いとも思はぬと見えて、躍起になつて老人の說を辯駁する。老人は一々之に應じて、「婦人を見ることは男子に若かず、婦人が同性の女を批評する眼には誤りが多い」と言つても、娘が承知しない。スルと老人は

ゆくりなくもミネアポリスへ著いて、或老醫師の家に來て、暫く滯在する。主人の名はジョージ、ウイリアムスと云つて、年は六十二三に見ゆるが、非常に岩疊な爺さんである。妻君は五十二三の弱さうな女で、夫婦の中には三人の娘がある。長女は二十六歳で小學校の先生、次が二十一で大學生、末子が十八でハイスクールの最上級に居る。縹緻は二番目の娘が一番好くて、日本人向の顏をして居る。母子共非常に氣質が好くて、飛入新參の予に對して、非常に親切にして呉れる。別して主人の老翁は朝から晩まで暇だと云ふので、予の部屋に入浸りになつて、政治談を遣る。宗教談を遣る。時には婦人問題にまで論及して、議論の勝負が著かぬので、下のパラーへ下りて行つて、母子に審判させることもある。ウイリアムス老人は、醫者とは名ばかりで、三四年もう廢業して居るのだ。

を以て、附けられたものらしい。車窓より四圍の景色を見るに、單調で一として目を樂ましむるものが無い。唯此邊より工夫が化石した魚を掘出して來ることがあるので、地質學や生物學に趣味を有つた人達が展望車の中から熱心に此景色を眺める位である。兎に角落機の高峯は太古海水の底か、左無くば湖水の底にあつたものらしい。其れが今日地球の最凸部の一となり、其上を汽車が走つて行くやうになつたのは、實に恐ろしい變化である。吾々は今でさへ無線電話の發明や、飛行機の進歩に驚いて居る位であるが、今後千萬年も經つたら、世は如何に變化して行くことやら、それを思へば未來が恐ろしくなる。

二五　老醫師の家

を打つて、

「收獲前にあり、急ぎ三千萬弗用意せよ」と

言つて遣つたが、支配人は驚いて、「餘りに冒險過ぎるから、再考せられては如何」と云ふ返電を寄越した、ハリマンは直ちにペンを執つて、

'I have no time to lose to discuss' (問答は無用、寸時も猶豫すな)と

認めた電報を打つて、金を取寄せて、遂にユービーの經營者となつたが、果して其通り、立派に儲かる鐵道となつた。ハリマンは實に偉い男である。一代に何億萬弗と云ふ金を作つた手腕は、日本の成金者流の眞似の出來ない處であると、窓に倚つて感想に打たれながら、外を見て居ると、汽車は早くも落機の高峯に差掛かつた。木標を見ると、八千六百呎フィートとしてある。四邊は皆赭土で、處々に小屋のやうな大きな岩がゴロゴロと、轉つて居るのが目に著く。ロッキーの名は大方斯かる意味

人となり、二十二歳の時には、獨立して、ウオールストリートの仲買組合に入つて、立派な仲買人となり、二十四歳の時には既にミリオネアになつて居た。而して中年より鐵道經營に從事して、著々と成功し、十數年前にハンチントンが死ぬや、訃音に接して、紐育から加州に飛んで來て、未亡人の手より一億萬弗にて其持株を讓受けて、エスピー鐵道會社の社長になり、間も無くユニオン、パシフイック會社をも手に入れた。

其頃ユーピー(ユニオン、パシフイックの略)鐵道は非常に經營が困難を感じて、缺損に次ぐに缺損を以てするの有樣であつて、何の資本家も之を見離した。ハリマンは之を聽いて、自身に鐵道の視察に出掛けた。此時彼は冒險にも、機關車の前に一臺の展望車を著けて、後から機關車に押させて進んで行きながら、沿道を精密に視察したが、此鐵道は確かに儲かるものと見込が著いた。其處で途中から、紐育の事務所へ電報

二四　怪傑ハリマン

落機の麓に雪の消ゆる頃オクデンを出立して東に向ふ。同地よりネブラスカ州オマハに到るまでは、ユニオンパシフィック鐵道會社の線路で、其長さ正に一千哩、鐵道王ハリマンの經營の下に在る。此頃ハリマンは健康甚だ勝れず、墺太利へ渡つて溫泉で療養中であつたが、醫師は健康回復の見込が無いと言つた。果して彼は一年ならずして沒した。それは兎も角彼が一代の大事業は鐵道の經營で、晩年には六萬哩からの鐵道を支配して居た。彼は元と英國から移住した牧師の子で、家貧なる爲に完全な中等教育すら受けることが出來なかつた。併し蚤くより頴脫して居つて、十六歳の時に紐育に出でて、或仲買人の給仕となり、十八歳の時に其店員となり、二十歳の時に其店の共有者の一

の性慾を恣にした者は、唯ヤング君と家齊卿の二人あるのみで、而も兩兩十七人の妾を蓄へて、各五十何人からの子供を拵へた點が一致して居る。最も家齊は天下の大將軍として、日本の政權を握つて居たから、萬事意の如く振舞ふことが自由であつたに反し、ヤングは一職工から身を起して、米國政府の迫害に抵抗しつゝ、此快樂を續けたのであるから、前者よりは一層偉い處がある。而して彼は死んだ時に二百萬弗からの遺産があつたが、此れが五十七人の子供と十七人の妻妾とに分配せられた。一人平均三萬弗の金が有つたら、何うか此うか生活して行かれる。實に彼は死後の計まで立派にして快樂を恣にしたのであるから、其子孫から毫も非難される處が無い。但し其子供の寫眞を見るに、揃ひも揃つて下品なものばかりで、勞働者以上の風采を有つて居る者は一人も無い。

た。徳川第十一代の英主家齊公は十七人の妾を置いて、五十何人の子を拵へ、田舍源氏の大將になつて納まり返つて御座つた。日本人に比ぶれば五割方岩疊に出來て居るアングロサクソン人種中で、最も精力旺盛なるヤング君の事であるから、家齊卿以上に餘程强い處があつたらうと思ふ。果せる哉、彼は自分の記憶して居るだけでも、五十七人からの子供があると言うて、晩年に及んで殘らず一堂に置いて寫眞を撮らせたことがある。此寫眞をソートレーキの或商店で見て居ると、一人の白人が來て「それは何だ」と訊くから、故意と「何だか知らぬ」と言つて、眼前へ突著けて遣ると、其白人は一目見て「ゴッデーム、サナバベッチ」と寫眞に向つて惡口する。レヂーに聞かしたら大變な言葉だ。併し何と言つてもヤングは偉い。故伊藤公の艶福を以てしても、故桂公の靈腕を以てしても、彼に及ばざること遠しである。開闢以來男子として

るライオンハウスと云ふ家がある。丁度日本の土藏のやうな造りで家の入口に二匹の石造の獅子が、向合つて番をして居るので、ライオンハウスの名がある。これぞ有名なるブリガム、ヤングの住宅で、彼が在世中數多の妻妾と共に此中に起臥して居たのである。此ライオンハウスは粗末な平家建で、中央に廊下があつて、左右に幾つかの部屋があつて、各部屋にはヤングの寵愛を辱なうして居た年若き婦人が棲んで居て、時々其訪問を受けて居た。彼は十七人の女を貯へて居たから、若し一晩一人宛訪問するとすれば、一巡するには十七日は掛かる。併し其那手緩いことでは、末派の信者に範を垂れることは出來ぬ。其處で餘計な心配をする人は頻々と訪問しては健康が續くまいと氣を揉むであらうが、それはヤング君の爲には無用な心配である。

日本でも大名の英傑になれば、五人や十人位の妾では堪能しなかつ

いと言うて、笑つて居る者があつた。

ブリガム、ヤングは七十七年に數多の妻妾の看護を受けて死んだが、第三世モルモン管長は英國人のジョージ、テーラーで、前記キャノンが其後見人となつて、一層モルモンの盛況を見るに至つた。爾來四十年を經てモルモンは米國に於て偉大なる勢力を形成り、ユター州の政權金權兩ながらモルモン人の手に歸して居る。但し一夫多妻の惡習は今日の壯年者の間には更に行はれない。唯六十以上の老人の間に昔日の遺物として數妻を有つて居る者を見受けるのみ。

二三　ライオンハウス

モル、モン總本山の境内から出た處で、塀に沿うて南向きに建つて居

を以て此惡習を一掃することが出來ず。結局此禁止令は惡性の間歇熱に對する規尼涅程の利目も無かつた。而して國會下院は七十三年に一夫多妻を嚴禁する法律案を提出したが、恰もユター選出の議員キヤノンは、現に四人の妾を有つて居る位の人物であつたから、猛烈に之れに反對して議場に於ては懸河の辯を揮ひ、院外に在つては反對議員の誘致に努めたが、結局五十一對百二十七の少數で失敗し、一夫多妻禁止法案は大多數を以て下院を通過した。併し此法律は實際に效果が少かつた。それは若し之を實行するとせば、殆んどモルモン男子全部を、捕縛せねばならぬことになるからである。而して一方を見れば、議員の中にも後に米國の大統領になつた某將軍の如き、白人と黑奴との間に出來た少女を妾にして、私生兒を產ませながら隱して居る僞善者があつた程だから、餘りモルモンばかり喧しく責立てる義理はあるま

を張つて翌年を待つて居たが、モルモン軍は其間に屢、奇襲を試み、且つ印度人を使つてモルモン以外の移民百五十名を虐殺したが、野蠻なる印度人は或は移民の頭腦を打碎き、又は其頭皮を剝ぎ、或はまた其臟腑を割くなど、實に目も當てられぬ暴行を演じたので、政府は一層驚いて討伐の方法を講じたが、恰も南北破裂の機運が急速に促進されて行く際であつたから、大軍を動かすこと出來ず、大に其處置に窮したが、結局ペンシルヴァニア選出の議員コーンなる者仲裁の勞を執り、大赦を條件として、モルモンの降服を許したから、幸に事件が落著した。

南北戰爭後新知事が來り、一千八百七十一年に命令を發布して、一夫多妻を嚴禁したが、ヤングはセ、ラ笑つて、公々然として妻妾を愛して、淫行を恣にして居たので、知事は彼を捕縛して禁錮を命じたが、滔々たるモルモンの信徒は、悉く一夫多妻を行つて居たので、一ヤングの捕縛

處でヤングは奸策を廻して判檢事が仕事の出來ぬやうに仕向けた爲に、彼等は皆辭職して歸京したから、政府はヤングの職を免じて、ステプトー大佐を知事に任命した。大佐は一千八百五十四年に、軍隊を引率して赴任して來たが、州民は擧つて之に反對した爲に、如何ともすることが出來ず。纔かに州民の反抗を避ける爲め、其手兵を加州へ送つて冬營をさせた。併し斯那事位では州民の反抗を鎭めることは出來なかつた。越えて二年ヤングは竊かに州民に命じて兵士を派遣し、裁判所を襲擊して判檢事を放逐したから、政府はジョンストン大佐に一聯隊の兵を與へて、モルモン討伐隊を組織してソートレーキに向はせた。併しヤングは少しも動せず、窃かに敵の後方を斷つ軍略を講じ、側面攻擊を開始して、敵が貨車に積んで來た食牛八百頭を奪つて野に放つた爲に、米兵は非常に狼狽してソートレーキに薄ることが出來ぬ。冬營

には利息を附けて教會へ返納に來る。また農業者も種々な農產物を作つて金を返しに來る。其處で教會の基本金は倍增加し、信者の懷中合も好くなつて來る。ヤングの勢力は一年々々に强大になつて、信者は安んじて彼が節度を奉ずると云ふ有樣であつたから、ヤングは人を英吉利、佛蘭西、獨逸及び瑞典等の諸國に派遣して、移民の誘致を爲し、兼ねて健康な若い婦人を輸入して信者に配したから、三四年の間にユタの人口は五六萬人に達した。其處で一千八百四十九年にソートレーキで州民の代議員會を開いて、憲法を制定し、委員を首府華盛頓に派遣して、獨立の州たる承認を求めたが、政府は之を非認して米國の屬領としてヤングを知事に任命し、陰にヤングを監視する爲に數名の判檢事を派遣した。

判檢事の派遣はヤングが仕事をするのに、非常に邪魔になつた。其

なつて同地を退散して、カンシル、ブラフまで遁れて來た。併しカンシルブラフは土地が狹く、且つ安全な地帶で無いから、ヤングは人を西方ユター州に派遣して、土地の狀態を視察させたが、大鹽湖に沿へる數十方哩の土地は豐饒で、殖民に好適して居る土地であるから、視察員は歸つて來て其通り復命する。其處でヤングは、西方移住の命令を下して大軍隊を組織して、多數の婦女を引伴れて、ユター州へ出發させて、己れは一年後れて翌四十七年の七月二十四日に、ソートレーキに到著したが、此れより此怪傑ヤングの活動期に入る。

ソートレーキ附近は非常に土地が肥沃で、農牧に適して居るから、ヤングは信徒を督勵して、夫々農業と牧畜に從事させた。そして資力の無い者には、教會から金を貸附けて事業を奬勵した。牧畜業者は牛酪や、乾酪や、乾豚肉や、燻肉を造つて東部へ輸送して金を受取つて、一年後

死と共に管長の選擧を行つたが、ブリガム、ヤングが之に當選した。

二二　ブリガム、ヤング

五十七子の親

スミスの牢死と同時にイリノイス州知事はモルモンの根據地たるノーヴーの市條例を取消したる爲め、信徒は會議を開いて西方へ移住することに決し、一千八百四十六年イリノイス州を後にして、アイオワ州カンシル、ブラフ(ミッソリー河の上流オマハ市の對岸)に引移つたが、多數の信徒の事とて半數以上はノーヴーに殘留つて居た。處で純粹の基督教徒はイリノイス州にモルモンの如き邪宗徒を置くことは出來ぬと言つて、四方よりノーヴー市を砲擊した爲め、信徒はバラ〳〵に

以て市外に遁れ、州知事にスミスの暴狀を訴へ、逮捕狀を受取つてスミスを捕縛しに來たので、彼は直に軍隊を組織して、捕縛が出來るものなら見事に捕縛して見よと威嚇した。其處で警察署では民兵の出動を求め、兩々相對して今や火蓋を切るばかりになつた。當時恰も米國南北の間に政治上の衝突あり、今にも干戈に訴へやうとする場合であつたから、知事は人を遣つてスミスに忠告して、「溫順しく一旦入牢することにしたら何うか」と說かせた結果、スミスは服罪して入牢したが、豫てスミスの暴狀を憎んで居た人民は、隊を組んで牢屋の中へ闖入して、鐵砲でスミスを擊殺して了つた。彼は年漸く四十で、將來多々倍々惡事醜行を恣にし得べき年配であつたが、既往の罪惡の爲に、未だ十二分に其滿足を遂ぐる能はずして、社會的制裁を受くることになつたのは、寧ろ自業自得と謂つべしである。而して敎會の十二宗徒はスミスの橫

よ、地に滿てよ』と告げられた。其處で人類の繁殖を圖るには、男女が盛んに性慾を發揮しなければならぬ。また神は吾々に『新大陸殖民の大事業を完成せよ』と命ぜられたが、此大事業を行ふには、多數人の力に待たなければならぬから、男子は宜しく數人の妻妾を蓄へて、大に子孫繁榮の端を開くべし、但し人類は對等の待遇を與へなければならぬから、妻女は皆平等の權利を認めて遣ることにすれば、神の御弟子として、此教會を預つて居る予は、信者一同に一夫多妻を許す」と宣告したから、素地は好なり御意は宜しの連中は、皆スミスの風に倣つて蓄妾を始め出した。此時スミスの友人にフオスター博士と云ふ者があつて、社主として一新聞を經營して居たが、之を見て大に驚き、盛に其紙面にてスミスの匪行を攻擊したので、彼は烈火の如く憤つて、數十人の壯士を差向け、新聞社を襲擊して、社主を捕縛しやうとしたから、社主は纔かに身を

の指圖を乞うた。其處でスミスは一年の間にノーヴー市を建設し、州知事の認可を經て市條例を作り、自ら教會の管長兼市長となり、別に軍隊を組織して其總司令官となつたが、時は一千八百四十一年、彼が三十六歳の冬であつた。

多數の信者はスミスを神と敬ひ、彼の威權は隆々として、旭日沖天の勢であつたから、遂に非常に傲慢になり、加ふるに彈け割れるばかりの精力は、到底一人の正妻では滿足し切れなくなつて、若い信者の娘を七人まで撫斬にして、妾として圍つて置いたが、正妻が悋氣をしたり、信者の中で喧しく言ふ者があつたから、彼等を納得させる爲に、神に伺ひを立てると言つて、數日間一室に閉籠つて考へた結果、神が一夫多妻を認めたと言つて、堂々と其理由を説明したが、其説明が甚だ振つて居る。先づ彼は舊約を引用して、「神は人間を創造つた時に、『爾等生めよ、殖へ

行したが、遣方が餘り派手であつた結果、二年後に於て銀行が破産した爲に、スミスはリグトンと共に夜逃をしてミッソリー州に入り、多數の信者は後からスミスを追うて同じくミッソリーへ來たが、州民はモルモン信徒を異端外道として、蛇蝎の如く憎んで大に迫害を加へたが、頑迷なる信徒は深くもスミスを尊信して、出來る事ならミッソリーの州王か、又は米國の皇帝兼法王としやうと云ふ意氣込を以て、奮鬪防禦することに決したので、スミスは之に元氣を得て、堡壘を築いて、防戰頗る努めたけれども、衆寡敵せず、到頭捕縛せられて牢屋へ打込まれたから、首領を失つた一萬五千の信徒はミッソリー州から、道を北に取つてイリノイス州に入り、コンマースと云ふ處へ落著いて、スミスを救出す方法を研究して居る處へ、恰も好し、スミスは自から破獄をしてコンマースへ遣つて來たから、衆皆手を額にして之を歡迎して、萬事を擧げて彼

人民は大に激昂して、或夜彼の寢室を襲擊して往來へ引張出し、顏一面にコールターを塗つて木に縛著けた事があつたが、一年程で景氣も恢復し、其間に敎會の組織も出來て、彼は其敎會の管長になつた。然るに幾何も無く其放縱の遺方が仇を爲して、敎會が崩れ掛けたが、恰もブリガム、ヤングと云ふ非常な手腕家が出て來て之を救つた。此男は後に至つてライオン、ハウスの主人となつて、一夫多妻主義を極端に發揮したヤング其人である。彼は元とヴアーモント州の出身で、一箇の高等職人であつたが、非常に意思の鞏固な、大膽な男で、辯舌に掛けては之に及ぶ者なく、殊に人を引著ける力を有つて居た。

ヤングはスミスに獻策をして、一千八百三十五年に、基督の例に倣つて十二宗徒を作り、米國他地方は勿論、歐洲諸國へも宣敎師を送り、其翌年には、カートランドに大寺院を建立して、宗敎と殖民との二事業を兼

明つたから、遂に之を掘出したが、其本は縦八吋横幅七吋厚さ六吋あつて、金の延板の上に埃及語で新約の附録が認めてあつた。其處でそれをオリヴアー、カウダリーに飜譯させ、マーチン、ハリスと云ふ富豪の援助を以て、飜刻したのであると言つて、盛に吹立てたのみか、吾は豫言者にして神の御弟子なりと宣して、紐育州のファイエットで説教を試みたが、信者は僅かに三十人ばかりで、其他の村民は一齊に罵倒して相手にならなかつたので、スミスは到底其地では見込が無いからと、リグトンと相談の結果、同地を去つてオハイオ州カートランドと云ふ處へ移住したが、三十人の信者はスミスを慕つて同地へ隨行して來た。此時彼は漸く二十五歳の若者であつた。

カートランドへ來てから、スミスは間も無く銀行を設立して其頭取となつたが、一年足らずの間に大分不拂手形を出した爲に恐慌を來し、

斯う云ふ父母の下に育つた人間であるから、彼も亦頗る奸惡で、既に十五歲位の時には三十歲位の大人の智慧があつて、常に鄕黨を驚かして居たが、同時に自信力が非常に强かつた爲に、常識ある者からは、狂人扱ひにされて居た程であつた。此時スミスに一友人あり、其名はシドニー、リグトンと呼ぶ者であつた。彼は或處で一冊の敎典を手と入れたので、之を持つて來て、スミスに呉れたが、之を披いて見るとモルモンの聖典と稱する本で、丁度一千八百十二年に誇大妄想狂のソロモン、スポーヂングと云ふ坊主が書いたものであつた。スミスは之を祕して置いて、或日愚直な土地の農民に向つて、今より四年前の九月二十一日の夜天使が三度現はれて、新約全書の附卷が或處に埋藏してあるから、發掘せよとの事であつたから、四年の間一生懸命に搜索したが、其敎典の埋藏されてあつたのはマンチエスターの附近であると云ふことが判

ーメン」などと祈禱をして居るなどは、鰯の摘み食をした手で木魚を叩くよりも罪が深い。併し斯那宗旨が繁昌する筈が無く、間も無く此坊主は或若い女に手を著けた爲に、其女の弟から銃殺せられ、また女は自分の戀慕つて居た可愛い坊主を殺したからには、弟であらうが容赦は無いと言つて、其弟を銃殺すると云ふ大椿事が出來に及んだので、愉快宗は到頭一場の夢なりけりで消滅なつて了つた。斯う云ふ米國だから、モルモン宗が出來たとて別に不思議は無い。

閑話休題として、モルモン宗は今を去ること八十三年前、即ち西暦一千八百三十年にジョセフ、スミスと云ふ者が、米國紐育州マンチエスター附近で始めて創始へた宗旨である。スミスは一千八百五年ヴアーモント州シャーロンに於て生れたが、其父母と云ふのは非常に下劣な賤民で、其性質が非常に奸惡な爲に何人も之と齒する者が無かつた。

基督教の眞理を闡明したものだと云つて居るが、眞正の基督教徒は己が仲間の中から、斯那妙な者が飛出して來たと云うて恥ぢて居る。彼等はモルモンを目して基督の名を騙る邪宗淫祠であると云ふて居るが、實に其通りで、基督教國に於て、而も第十九世紀に於て、斯那宗教が生れて來たのは頗る珍とするに足る。元來米國には時々妙な者が現はれて來て、世間を驚かすことがある。今から十年程前に、ワシントン州に愉快宗と云ふものが出來たが、此宗旨は唯愉快に生活すと云ふのが目的で、夜になると男女が寢衣の儘で、一堂に集つて、舞踏をしながら徹夜する。牧師は若い女に對して、「お前方は成るべく多數の男子の肌に觸れたら、必ず極樂往生が出來る」と言つて、先づ片ッ端から女に引導を授けて、牧師自ら範を示したので、信者は大喜びで醜交を恣にする。さうやつて亂暴をして置いて、「主よ吾れをして誘惑より免れしめ給へ、ア

天に聳ゆる高塔を東にして、數多の殿堂が參差として立つて居るモルモン宗の總本山へと著く。境内に入つて見ると、唯宏壯雄大の觀はあるが、別に崇高森嚴と云ふやうな感は起らない。一言を以て之を云へば、モルモン總本山は唯米國第一の寺院で、駿河臺のニコライを十數倍しても、尙之に及ばざる程の立派な建築だが、漸く五六十年此方の建物で、まだ立派な苔が著いて居らぬ。夫の音に名高き倫敦のウエストミンスター、アッベなどに比べては、殆んど寺院としての價値が無い。併しユター殖民の記念物としては、相當に語るべき話の材料を有つて居る。

今日世界の宗教として立派なものは、佛教と耶蘇教との二つであるが、此二つの宗教には崇邃なる神祕がある。淵微なる眞理がある。併しモルモンには更にそれが無い。モルモンの僧侶や信者は、之を以て

詳しく聞いて始めて解かつた。米國巡査の腐敗は實に言語道斷である。ハンケチを强請る位は安値なものだ。チャーレーが進物の催促位に留めて置くなら、まだ良い巡査であると考へながら、不圖奥の方を見ると、チャーレーは袋の中から乾鮑を出してボリ〳〵と嚙んで居る。

二一　モルモン宗

ジョセフ、スミス

オクデンから南に行くこと三十哩にして、ソートレーキ市に達する。市はユター第一の大都會で、有名なる大鹽湖に沿うて建設せられたので、鹽湖市の名がある。停車場から東へ一哩足らず行けば、巍然として

遣ると、「マア左様腹を立て給ふな。枕探しが金を隠匿せば巡査は何處までも追究するし、女郎を非道く迫害するから、取つた金は後で正直に白狀する。假令幾何かクスねて警察へ持つて行つても、取られた男が正直に幾何取られたと訴へて出るから、金額が判然と分明る。若し百弗と申告したら警察の取分が五十弗で、係りの役人が月給高で按分するだけさ。結局女は警察の保護で枕探しが出來るから安全なもので、訴へられた後でソッと巡査に白狀して、前夜の仕事なら家へ歸つてから金を屆ける、若し現行犯なら靴下の中へ蛇が蛙を呑込んだやうに、仕舞込んで置いた奴をザクリと出して、卽座に二一天作を遣る。泥棒は案外正直な者だから、斯う云ふ正直な御客樣が澤山御入來になるやうにと、警察では毎日祈つて居るのさ。サア解つたか、解つたら彼方へ行つて御茶でも召喫がれ。」

獨り之を取らざるの理無く、親分が泥棒をするのに、乾兒が獨り正直に働くと云ふのは、テニオハが合はない。巡査が賄賂を取るのは米國では當然の事としてある。

それにしても腑に落ちぬのは、巡査が枕探しと金を分配する事だが、假令枕探しがあつて金を澤山取つても、隱匿して了へばそれまでゝ、巡査が分配に有著かうと思つても駄目ぢやないかと、御公卿男爵の金井君に訊く。金井君は在來十數年、儲けた金は悉く酒と女とに入揚げて、年中ピー〳〵で居る特志家だけに、其道に掛けては詳しいもんだから、眞面目に質問すると、ゲラ〳〵笑つて、「貴君は見掛けに依らぬ智慧の無い男だ、左樣想像力が鈍くては困る、モット頭腦を鋭敏にして、新米風を拔くさ」と、大阪朝日の天聲人語調で眞向から來るので、勃然として「何が新米だ、當然の事を訊くに新米とは、失敬な言を云ふな」と言つて怒つて

米國初代の大統領華盛頓は高潔なる君子人、リンコーンも亦君子人、現大統領のウッドロー、ウイルソン閣下も人格の高い人らしい。此人は其容貌の示す如く、氣品の高い處があるやうに思はれる。之に反してルーズヴエルトは能く物議を惹起した人だ。現に二回も誹謗の訴を起したことがある。併しルーズ君の信用は世人が烟を見て火を想像しない位の程度に在る。予がミネソタの某地で知合になつた米人は、ルーズヴエルトの事をビッググラフターだと罵つて居つた。グラフターと云ふのは公盜と云ふことである。また前大統領のタフトは令名の無い代りに惡名も無かつた。タフトが紳士であると云ふことは予輩が固く信じて疑はない處である。併し其部下からレーキタホーの水力問題の醜聞を出して、共和黨の分裂を來した事は有名なる事實である。遮莫英雄の下弱卒無し、上官たる親分が賄賂を取るのに乾兒

ないか。一體米國は怪しからぬ國で役人の泥棒が非常に多い。曾て紐育にはタマニーホール一派の公盗が久しく市の財産を掠めて居た。中には建築費タッタ二十五萬弗のコートハウスを一千萬弗と記帳して、差額の九百七十五萬弗を著服して、仲間で分配した醜類があつた。其他桑港のルーフ一派、費府の瓦斯リング等を重なるものとして、米國の大小都市には札著の公盗が飼つてあつた。若し試みに世界に於て最も腐敗したる者は何なりやと人問はゞ、余は卽座に米國の役人だと答へる。併し役人の種類は多い。大統領もまた役人だが、同じく腐敗して居るかと問ふ人があつたならば、予は必ずしも左樣であるとは言はぬ。成程大統領の中には下劣な人物もあつた。特に數代前には貪婪飽くことを知らず、且つ素行の非常に修まらなかつた大統領があつた。其代りにまた非常に立派な人もあつた。總て物には例外がある。

米國の巡査は大抵チャーレーのやうな者ばかりだ。中にはそれ以上に非道い奴がある。淫賣の立番をする奴があれば、掏摸を內職にする奴もあり、枕探しの金を捲上げる奴もある。夜暗い瓦斯燈の影などに立つて居て、醜窟から出て來る遊冶郎の顏を眺めて、薄氣味の惡い笑を漏しながら「へ、、、御樂しみですね」などと厭な御世辭を並べて、相手が外國人で氣の弱さうな人間と見ると、一弗位の酒手に有著く奴がある。醉拂ひが往來に倒れて居ると、介抱しながら馬車か自働車で警察へ護送する途中で、衣囊の中のものを掏取つて了ふやうな手先の器用な奴は數知れぬ。甚しきに至つては、女郎と共謀になつて客の枕探しを遣らせて、其金をコッソリ二人で二一天作を遣るやうな惡辣な巡査がある。米國の枕探しは半官業と云つても宜い。其證據には嫌疑者として捕縛されても、服罪しても處刑を受けた者が殆んど無いでは

高らかに呼んで入つて來た。何か呉れいといふ謎である。まだ遣るとも遣らぬとも決して居らぬに、早くも進物の御催促は恐入つたと、巡査の顔を眺めて居ると、ツカ〳〵ッと奥へ進んで來て「今日は何を呉れる」と訊く。忌々しいので默つて居ると、ショーケースの中へ手を突込んで搔捜がすから、見て居られなくつて、「何をするんだ」と聲を掛けると、チャーレーは平氣なもので、五六枚の絹ハンケチを出して刺繍の模様を見て、「自分のワイフは美術的の思想を有つて居るから、斯う云ふハンケチを喜ぶだらう。いつそ之を基督降誕祭の贈物に呉れんか」と言ふ。蟲の好い奴だと呆れた顔をして見て居ると、手早く三枚程衣嚢の中へ入れて了つた。米國の巡査はこれだから人に馬鹿にされる。彼等には警察官たる威嚴が更に無いから、人民は決して恐がらぬ。恐がるのは令狀を持つて捕縛に來る時のみだ。

闘に籠つて居る武士道の精神が、流れ〳〵て米人の血管に泌込んで居るやうである。此點は到底日本人の及ばぬ處だと熟々感心した。そして意氣悄沈して居る紋吉を促して店へ歸つたが、彼は其以後全く別人のやうになつて、喧嘩をしないやうになつた。頭の上に御見舞を受けた米利拳が餘程好く利いたと見える。

二〇　巡査の腐敗

愈〻基督降誕祭も近いて、年末の贈答に頭腦を痛めて居る處へ巡査のチャーレーが遣つて來た。チャーレーはオクデン警察署詰で此管區受持の巡査である。今日は入口から、

「メリー、クリスマス」と、

紋吉を抱起して遣ると、相手の若造は落ちて居た帽子を拾上げて、手で塵を拂つて紋吉に冠せて遣つた後、手を出して強ひて握手をした。散散非道い目に遭はせて置いて握手をするとは、隨分人を馬鹿にするにも程があると、米人の習慣を知らぬ者はさう思ふであうが、其處が所謂米人の武士道で、却々價値のある處である。

米人は喧嘩をする時には、決して他人の助力を求めない。見物人は決して彌次的聲援を與へない。二人で堂々と喧嘩をさせる。若し一方に加勢する者があつたら、反對側から（　）て制裁を加へるから、何れも默つて眺めて居る。そして充分に喧嘩を遣らせて、勝負が附いてから退散する。若し其喧嘩の當事者同士が平素互に知合の人間である時は、綺麗に握手をして別れる。恨みを後日に遺さぬ爲に、男らしく一切の事を、喧嘩の勝負に任して打切つて了ふ處が偉い。中世以來決

紋吉の頭へ呉れた。狙ひは過たず前頭に中つて帽子は宙に飛び、紋吉はヒヨロ〳〵と後へ倒れやうとしたが、危く足を踏締めて立留まつた。タッタ一撃ではあるが、餘程非道く身に感應へたと見えて、モンキーはもう突貫する勇氣が無い。好い氣味だ、もう一つ參れば宜いにと見て居ると、相手から打つて來る第二の拳を右の下顎に受けてドウッと後へ倒れた。痛快至極、之に懲りて、もう二度と喧嘩はしまいと思ふと胸が霧々する。此で愈〻降參したなと思つて紋吉を見ると、地に胡座を搔いて見物人から顏を見られるのが恥しいと思つたか、兩手で顏を隱して居るので、相手は盈鎗して紋吉を見下して居る。これで喧嘩の片は著いたが、紋吉が降參したともせぬとも言はぬので、見物人は紋吉に向つて「お前はまだ續けて戰ふのか」と訊くと、モンキーは力の無い聲で「ノー」と答へる。それでは勝負はもう著いたと言つて、一人の男が兩手で

れるので癪に觸はるから遣付けてやる。昨日は二人毆り倒した、今日も大きい奴と取組んで、ウンと投げて遣つた」と大氣焰を吐いて手が著けられぬ。止せと言つたつて吾々の忠告は耳にも入れぬから、其間には誰かに非道い目に遭はされるであらうと、放任して置いたら、折もあらうに忙しい貨物の出荷期を控へて、而も人の目に立つ停車場の構内で喧嘩をオッ始めたから、「紋吉止せ！喧嘩しちやならぬ」と呼んで、肩へ手を掛けて伴れて歸らうとすると、白人の見物人の中から一人の男が飛出して、手の肩に手を掛けながら、「お前は默つて居れ、他人の喧嘩に干渉する事は相成らぬ、勝負の附くまで見て居れ」と言ふ。見物人は口々に「ゴッデーム、ユーゲットアウト（お前は除いて居れ）」と叱り付けるから、止むを得ず手を引いて見物して居ると、やがて紋吉は相手の隙を見たか、其腰へ飛著いて行かうとするのを、相手は右手に力を入れて一拳を

雪が降れば貨車が不通になつて、貨物が停滯する事が度々ある。それに基督降誕祭が近いて來れば、各商店の出荷が激しくなるから、後れぬ先に鐵道人夫からの註文品を送り出さうと、停車場へ出張して、馬車で持つて來た貨物を係りの者に引渡して、運賃の計算をして居ると、突然後で喧嘩が始まつた。見ると喧嘩の當事者は此方の荷馬車の馭者、相手は痩せた丈のヒョロ長い二十二三歳の白人で、今や雙方互に隙を狙つて組打を始めやうとして居る。荷馬車の馭者は廣島の海田市邊の漁夫で、紋吉と言ふ腕力自慢の男で、商店に三年此方傭はれて居る者だが、愚直で向不見と來て居るから、折々無鐵砲な事を遣かして、店員を困らすことがあるが、喧嘩は飯よりも好物で、白人の子供から「モンキーモンキー」と揶揄はれるのに腹を立て、大人氣も無く往來で小供を追廻して喧嘩をする。「名前が紋吉だからモンキーに通じ、猿よ〳〵」と呼ば

を引揚げて來た。

＊　＊　＊　＊

「アハ、、、何うだ貴君、公爵が僕で、其從者が僕の友人さ、主婦の奴の驚いた顏を貴君に見せたかつたよ」と、

ギヤング長は盃を手にしながら、得意氣に當時の有樣を物語りつゝ、肩を搖つて笑つて居た。オーバータイムで取つたボロ錢があればこそ、此の高い復讐が出來たんだ。斯那事を得意にして居る彼等の將來は何うなるだらうと、他人事ながら、醉生夢死の身の上が憐れに思はれて來る。

一九　米人の武士道

の顔の見別もつかぬ頃に、やう〳〵御開きとなつた。

斯くて翌日の未明、此デンヴァー花柳界のレコードを破つた二人の紳士は、何百何十弗の勘定を立派に支拂ひ、外に小者に至るまで漏無く過分の祝儀を取らせた後、主婦に向つて、改まつた口調で「オイお神さん、何を隱さう、俺達は日本の貴族でも何でもない。オクデンの片田舍に居る卑吝な日本人だが、お前の家が日本人を馬鹿にするといふから、故意と公爵に化けて遊びに來たんだ。日本人は亞米利加人のやうな卑吝つ垂れな遊びはしない。一寸來たつて二百や三百の錢は只捨てる。米國で儲けた金を日本へ持つて行くなんて、卑吝な眞似をするやうな人間は、俺達の仲間にや一人も居ない。折角遊びに來る日本人に水なんかぶつ掛けて貰ひますまいせ、お神大きに御邪魔、へー左樣なら」と、痰呵を切つて呆れ驚く主婦の顔を尻目に掛けて、自働車を飛ばして其處

盛裝した七八人の美人が前へ進んで來て、腰を低く後ろに引いて床に著けんばかり、兩手を左右に投げて鄭重に御辭儀をする。セントジエームスの王宮で、並居る女官が貴賓に最敬禮をするのも、斯くやと思はるゝばかりである。之を見た二人の紳士は、驚くと思ひの外、ツト右手を輕く胸の處へ當て、微笑を浮べて、斜に頭を傾けながら答禮をする。此態度が一方ならず先方の氣に入つて、紳士の款待ることは實に大したものだ。

頓て酒宴になつて三鞭が出る。ピアノが始まる。唄が出る。舞が始まる。果ては公爵の所望とあつて、一人の中年の女がサロームダンスを踊り出す。薄き絹の下著を皮膚に著け、五色の珠玉を聯ねた紐を腰に纏つて、五體を屈伸さして踊る處は、眞に畫のやうである。舞が終つてから、一頻り酒宴を續け、杯を乾すこと十數回、眼が朦朧となつて、女

せて遣ると、番頭は恭々しく禮を述べて出て行つた。

（下）

暫らく經つて番頭が歸つて來て、「手筈が出來ました」と告げる。「左樣か、其れでは公爵參りませう」と、部屋を出でて外へ來ると、一輛の自働車が音を立てゝ待つて居るから、其れに乘つてホテルを後に、十分程走らせると、或白壁の立派な建物の前へ來て停つた。車窓よりすかして見れば入口にホワイトハウスと書いてある。「締めた！此處だ、日本人を排斥したと云ふのは。ヨシ今晩こそは思ふ存分に復讐をして呉れん」と、二人は互に胸を躍らせながら、車から下りて家の中に入つて行くと、燕尾服を著た黑奴が、先に立つて恭々しく案内するから、無言の儘で其の後から附いて行つて、廣いバラーに通ると、黑奴は「アベキユ、バードン、サアー」と、恭々しく腰を屈めて中仕切に在るカーテンを揚げると、中から

二人は客室に通るや否や、直ぐにボーイに命じて番頭を呼付けた。

米國旅舍の慣習として、ツイぞ客間に呼ばれた事の無い番頭は、怪訝な顏をして戸口へ駈著けて來たが、肥滿の紳士は直に中へ呼込んで一方の椅子に掛けさせ、扨て番頭、此處に御出になるのは、實は日本の貴顯であらせらるゝが、微行の事故一切新聞記者に知らして呉れるな。若し新聞記者が推掛けて來ると、何角興味を殺ぐし、折角の旅行が沒趣味になつて了ふ。其處は宜しくお前に賴んで置くが、時に番頭、公爵は今夜御氣分も宜しい方だから、外出をしやうと仰しやるが、何處かコッソリ面白く遊ぶ處があつたら、お前一つ氣を利かして、手筈をして呉れないか、其代りお前の勞力に對しては相當の報酬をするから」と、達者な英語で賴むと、番頭は二つ返事で承諾する。其處で紳士は起つて番頭を送り出しながら、戸口の處で其手を捕へて、ソッと二十弗の金貨を握ら

んか此三分の一の眞似でも可いが出來るかエ」と、拳で鼻を横撫にしなけりや、何うしても承知が出來ないと、オクデンから二人の日本人が威勢好くデンヴァーへ出立した。

ユービー鐵道の汽車がユニオン停車場へ著くと、プルマンの一等車から出て來た二人の日本紳士は、出迎の馬車に乘つてホテルへ著いて、二階に面した最上のスーツルームへ來て腰を下した。一人は三十二三の好男子で、荒い堅縞のモーニング、コートを著て、右手の無名指に一キャロット大のダイヤモンドの指環を嵌めた切り、別に裝飾の無い、一體に小薩張とした、垢抜けた風をして居る。他の一人は四十前後の肥滿漢で、色がクッキリと白く、紺色の背廣に赤皮の靴と云ふ扮裝で、薫りの高い葉卷を口に銜へて、パッと紫煙を吐きながら、眼鏡越に相手の顏を眺める處は、何う安く評價でも一銀行一會社を預る位の貫目はある。

通用しないのは情ない。其弗相場が非常に低くて、時には少しも通用しないのは、落機地方第一の大都會たるデンヴァー市である。

或時日本人が三四名デンヴァーの去る處へ行つて、一夜の春を買はうとしたが應じない。強ひて中へ入らうとすれば、力に任せて外へ突出して、後から頭の上へ水を打掛けて、

「オイ、ジャップ、此處はお前方の來る處ぢやないよ」と、惡口を叩いてピッシャリと戸を閉てゝ了つた。「此處はお前方の來る處ぢや無い」とは、實に侮辱を極めた言葉だ。恥辱を搔かされた日本人は胸を擦つて引取つたが、納まらぬのは外の日本人だ。何ぼ何でも、此は默つて居られない、旅の恥辱は搔捨だなどと諦めて居たら、日本人の顏は一層惡くなつて了ふ。ヨシ、此復讐は乃公がして遣る。見事に復讐して、「ヘン何うだ日本男子の意氣は斯那もんだイ。亞米利加人な

所謂日米問題解決の爲に支拂つた此犧牲は、果して效果を奏するや否や、頗る疑はしいものであるが、若干のギャング長あるが故に、オクデンの小路は非常に賑つて、日本人ならでは夜も日も明けぬ鄕となつて居るのは、聊か異樣の感じがする。

一八　日本男子の意氣

（上）

オクデンの泥水横町では日本人は大款待にもてるが、處に依つては「日本人入るべからず」と、日本人に對して嚴に門戸を閉鎖して居る小路があるが、オールマイチーダラー（弗萬能）の米國でも、弗を持つ人に依つて相場に高下があつて、處に依つては日本人の一弗は、墨西哥弗程にも

事の珍客と云はんばかりに鄭重にして、何處までも貴族扱ひに「リッスン、カウント」とか「ルック、ヒア、カウント」とか言つて、カウントづくめで款待する。ギャング長は伯爵になつたやうな氣で應揚に挨拶しながら、時々「エース、マイデア」など、優しい甘つたるい言葉を使つて居る。可愛想なのは店員の男爵で、京都邊の貧乏華族のやうに、款待ざること夥しい。女の眼中にはバーロンなど更になく、伯爵に向つて「貴君よう」の筆法で「アイム、オッフリー、ドライ」とか「オッフリ、サースチー」（酒が飲みたい）とか言つて、頻に酒を強請るのを、伯爵は「ウム好し〳〵」で三鞭を取寄せては拔いて遣る。オーバータイムで、只取つた金だから湯水のやうにパッパと惜氣もなく使ふ。

幾片の金貨と何枚かの紙幣はギャング長の手から、女の手へ飛んで、其都度持つて來る三鞭酒の空壜は、十五六本壁に添うて並べられた。

女はレヂーでなくつて、女郎であるから頗る奇拔である。ギャング長は傲然と「僕は斯う見えても辯舌の人間ぢや無い。實行專門の方だから、事實に付て證明しやう」と言つて、予等を促して外へ出る。料理屋を出て、二町程行くと小路がある。それを中へ入つて行けば、兩側には幾つも小さな家が建並べてあつて、窓の中から顏を出した魔性の者が、頻りに通行人を物色して居る。やがて中程へ來ると左側の家から、

「ハロー、カウント(伯爵)！」と、

癇高い聲で呼び留める女がある。誰の事かと思へば、ギャング長らしい。伯爵とは振つて居る。「ギャング長何時の間に伯爵になつたか、偉う出世したもんだな」と言ふと、「左樣よ、僕がカウントで此れ(店員)がバーロン(男爵)さ、オクデンに二人の日本貴族があるから、序に貴君もマーキス(侯爵)とでも名乘つて置き給へ」と言つて中へ入つて行く。女は大

オーバータイムの意味が始めて解つた。ギャング長と云ふ者は偉い事をする。併し取つた惡錢は却々身に著かず、ギャング長の殆んど全部は酒と博奕の爲に、取つた金を無くして了ふさうだ。

一七　ハロー、伯爵！

オーバータイムで衣嚢を膨脹ませたギャング長は、初對面の拙者に敬意を表する爲に、とある日本料理店へ案内して店員と三人で盛に飲む。ギャング長は、「日米人が接觸して、互によく了解する最良の方法は女を利用するに在る。卽ち日本人は白人の女と交際する。白人は日本の女と交際する。女の力で日米人を說付けたら、雙方圓滿に意思を疏通する事が出來る」と云つて、一種の日米問題解決案を提出する。其

オーバータイムとは影人足の事で、事實働かぬ人間を働いたとして帳面に記入して、それ丈の給金を只取する事だ」と説明する。大きなギャングでは一日に二十人位の人夫が仕事を休む。其れを仕事したやうに帳面に著けるから、餘分のホマチが出來る。一人の給金を一弗六十仙とすれば一日十人にて十六弗、二十人にて三十二弗、一箇月に六七百弗は譯無く取れる。一年に六七千弗の金をクスネるのは何でもない事だ。併し白人の工事監督者に分前を遣らねばならぬ。假りに五百弗のホマチがあれば、百五十弗位は呉れて遣つて、監督者の食ふ食料は勿論、酒や烟草まで只呉れて遣らねばならぬ。監督者は自分の利得になるから、ギャング長が附けた人夫帳を、其儘承認することになる。兩人共謀で遣るのだから發覺せぬ。エスピー鐵道はまるで泥棒を飼つて置くやうなものだ。

人で、汽船でいへば事務長の仕事をする。狡猾で世才に富んだ人間になると、却々莫大な收入のあるものである。今來たギャング長も御多分に漏れず、大した收入を有つて居ると云ふので、店員は彼に向つて「オイ、ギャング長、オーバータイムの二割位奢り給へ」と言ふと、ギャング長は笑ひながら「奢つても宜しいが、近頃は親爺が嚴しいから困る」と言ふ。親爺とは白人の工事監督者の事である。親爺の事は兎も角、オーバータイムの意味が解らぬ。「一體其は何の事ですか」と訊くと、ギャング長は妙な顏をして此方の顏を眺める。新米だからオーバータイムの意味が解らぬのも無理はない。店員も一寸其男の居る前では說明しかねると言つたやうな顏付をして居る。

サー、オーバータイムの意味が知りたくなつた。ギャング長が居ても構はない。「一體貴君其れや何の事ですか」と執拗く訊ねると、店員は

は日本人が五六百人居て、日本勸業社と云ふ會社が店を構へて、エスピー鐵道とユーピー鐵道とへ、一千七百人からの勞働者を供給して、監督して居ると云ふから、オクデンに暫らく足を留めて、鐵道の勞働を視察した。日本人は感心に鐵道で好く金を儲ける。資本要らずにボロい錢を儲ける。

或日の事オクデンの或日本商店へ行て、店員と對談をして居ると、一人の男が入つて來た。店員はハロー〳〵と言つて、其男と握手をする。其男はエスピー鐵道の人夫長で、七八十人からの勞働者を監督して居て、カスリで錢を儲けるから、頗る羽振が宜い。エスピー鐵道に働く日本人の工夫は三十ギャング(組)に分れて居るが、大きいギャングは百人以上、小さなギャングでも三四十人は居る。此れに一人の責任者があつて工夫を監督するが、之をギャング長と云ふ。ギャング長は皆日本

を表にすると、一方は高くて一方は低い。萬事休す！。負けた坑夫は拔く手も見せず、腰なるピストルを以てカウボーイの腦天を擊つ。擊たれた奴は虛空を掴んで、仰向に後に斃れ、擊つた奴は失神したやうになつて、後へ下がり、低い悲哀な聲で臺詞を音樂に合せて唄ふ。

之を芝居にして見れば、何でもないやうだが、事實何十萬と云ふ人間が、落機を中心とする高原に散在して居て、荒涼たる生活をして居る有樣を想ふと、米國は巴剌西の奥、南亞の端に於けるが如き殺風景な國であると謂はねばならぬ。

一六　給金の只取

リノを立つて五百哩東へ行くと、オクデンと云ふ處がある。其處に

に網を張つて居て、好き鳥御座んなれと待受ける。意思の弱い人間は大抵之に引掛つて、勝負を爭ふことになる。賭博には種々あるが、一番流行するのは骨牌で、ポーカとか云ふゲームである。

ワイオミング州シアイアンの荒野を背景とした芝居は、歌劇で、一人の坑夫と一人の牧童とが、机を前に向合つて腰を掛けて居る。其横には負けて落伍者となつた三四人のカウボーイが、此勝負如何にと傍觀して居ると、其後ろには數人の美しい遊女が、並び立つて見物をして居る。坑夫は東部から來て、砂金を掘つて若干の金を貯へたが、荒野の生活に飽き果てたから、一獲數萬の勝負に打勝つたら、シアイアンを引揚げて東部へ歸らうと云ふのである。

イザ勝負となつた。机の上には賭金が取狹きまでに堆く積まれた。サア貴樣の手を出せ。イヤ先づ其方からと、阿吽の呼吸諸共、二人が札

あるが、米國の牧場の大なるものは一つで何萬と云ふ牛馬を放養して居るものがある。カウボーイは之を監督して、朝から晩まで山野を馳廻つて、暇があれば馬具の手入をしたり、町へ出て來て遊んで居る。給金は一般勞働者に比ぶれば遙かに多いけども、宵越の錢を持たぬと云ふ事が風を爲し、酒と女と博奕の爲に、月給日に貰つた金は一夜で何處へか飛んで了ひ、月の二十九日間を一文無しで、ビー〳〵言つて居る者が少くはない。カウボーイで大膽無鐵砲の奴になると、ソッと牛を五六匹他人へ賣渡して置いて、主人が來る時には他所の牧場から牛を借りて來て、其場を誤魔化す奴がある。併しカウボーイ同志で互に保護し合つて、ボロを出させぬやうにして居ると云ふことだ。

米國の高原では處々に小さな町がある。其處へカウボーイは日曜毎に遊びに來る。鑛山のある處では坑夫も遣つて來る。博徒は其處

すべく、年百年中馬背で暮して居るだけに、氣象の荒々しいことは驚くばかりであるが、義俠の精神に富み、然諾を重んじ、賴まれば、思ひ切つた仕事をする。其扮裝はスウエターにソフトット、ズボンの上へ防寒の爲め毛皮の上ズボンを穿いて、首には赤か青の大きなハンケチを掛けて居る。ピストルは猛獸餘けとして、携帶は天下御免で、大きな奴を腰に差したまゝ市中に買物に出て來るが、其意氣な姿に想を懸けて、吾から言寄る乙女も少くは無いので、カウボーイを中心とした情話を書いた小說や脚本の數は、算へ盡せぬ程澤山ある。此ローマンスは無いが、ルーズヴエルトも曾て大學を出てから、二三年間は牧童生活をしたことがあつて、今でもカウボーイから神樣のやうに崇められて居る。

カウボーイは牛馬の飼育監督をする使用人で、リノからシアイアンに至るまでの高原地方には、十何萬人からの人數がある。嘘のやうで

ーに渡しながら、

「折角養生して來い、機會があつたら復仕合をしやうよ」と、

言捨てゝ出て行く後姿を見送りながら、ジエフリーは首を重く左右に振りつゝ、介添人に向つて、再び仕合をすまじと固く言切つた。

一五　カウボーイの生活

腰に差したる四十四番大型の拳銃は伊達ぢやない。深山幽谷から出て來る猛獸は元よりのこと、弱を虐げる强者を挫く武士道を貫く爲め。イザと云へば、群る敵の中へ割つて入り、腕の續く限り、彈丸のある限り、擊つて〳〵擊拔いて死花咲かすが本望よと、磨き立てたる拳銃の筒先に眼を注いで、莞爾と笑む米國高原の牧童は、實に米國人の花と稱

兩手を掛け、體を之に擡させて喘いで居たが、行司の數へるワン、ツー、スリーよりエイトに至り、ナイーンと情を籠めて長く引いた最後の言葉も耳に入らず、テンの聲を聞いてガックリと低頭れたので、勝利はジョンソンのものと極まり、彼は意氣揚々と其場を去らんとしたのを、ジェフリーは頭を揚げて儼然と見ながら、

「ジャッキ待てッ！」

不意に呼ばれた聲にジョンソンは立停り、ジェフリーを尻目に掛けながら、

「ナニッ！貴樣俺に何か文句でもあるのかッ」

「イヤ文句は無い、賴みがある、記念の爲に貴樣の手袋を呉れ、俺を打負かした貴樣が嵌めた其手袋を永久の記念にする」と、

聞くよりジョンソンは莞爾と笑つて、手早く手袋を脱いでジェフリ

程に、殘酷を極めて居るが、見物人は汗を握つて、勝敗如何にと氣遣ひ、闘手の疲勞を增すと反對に、一層活氣を添へて凝視めて居る。此時見物席に在つて嫣然と笑ひながら、勝負を注視して居る一人の白婦人あり。容貌秀麗稀に見る美人であるが、此ぞ黑奴ジョンソンと二世を契つた彼が最愛の女房で、仕合が心配で堪らず、ワザ〳〵市俄古から見物に來て、特別席から見て居た處、仕合半でもう大丈夫、勝利は吾夫のものと、安心した餘り、思はず花の唇を綻ばしたのであつた。

戀女房の應援を受けたせいでもあるまいが、ジョンソンの勢は一層猛烈になつて、ジェフリーが疲勞して行くに乘じて、獅子奮迅の勢を以て、突いて〳〵突きまくつた。此勢に呑まれてジェフリーの足許は紊れ、遂に第十六合目に至り、ジョンソンが急突した一擊に足場を失ひ、ドウッと倒れて起上る能はず、仕合場の周圍に張つてある綱を背にして

るから覺悟をさらせ」と、故意とジエフリーの得意の手と知られて居る鳩尾の狙撃を遣らせ、體を交して下顎を上より下へ、アッパーカットを一發呉れんと、隙を見せながら、「サア來い、ジミー！貴樣の得意は此處に在り。突け〳〵、突いて來いよ」と、大聲に呼はりつゝ、前へ進んで行く。之を見た數千人の黑奴の見物人、及びジョンソン側に賭けた白人の見物人は、「何うだい彼の勢は」と、互に顏を見合して喜んだが、ジエフリー側の者は聲を擧げて、ジョンソンの傲慢な態度を罵倒する。兩者の勢は始めの間こそ互角であつたが、八回目よりはジョンソンの方稍優勢となり、絕えず冷笑の聲を浴びせ掛けては急突する。併しジエフリーと雖も去る者、容易に敵の術中に落ちず。彼打たば我も亦之に報い、龍鬪虎搏の勢を以て、兩人激しく打合つたが、顏は腫れ唇は破れ、べッ〳〵と口中より血を吐きながら奮鬪する態は、到底人間の所業とも思はれぬ

の大選手を紹介すると、滿場三萬人の見物は割るゝばかりに喝采する。ジェフリーは當年四十二歳、少しく肥滿した嫌はあれど、岩疊な體格、ジョンソンは漸く三十三、黑光りに光つた、阿弗利加の祖先を辱めぬ好男子、赤銅の佛像の如く、白いものは唯齒と爪ばかり、筋肉堅く引締つて、少しの緩みが無い。仕合の取極めが二十五ラウンドで、一ラウンド毎に一分の休息をして、二十五ラウンドまで續けて、若し勝負が著かなんだなら、引分にして給金其他を折半すると云ふ取極め。公德心に富んだ米國だけに、更に八百長の融通は利かず、今や白と黑、握手の禮諸共颯と身を引いて、寄らば搏たんと身構へた。

（其の四）

黑奴のジョンソンは豫ての恨み胸に在り、「ジミー、ジェフリー、己れ好くも此俺を侮辱したな。サ今日こそは打つて〳〵打ちのめして呉れ

拳闘が見たくつても、種々の事情で見に行かれぬ者は、最寄の新聞社へ押掛けて、刻々にリノから來る電話の報告を聞く。リノを中心として七百哩以内に在る各地の大新聞では、特設電話を掛けて、特派員がリノから知らして來る仕合の模樣を、社前に臨時に設けた棧敷の上から、群衆に向つて報告するから、群衆は選手の一擧一動、手に取る如く好く解かる。又當日の午前と其前日には、米國各地の煙草屋や酒屋で、賭金の切符を賣つたが、其賭金は却々五百萬や六百萬位ではなかつた。洵に前代未聞の大勝負で、當日の米國人は全州擧つて此勝負の話で忙殺されて居た。

愈〻定刻となると、開場の儀式があつて、來會した前世界的選手の紹介があつて、數人の選手を一々見物人に紹介すると、皆拍手喝采して歡迎する。お招伴に米國の角力取まで紹介し終つて、當日大立物たる二人

を言つて見たが、扨て先方は官憲だから仕方が無い。口惜しいけれども軍隊を有つて居るから抵抗が出來ぬ。泣く兒と知事には敵はぬと諦めを著けて、加州以外に仕合地を物色したが、何うしてもリノの外に適當な土地が無い。何しろ米國の穢多村だから、彼處に限ると、内々其筋へ交渉して見ると、遣つても宜しいと言ふ。興行人以下一同喜んで早速準備に取掛つた。何しろ加州で蹴られて來たのを、リノでは一議に及ばず許可したんだから、ネヴァタ州知事の雅量は大したもんだと、拳闘狂は知事に頌德表を奉らんばかりに讃める。其處で諸般の準備も滯り無く濟んで、愈〻仕合の當日となると、リノは全米國各地より、遠くは英吉利や獨逸邊からも見物人が集つて來た。其數無慮五萬、入場し切れないで空しく引還した者が、一萬何千人からあつた。實にネヴァタ州が獨立の州として公認された時の祝賀會よりも偉い騒ぎである。

で持切つて居たが、當時恰も蘇格蘭の故山に歸省中であつたアンドリユー、カーネギーは感動の餘りに、

人道の爲に拳闘の暴擧を停止したる閣下の英斷を祝し、併せて閣下の健康を祈る。

英國蘇格蘭、ダムファームリーンにて

アンドリユー、カーネギー

と云ふ祝電を寄せ、東部漫遊中の須氏大學總長ジョルダン博士も亦知事に祝電を送つて來た。

（其の三）

野蠻極まる鷄の蹴合を遣らせる土地は、加州に限ると思つて居た興行人の當ては大に外れた。加州知事ジレット彼れ何者ぞ、人民の公僕でありながら、咄此の沒常識漢奴がと、興行人は非常に腹を立て、惡口

の二選手は既に充分に準備をして、毎日野營所に在つて、頻りと練習を遣り、興行人等も既に餘程の入費を使つて居た時であるから、知事が形式一片で此命令を出したならイザ知らず、若し本氣で出したなら、興行人や關係者は知事に危害を加へるかも知れぬ。眞逆知事は本氣で遣る程大膽ではあるまいと思つて、内々探つて見ると、知事は本氣も本氣、大本氣。人道の爲に此命令を出した、之が爲に一身の安全など顧みる暇が無い。此ジレットの命のあらん限りは、加州の何れの端に於ても、此野蠻な殘忍な人道を無視した仕合を遣らせることは斷じて相成らぬ。若し此命令に背いて仕合を遣るなら、軍隊の威力に依つて强制執行をして見せると云ふ腹を極めて、日々幾通となく舞込んで來る脅迫狀など振向いても見ず、毎日杖を携へて公園などを散歩して居た。此大膽なる加州知事の處置は全米國を震撼して、到る處ジレットの評判

けた。其處で入場料は特等百弗、一等五十弗、最下等五弗で、三萬人以上の見物人を容れる豫定で、場所を詮議した結果、桑港のメーソン兵營附近と定め、興行場の建築に取掛つて、イザ興行と云ふ一週間前に、突然加州知事ジレットから差止命令が下つたので、興行人は非常に狼狽した。

之を差止めたのは、加州刑法の條章に據ることは勿論であるが、法律を離れて論ずれば、拳闘仕合は實に野蠻極まるもので、娯樂の爲に人に見すべきものでない。況んや人種の差異より、常に喧嘩をして居る黑奴と白人とが仕合をした結果、何方が負けても、黑白兩人種の間に血を見るやうな爭闘が起きることは知れて居る。加之此仕合には莫大な金が賭けてある。賭博の目的の爲にさう云ふ危險な野蠻な仕合をさせることは斷じて出來ない。若し强ひてするなら、軍隊を派遣して解散さして見せると、ジレット先生偉い宣言を發布した。此時恰も黑白

したから、興行師は飛立つばかりに喜んで、ジョンソンにも通じて、一仕合を二十萬弗で買ふ約束をして、勝つた者には十四萬弗、負けた者には六萬弗分配すると云ふことに取極めたが、愈〻仕合が出來ると聞いた紐育のヴイタグラフ活動寫眞會社は、十五萬弗の金を出して撮影權を買つた。此金はジョンソンとジェフリーとに、七萬五千弗宛分配することになる。實に豪い事だ。御大常陸が鯱鉾立したつて斯那眞似は出來まい。米國なればこそ斯那馬鹿げた事が出來るんだ。

サア米國の騒ぎは大變だ。一勝負で勝つた者は合計二十一萬五千弗取れる。負けても十三萬五千弗にはなる。金の事は兎も角、ジョンソンが積年の恨を霽らすと云ふ此大勝負は、何を措いても見物しなければならぬ。入場料の高い事や、旅費の嵩む位で避易しては、米國人の估券が下がる。拳闘狂は一日千秋の思ひをして、其勝負の或日を待受

た。必ず一生に一度は此憎むべきジュフリーと立合つて重なる恨みを報ゆる時があらうと、腕を擦つて其機會を窺つて居た。

（其の二）

其後雙方共世界的大選手を以て任じ、己れの右に出づる者はあるまいと、互に廣言を吐き合つて居た。然るにジェフリーは拳闘の爲に大分金が出來たから、それを持つて加州ロサンゼルスへ引退して、大きな酒屋の株を買つて商賣をして居た。此間にジョンソンはメキ〳〵と伎倆を上げて、世界の大選手として、數多の敵を倒し、歐米を跨に掛けて巡業して居た。處がジェフリーは何か相場へ手を出して、大變に損をした爲に、金が要ることが出來たが、思ふやうに調はぬから、友人に相談すると、友人は「一つ厭でも、ジョンソンと勝負をして見ちや何うだ」と勸めるから、背に腹は換へられず、ツイ其氣になつて仕合を遣らうと言出

者に向つて、故意と相手は何者だと訊ね、黒奴のジョンソンだと聞いて「俺あ眞平御免を蒙る。何んぼ自分が物好だつて、ニガー(黒奴の蔑稱)なんかと、仕合をする程墮落はしないよ」と散々侮辱の言葉を放つて、濠洲の方へ興行に行つて了つた。之を聞いてジョンソンは烈火の如く腹を立てた。「實に無禮極まる奴だ。技術は神聖で、黒白の差別は無い。謝絶る口實が無いからと云つて、黒坊とは勝負をしないとは、好くも言やがつたな。ヨシ先方が其氣なら推掛けて行つて、直談判をして、何うでも謝絶ることの出來ぬやうにして、土俵の上で打つて〳〵打ちのめして遣らう」と炭團のやうな顔に朱を注いで、直ぐに後を追掛けて濠洲へ行つたが、恰もジェフリーはシドニーで興行をして居たから、早速仕合をしやうと申込んだ處、ジェフリーは言葉巧みに謝絶したので、ジョンソンはスゴ〳〵と引還して來た。併し彼は決して絶望はしなかつ

の大選手が飛出して來た。

此選手は米人の最も賤む黑奴で、名をジャッキ、ジョンソンと云ふ。元紐育で靴磨きをして居たが、天成の腕力家で、ヤンワリと靴に觸つても御客が痛いと感ずる程の力を有つて居る上に、一寸素人ながら拳闘術を遣るから、御客は「オイ、ジャッキ、お前はいつそ靴磨きをして居るより、拳骨の選手になれ。」と、頻りに勸めたから、ツイ其氣になつて、或教師に入門して、熱心に技術を練習したが、元來腕力がある上に頗る器用に出來て居る人間だから、忽ち上達して立派な選手になり、到る處で仕合に打勝つので、見物人から世界的選手と云はれるやうになつた。

其處でジョンソンは世界的選手と稱して、相手になる大選手を求めて一仕合しやうと思つて居たが、恰もジェフリーと云ふ大選手があるから、一つ之と仕合をしやうと申込んだが、ジェフリーは使

（其の一）

話の事實はズット後の事で、確か明治四十三年の事と記憶する。拳闘術では世界第一の選手を以て、任じて居る黑奴のジョンソンと、白人のジェフリーとが命懸の仕合をリノで遣つた。拳闘仕合は實に殘忍極まるもので、人間が鷄の眞似をして爪の代りに拳を以て蹴合をして居るやうなもので、二人が三十分以上も仕合を續くれば、顏面が打撲の爲に腫上り、鼻から血が出る。口から血を吐く。それを喜んで見て居る人間は人面鷄心の徒で、米國人の過半が正に其れであるとすれば、米國の文明の價値推して知るべしである。其れは兎も角、此處に米人にてジェフリーと呼ぶ選手があつた。非常に强力の男で、世界第一と自稱して居る選手を悉く叩き倒して、吾れこそは世界第一の選手であると言つて世界を跨に掛けて横行濶歩して居たが、此處に圖らずも一人

多少は居るから、彼等口喧しい坊主は、風敎を維持する爲に廓清運動を起して、賭場を閉鎖しやうとした事もあつたが、事實賭博はリノの生命で、人口二萬の都會が繁榮を維持して行くのは、兎に角賭場がある御蔭である。市長や警察署長等が位地を保つて行くのは、博徒の推挽保護に依るのであるから、基督敎徒の運動は毎時失敗に終つた。併し執拗なる坊主や婦女子の運動は後に成功して、ツイ此頃一部の目的を達したと云ふことである。

リノが什麼に米國の穢多村の名を辱めぬかと云ふことは、次項の黑白の拳闘選手が、命懸けの勝負をした一事を見ても解る。

一四　黑白選手命懸けの勝負

くに推寄せて、一生懸命に勝負を爭ふやうになる。賭場の背景には酒場がある。又女郎屋がある。酒と女と博奕とが三つ揃つて、無制限に需要され、供給され、金さへあれば、目前に何那ことでも出來るやうになつて居るのが、此リノの特色である。自由と平和と博愛とを、建國の精神として居る米國の一角に、一夜の中に俄分限を生じ、强盜を生じ、ピストルの擊合を起して、四隣の平和と安全とを妨げる處があつても、米國人は吾不關焉と、平氣で澄まして居るのは實に驚くべしである。

リノは確かに米國のソドム、ゴモラである。文明を誇る米國に斯那都會を存して置くのは、米國の一大恥辱である。併し思慮深い米國人は所謂惡事は陰を忌み陽を好み、惡事の顯はるゝものは、禍淺しとの筆法を以て、リノが穢多村の觀を露呈して居るのを、左まで大した事と思つて居ないやうであるが、リノと雖も、耶蘇寺の一本位はある。坊主も

一體米國と云ふ處は、博奕が大ビラで出來る國で、紳士は倶樂部を設けて、其中で堂々と博奕を打つ。倶樂部の中で警察署長が博奕を打つて居るから驚くではないか。併し其那ことは米人には一向珍しくない。倶樂部へ來て、博奕を打たぬやうな署長なら、變人だなどと言はれるから、一層驚くではないか。米國では博奕を打たざる者は紳士にあらず、謹嚴方直の君子人は、所謂紳士の仲間入が出來ぬ人間だ。何うしても米國は石が流れて木の葉が沈む國に出來て居る。

併し同じ米國でもリノはまた別だ。往來に面した家の中で、賭場を開帳して居る者が、何十軒と云ふ程あつて、大きな家では常住五六十萬弗の金貨を用意して、之を大きな金庫の中に入れて、扉を開けて公衆に見せびらかして、彼等の射倖心を挑發するから、其處へネヴァタの金山で砂金を掘る坑夫や、廣い牧場で牛馬を飼ふカウボーイ等が、雲霞の如

死をするとは、實に短慮な話だ。併し情死の方法は什麼にも奇拔である。此男女の心中は士左衞門となつたり、鐵道往生をする者に比すれば、心中の上乘なるものであらう。米國人だけに心中の方法まで凝つて居ると、其奇拔なことに驚いた。

一三　米國の穢多村

櫻面都を出立して、東へ百餘哩行けばリノと云ふ處がある。それより一直線に東の方シアイアンに至るまで、一千二十餘哩の間は荒漠たる原野で、眼に映ずるものは、唯雪山と砂漠あるのみである。リノは此砂漠の西端に在る小都會で、人口約二萬、米國の別天地で、新大陸のモナコとも稱すべき處で、賭博が白晝大道に於て、公々然と行はれて居る。

た。海拔四千幾百呎の山の上で、彼等の擧動を知る者は唯彼等男女と、天に懸かる月があるのみである。やがて男女は紙片に二三行の文字を認め、二つ重ねて岩の上に置いて、其上に石の重りを載せ、月光を浴び た額に手を當てゝ何事か祈念した後、男は女を前なる車臺に載せて、ロープを以てグル〳〵と女の胴體を緊縛つて、餘つた繩で自分の身體をグル〳〵卷にして、ハンドルに手を掛けると同時に、非常な勢を以て前へ驀進した。車は二三町道に沿うて疾風の如く走つたが、削り成した屏風の如き巖の上へ乘るよと見る間に、車體は地を離れて、グル〳〵と風車の如く宙に旋轉つて、四千數百呎の懸崖の上より、眞逆樣に谷間に墜ちて、微塵と碎けて了つた。そして男女の四肢は首と共に胴體を離れて附近に散亂した。

話を聞けば實に憐れである。添うて添はれぬこともあるまいに、情

に惡口して、告口をしたから、亭主は倍腹を立てゝ、娘に禁足を命じ、女房の入智慧で、娘が外出する時には、必ず彼女を附けて出すことにした。

ジョージの親爺も亦、ジョージが隣家の娘と親しくすると言つて、ガミガミと怒鳴つたが、此方は男子だけに、父の云ふ言など耳にも入れず、竊に娘に逢ふ機會を窺つて居たが、見張りが嚴重でとても逢ふ機會が無いので非常に煩悶した。そして毎夜自働車に乘つて、隣家の前を往復して居たが、或月明の晩娘が庭に水を撒いて居る處を見たから、車を停めて娘を呼んだ。待ち焦がるゝ男を見た彼女は、ホースを捨てゝ自働車の側へ駈寄ると、戀に狂ふ男は直ちに彼女を搔き抱いて、車に乘せて一散に東へ走り、タホー街道を上へ登つて行つた。

自働車は二時間程走つて、とある峠に著いた。そして男女は車より下りて、路傍の石の上に腰掛け、互に犇と抱き著いて何事をか談り合つ

堪らない。亭主は烈火の如くに怒つて、手近に在つた熊手を取つて牛を追廻はしたが、牛は畑の中を逃げ廻はるばかりで、一層畑を足で踏み蹂躙つて了ふから、女房は地團太踏んで口惜しがる。亭主はもう意識を失つて、家の中へ駈込んで獵銃を持つて飛出して來て、散彈を牛の胴腹へ打込んだから、牛は驚いて牆を破つて隣家へ逃げて行つた。

此亂暴を見て居た隣家の親爺は、火のやうに立腹して、直にピストルを持出して、エヂスの父を擊たうとした。牆を隔てゝ二人の親爺が、ピストルと獵銃を前へ突出し、頭からポッポと湯氣を立てゝ、睨合つて居る光景を見て、ジョージとエヂスとが雙方から中へ割つて入り、互に父親を制止して家の中へ引張つて行つたが、其れ以來二軒の家は仇敵となつて、子供は一切往來出來ず、エヂスは、ジョージに逢つても物を言つてはならぬぞと嚴命された。其れのみならず、繼母は兩人の事を散々

て心に想つて居た男から慰籍の言葉と、己れを想つて吳れる心情を聞かされて、嬉し泣きに泣いて、男の戀を受けて、終世互に變らじと固い契を結んだ。それ以來兩人は繼母の際を窺つては互に密會しつゝ、短き逢瀨を樂んで居たが、好事魔多く、此處に圖らずも意外の椿事が起きた爲に、熱烈なる男女の戀人は繼母の爲に、樂しき逢瀨を堰かるゝことになつた。

（下）

或日隣家の牝牛が牆を破つて、エヂプスの家の庭へ飛込んで來て、散々に家の後に在る野菜畑を荒した。之を見た繼母は憎くて〳〵ならぬジョージの牛だから、戀の叶はぬ意趣返しをするのは此時と、金切聲を振り絞つて亭主を呼んで「妾が大切にして居た畑を、斯那に荒されて了つた。貴郎、ホントウに何うしませう」と、泣く眞似をして煽動したから

女の不義を憎みながらも、好加減に應待つて居たが、女の情が一層募つて來るので、遂にキッパリと斷つて了つた。彼は久しい以前からエヂスに戀し、エヂスも亦彼を憎からず思つて居たのであるが、繼母の爲に男と共に戀を囁き合ふ暇が無かつたから、繼母は二人の樣子を氣に留めることが出來なんだ。が、今男から拒絶されて考へると、男は娘に氣があるに相違ない、娘も亦男を想つて居るに相違ないと思へて來た。若い男と不義でもしやうと思ふ位の女だけに、種々と邪推を廻して、戀の叶はぬ意趣返しに、二人の戀に邪魔を入れ、娘を一層虐待し呉れんと、それからはフォークの上げ下しにも辛く當り散した。

男は隣家だけに、娘が虐待されることが手に取るやうに解る。ジョージは孱弱き乙女に同情する餘りに、遂に心を決して、或日機會を見て、エヂスに會つて、彼女を慰めながら、切なる心情を明かした。彼女は豫

の持參金があつて、縹緻が好くて、年齡が亭主と親子程違ふから、蚤くから亭主を尻に敷いて、意の儘に之を操縱する。亭主は娘が可愛いには相違ないが、若い後妻の愛に溺れて居るので、何でも女房の言ふ通になる。女房は自分が自慢にして居る縹緻が漸々衰へて行くに反して、繼兒のエヂスが年を取るに從つて、花の如く美貌を增して來るのが、嫉けて堪らず、落度を見著けては辛く當り散らす。また亭主は女房の機嫌を取る爲に、一緒になつて娘を虐待するので、エヂスは自分の薄運を歎いて、人知れずハンケチを絞るのが、毎日のやうであつた。

エヂスの家と畑一枚を中に隔てた隣家にジョージと云ふ息子がある。二十六七の好男子で、エヂスの夫としたら、定めて似合の夫婦であらうと思はるゝ位の男であつたが、繼母は竊に之に戀して、折に觸れては、切なる心を彼に訴へて、男の氣を引かうとした。ジョージは心に彼

壓迫の結果、男女が相談の上、快く自殺するものが眞の心中である。併し米國では戀する男女が、親の故障を排して寺へ駈著けて、坊主の前で結婚式を擧げたら立派な夫婦で、假令親でも指を觸れることが出來なくなる。米國には斯う云ふ便法があるから、心中をする必要が無い。從つて米國には原則として心中なるものが無い。處が此原則を破つた奇拔な心中があつた。

（中）

ブラサヴイルの片田舍の百姓家に一人の美人があつた。年は二十一で名はエヂス、誰の眼にも郡内一番の美人で、氣質の優しい處が、一層女の聲價を高めて、之に想を懸けて、青春の血を燃やす若者は少くはなかつたが、エヂスは誰の戀をも、受くる餘裕が無かつた。と云ふのは、エヂスの母は後妻で、父がエヂスの十二三の頃に娶つた女であるが、多少

ドルを動かして居る。やがてある懸崖に差し掛かると、運轉手は車を停めて「此先でツイ此頃若い男女の情死があつた」と言ふ。米國で男女の情死とは始めて聞いた。自分は淺學寡聞で、まだ心中と云ふ英語を知らない。曾て尾崎愕堂の家で、主人夫妻と對談して居ると、不圖心中談が出た。テオドラ夫人は、倫敦の某大書肆で出版する世界風俗叢書の日本部を擔任して書くことになつて居るから、無論情死位のことは書物で調べてある筈だと思つたから、英語で何と云ふかと問うて見たが、夫人は明答が出來ない。愕堂は首を捻つて頻りに考へたが、適當の文字が見出せない。ラヴァース、スイサイドも可笑しいが、亦スイサイド、フオワ、ヂヴォーションも面白くない。結局好い言葉が發見出來なくて別れた。心中は元來合意的のもので、强制的のものでない。貧苦に迫つた男女の自殺に、心中と名を附けるのは勿體ない。戀に對する

一二　自働車心中

（上）

農園の視察は夏に限るが、暑いには閉口だ、案内人に向つて「暑い〳〵」と言ふと、「後で涼しい處へ伴れて行く」と言ふから、それを樂みにして待つて居ると、農園の視察を終へてから、一旦櫻面都へ引還し、それから始めて加州の金坑を發見したと云ふコロマの手前に在るプラサヴィルまで行つて、自働車で六千五百呎の高所に在るタホー湖へ案内さるゝことになつた。

プラサヴィルから道は漸々高くなつて行く。恰も阿波の吉野川の沿岸に在る大歩危に似たる處を通つて行く。乘客は危險を慮つてヒヤ〳〵してるが、運轉手は一向平氣で葉卷を口にしながら、巧みにハン

では相當に鳴らした者だ。タフトは學校を出てから或る辯護士の書記になつて、月に二十五弗の下宿料にも足らぬ位の月給を貰つて働いた。そして一年間法律を實習して辯護士の試驗に及第をしたが、まだ自分で辯護士を開業する資力が無い。親は元より其資金を呉れないし、呉れた處が新參者故顧客が無い。其處で止むを得ず、後一年間助手となつて働いた。其時の月給はたつた五十弗であつたと云ふが、タフトは一生懸命に働いて知己を求め、自分の名前を廣告して、一年の契約期限の終了するのを待つて、始めて辯護事務所を開く事になつた。開いてからでも、タフトは非常に苦辛をした。彼が後に至つて世界に名を轟かすやうになつたのは、全くエール大學卒業後數年間の辛苦が與つて力がある。輕薄にして思慮無き日本の新學士諸君に向つて、米國人の心掛を學んで貰いたいと特に頼んで置く。

欺をしたり、横領をしたりするやうな事になるのだ。

米國の工學士は土方になる。併し日本の工學士に土方になれと言ふたら、苦學をして工科大學を出て土方になる位なら、首を吊つて死んで了ふと言ふかも知れぬ。然るに米國の工學士は喜んで土方になる。勞働服を著て、無學の勞働者と一緒になつて稼いで生活費を作りながら汲々として實驗を積む事に苦心する。學校は學問をする處で、學問は直に應用出來るものでない。之を應用するには經驗が無ければならぬ。其處で彼等は五年でも六年でも熱心に働いて實驗を積むが、愈〻實驗が積んだ曉には、實地學問兼備の技師となつて重用されるやうになる。米國の技師は日本のやうな安つぽい者ではない。

前米國大統領タフトはエール大學の法學士である。彼はシンシナチの金持の息子で、親は同じくエール大學出の辯護士で、オハイオ州

に支配人をして居た製糖會社に人足が要るから紹介狀を書いて遣らうと言つて、今の支配人に紹介狀を宛てた。其手紙の中には自分の悴は、今年大學を出たが、一向子供で役に立たぬ。併し身體は丈夫であるから、大根園の人足なら出來やうと思ふから、何卒御採用を願ふと書いて、最後に Let him start from the bottom(彼をどん底から出立さして下さい)と附加へてあつた。其意は言ふまでも無く、一番下の位地に就かして呉れと云ふ事である。日本ならば何卒特別を以て、良い位地に就かして呉れと言ふ處だが、之に反して米國人は下役から使つて呉れと賴んで居る。そして下役から叩き上げて、立派に經驗が著いたら、必ず上へ立身出世をする資格が出來たのだから、必ず昇進するに相違ない、米國人は苦んで順序を逐うて成功しやうとする。然るに日本人は其の反對に樂をして出世しやうとする。樂をして出世しやうと思ふから詐

の財産家の悴で、法學士！それが勞働者となつて、眞黑になつて働いて居る。成程其處が米國人の偉大な處だ。建國以來僅かに百三十八年で世界第一番の富强國となつたのは、つまり斯う云ふ感心な氣象があるからだ。それを思ふと何うだ、日本の法學士は、學校を出たら直に官吏にならう、會社員にならう、銀行員にならうと、未熟不鍛錬な身の上をも顧みずに學校を出るなり、直に一廉の人物になつたやうに心得て居る。其心掛が間違つて居るから、彼等に米國人の話をして聞かして遣る必要があると思つた。

（下）

此百萬弗の家に生れたジミー法學士は、加州大學を出でて一人前になつたが、親の心では半人位にしか思つて居ない。併し學校を卒業した以上は、もう養つては遣らぬから、何處かで働いて來い。幸ひ俺が前

居るから、それを差引いて正味を帳面につけると、馬車は其處を去つて鐵軌の上に並んで居る貨車へ大根を積込む。農園ボスで日本人にヒンヅー(印度人)墨西哥人及び伊太利人等の人夫三百人を使役して居る吉村治三郎と云ふ人は、今自分達見物に來た者を案内しながら、衡器番の前へ來て、「オイ、ジミー、今日は何噸出來た」と目方の事を聞いた序に、種種の談話をした後で、一同に向つて、「此はジミーと云つて此製糖會社(ユニオン、シユガー、コムパニー、資本金二千萬圓)の前支配人の子です。此頃加州大學の法科を出た男ですが、斯うやつて勞働者になつて一日二弗五十仙で働いて居ます」と言ふ。其處で一行は甚だ興味ある事に思つて、詳しく其男の身分を訊くと、親は百萬弗以上の資産家で、二人の男子と二人の女子があるが、此子に苦勞をさせる爲に先づ勞働者として働かして、それから漸々出世させやうと云ふ考だと說明する。百萬弗

る。大根の頭には葉が附著いて居るから、勞働者は庖丁の尖端にある鉤鍵を大根の頭に引掛けて、グッと引拔きながら、宙に投げるやうにして、ポンと大根の首を落すと、邪魔になる葉が横へ飛んで、大根が足許へ落ちて來る。實に巧妙なもので、その仕事をタッピング(打首)と云ふさうだ。日本には不用な役人の數がウンとあるが、此大根のやうに思ひ切つてタッピングを遣つたら宜からう。例へば鐵道院へ手を入れて參事や技師、事務員、技手などのタッピングを遣る。また郡役所を廢止して郡長郡書記等のタッピングを遣る。序の事に外國航路補助金の如きものをタップしたら、嘸溜飲が下ることだらう。

打首にされた大根の屍骸を、畝へ積んで置くと、四頭立の馬車が來て持つて行く。そして三四噸程集めると、畑を出て衡器が裝置してある處へ來て、馬車ぐるみに其上へ乘る。チャンと風袋の目方が判明つて

實に作つたとは豪いではないか。日本人も此れ位に成功すれば、もう排斥に遭つてもビクともしない。一體米國人は小さな日本人には辛く當るが、大きな日本人には優しくして來る。下手に出た外交には、高壓の手段を執るが、高飛車に出て見せると、遠慮して手を引込ませる。此邊の呼吸が解らぬやうでは、對米外交は唯失敗あるのみだ。

一一　米人の心掛

（上）

農園を視察しつゝ、とある砂糖大根園へ來て見ると、恰も收獲の眞最中で、各國から集り來つた三百餘人の勞働者が、脇目も振らずに、日本刀のやうな刄渡り一尺五六寸の庖丁を持つて、大根の頭の處を斬つて居

同じ處を二度も餘分に廻つたんだから、運轉手先生妙な顏をして、後を向くから、「知事閣下及び議員諸君に敬意を表するためだ、日本へ來る外國人は、誰でも日比谷の議事堂の周圍を三遍廻ることになつて居る」と言つて遣ると運轉手は「ザッツ、グッド(それは善い事だ)」と言ふ。尤も一層深厚なる敬意を表する方法は、まだ外にいくらもあるが、今回は此れ位にして負けて置く。

市の郊外パーキンスと云ふ處で、廣島縣人の大成功者沖健二と云ふ人の農園を視た。それからフローリンへ出て日本村と云ふのを視察して、櫻面都河の沿岸三十哩間に亙つて、大小十五六の日本人農園を見物して、熊本縣人の成功者富永寅彦、愛知縣人の成功者伊藤鞍吉、堀田鎌次郎及び大野吉五郎などと云ふ人達の事業を視て、意外に盛大なるのに驚いた。彼等は徒手空拳で米國へ渡つて、數萬乃至十數萬の富を、確

運動の中心點兼策源地だが、それを中心として、方一萬數千哩に亙る地方は、米國全州を通じて最も豐饒なる部分であるから、蚤くも日本人が目を著けて、二三十年前から其處へ移住して、現今では七萬英町からの畑を耕して居るとは豪氣なものだ。

櫻面都はエスピー鐵道の停車場で下車して、自働車を傭つて、案内人と共に市中を疾驅して、農園へ向ふ途中、一寸州廳構内へ車を入れて、議事堂の周圍を一周して見る。議事堂は三十七英町からある公園の眞中に建てられて、その建築費は物價の廉い時に、六百萬圓から掛つたと云ふ位だから、實に堂々たる立派なものだが、その中に百姓議員共が集つて、吾々の同族を排斥するかと思へば、胸糞が惡くなつて來る。其處で自働車の後から例の惡臭を吹掛けて、一度で濟む處を三度も叮嚀に議事堂の周圍を廻つて、構外へ出て田舍道を一直線に南へと走らせる。

ヤンキー

には實に非道い奴が居る。これだから地震や火事があるんだ。併し此奴等、まだ惡運が強いから無事で居るが、此次にはペストか海嘯で殺されて了ふから見て居れと、捨臺詞を殘して外へ飛出して來る。

一〇　櫻面都

轟々と耳に響く電車の音、ブーンと鼻を突く自働車の油烟の惡臭に惱まされて、稍神經衰弱に陷りかけたため、愈〻田舍の天が戀しくなつたので、桑港を後に、豫て盛況を聞いて居た加州櫻面都の農業を視察せんとて、同地へと出掛けて行く。

櫻面都は加州政廳のある處で、加州政治家の有象無象が集つて、其處で種々な排日案を製造して、在留日本人を苦しめて居る。云はゞ排日

分の衣嚢に納めて、彼の二百弗の金をポーンと箱の中へ入れて、「太夫身仕度出來ましたれば、愈、これから奇拔な藝當を御覽に入れまあす」と言や御了ひだ、これやウッカリ金を出したら非道い目に遭ふぞと思つたから、「俺は其那五十弗なんてい金は持つて居らぬ」と言ふと、最前の二百弗取つた奴は予の側へ寄つて、「何れ衣嚢を見せい、二百弗儲かるぢやないか、五十弗位出して遣れ」と言ひながら、手を衣嚢へ入れやうとするから、ツト身を引いて「俺あ一弗五十仙しか持つて居らぬ。所持金は何うでも宜いが、お前方はホントウに人を馬鹿にするぢやないか」と言つて遣ると、件の奴は「人が親切に言つて遣るに何が馬鹿だ。貴樣こそ此方等を馬鹿にして居やがるんだ。此ジャップの文無し野郎奴」と言ひながら、予の肩へ手を掛けて次の部屋へ突出した。米利拳を頂戴したり、尻を蹴られたりしなかつただけ儲け物だが、イヤ何うも驚いた。桑港

に手を掛けて金貨を三つだけ脇へ遣つて、元方に向ひ、「サア此處に六十弗あるから、それを取つて十弗剩錢を呉れ。殘餘の百四十弗は此方へ頂戴して置く」と言つて手を引込ませやうとすると、「チョッと待つた」と言ふ。復待つたか、却々手數の掛かる男だ。「一體何うすれや宜いんだ」と言ふと、元方は笑ひながら、「オイ、ジョン」と呼ぶ。先度がチャーレーで此度がジョンか、此次には一層下落してジミーと來るだらう。此方も負けては居らず「オイ、ランキー何だ」と言つて遣ると、元方は眞面目な顏して「オイお前、見せ金を出さんで此金を取ると云ふ作法は無いぜ。見せ金を五十弗出してから二百弗取れ。それでなけれや此金は渡すことは出來ぬ」と言ふ。愈〻怪しくなつて來た。猫も斯う鰹節を前に置いて、チョイ〳〵飜弄されては堪らないと、少々逆つ腹が立つて來た。併し待てよ、此處で五十弗の金を出すとする。スルト奴は其金を自

くも無い手を前へ出して、元方の顏を一生懸命で眺めて居る。

（其の三）

元方は微笑を浮べながら、「オイ、チョッと其金貨を此處へ置け」と言ふから、言ふ通りに元の處へ置くと、彼はチョッと金貨を見た眼を此方へ移して予に向ひ、「オイ、チャーレー此金はお前に當てたもんだが、お前は金を張らんぢやないか、金を懸けずに賞金を取ると云ふ作法は無い。當てる前に十弗懸けて置けば、當つてから二百弗取れるが、後から取らうと思へば、其五倍だけ拂はにやならぬ。これや賭場の規定だから取たけれや五十弗拂へ」と言ふ。此は少々頭腦が混線して來たぞ。併し待て、彼の金を取るに五十弗要ると、成程其處で五十弗全部先方へ呉れると、差引百五十弗儲かる。先方はそれで百五十弗の損になる。其處で、百五十弗頂戴して、五十弗だけ先方へ遣れば宜い勘定だと、再び其金

旨い事があるなら、早く亞米利加へ來れば宜かつた。併し待てよ、此れや話が餘り旨過ぎる。此奴等あ俺を新米の日本人と侮つて、翫弄物にして樂むのかも知れん。此奴あウッカリ手は出せんワイと、默つて見て居ると、件の奴は「オイお前、早く取らんか」と催促する。好物を鼻の先へ突著けられたら、チット位頭を叩かれたつて喰著かずには居られない。まして二百弗と云ふ大金だ。もう我慢が出來ないと、恐る〳〵手を延ばして取つて見ると重い。二十弗金貨で十枚あるから其筈だ。ヤレ有難いと手を引いて、早速衣嚢に入れ樣とすると、元方は「チョット待て」と言ふ。そりや故障が起きたと思つたが、金貨を掴んだ手は離されない。鰹節を銜へた猫は頭を五つ六つ叩かれたつて獲物は放さない。ドッシリと目方のある金貨を握つた此手が、何うして放せるもんかと衣嚢にも入れられず、それかと言つて元の處へも置かれず。ニユッと太

見込まれたが因果だと思つて、其篦を振上げてボーンと木の頭を叩くと、一尺程飛んで行つて其頭が或數字の上に倒れた。之を見た件の奴は「旨い、締めた」と言つて非常に滿悅んで「サンキウ」と言つて予の手を握つて三度振つた。

驚いた顏をした元方の男は「ゴッデーム、ユー、メントビジネス(畜生奴旨いことをしやがつた)」と言つて四百弗の金を前へズラリと並べた。之を見た件の奴は其中から二百弗を取つて、衣囊に納めて予に向ひ、「お前其の二百弗を取れ」と言つて殘金を指ざす。篦で木の頭を撫でただけで二百弗とは夢のやうな話だ。ホントウに取つて宜いか知ら。ホントウなら、これから一つ宗旨を變へて篦叩きになる。そして一日に三つ叩けば一つ百弗宛としても三百弗、一月に九千弗、一年に十萬八千弗、三年も續けて叩いて居れば、利子を加へて四十萬弗位になる。斯那

れた。二度試しても當らない。其處で二十弗の金貨を出して張つて、後を見ながら予に向つて「お前一つ此木の頭を毆つて呉れ」と言ふ。

（其の二）

此奴餘ッ程妙な野郎だ。見ず知らずの日本人に博奕の手傳ひをして呉れと言ふのは、何か魂膽があるに相違ない。此奴はウッカリ手が出せぬと思つたから、「お前が張る博奕だ、俺あアイドンケア（知らない）だ」と素氣無く謝絶ると、其奴は「大丈夫だ、お前は唯木の頭を叩くだけで宜いんだ、俺あ何だかお前に遣つて貰ふと、當るやうな氣がするから、助けると思つて遣つて呉れ」と賴む。助けると思つて遣つて呉れとは、旨い言を云ふ。併しそれでも、其那馬鹿な眞似は出來ないと言つて、應じないで居ると、其奴は强制的に自分の手に篦を握らせて、「何うしても叩け」と言ふ。云ふ言を聽かねば毆りでもしさうな劍幕だ。最早絶對絶命

前に置いて立つて居たが、後の方を向いて、「太夫仕度は何うか」と訊くと、中では癇高い女の聲で、「アイ〳〵 五分經つたら舞臺へ出ます」と言ふ。男は見物人に向つて、「御聽の通り太夫の身仕度に五分掛りますから、一寸休憩時間の御慰みに、餘興を遣りませう」と、テーブルの下から細い長い德利の形をした木を何本も出して並べる。熟く見るとテーブルには目を切つて、文字や畫が書いてある。何だか知らんが、博奕を始めたやうだから見て居ると、四五人の奴が錢を張る。そして一人の奴が長い篦のやうなものを持て、木の頭を毆ると、それが皆倒れる。皆當つたやうで、男は葉卷烟草の箱を開けて金を拂ふ。斯那ことを三度程繰返して居ると、見物人は皆勝つて瞬く間に三百弗ばかり男の金を捲揚げた。スルト最前から此勝負を見て居た一人の見物人は、「ヨシ俺も一つ張らう」と五弗の金貨を張つて、自ら木の頭を毆つたが當らず、金を取ら

濟むと口上使ひは「扨て諸君、此中が面白う御座います、見れば眼の藥、心の樂み、見ずに歸つては心が殘つて寢られません、サアサ是ッ非御覽なさい」と復其處で十仙の見物料を取る。其處で金を拂つて中へ入ると、外の女が現はれて尻振踊を遣る。乳房を振り尻を振り、筋肉の突起して居る部分を一々振つて見せるから、見物人の喜ぶこと夥しい。實に巧みなものだ。彼の不隨意筋を何うして、彼那に自由自在に動かすことが出來るのかと、微妙の技術に感心しながら見物して居ると、女は一頻り踊つて中へ引込んだ。スルと口上使ひは「何うです皆樣、御滿足でせう。併しこれからです、奇拔破天荒の藝當を演じて御覽に入れますから、サアサ見物しなさい」と復十仙强奪する。見物人の好奇心を挑發して財布を空虛にさして了ふんだらうが、エイ乘掛けた船だから、見て遣れいと、十仙拂つて中へ入ると、一人の男が一間四方位のテーブルを

ふ處へ出る。此が有名なる桑港の不夜城で、酒屋と舞踏場とが軒を並べて居る。其處へ出入する者は、眞面目な人間は一人も居ない。男子は兎も角、女は悉く魔性の者ばかりである。町の中程に在る右側のスプリングドアを開けて中に入ると階段があるが、それを下りて行くと舞踏は今眞最中で、數組の男女が入亂れて舞踏して居るのを、何百と云ふ見物人は椅子に著いて、高價いビールを飲んで見物して居る。ビールを運ぶ女は何れも醜業婦で、之が客を銜へて何處かへ姿を隱す。舞踏場から出て一町程ブラ〳〵と歩いて行くと、女の裸踊と云ふ看板が出て、若い美人が招き猫と云ふ體で客を呼んで居る。ハヽアこれが有名なダンスだな。入場料十仙とあるから一つ見物して遣れと、金を拂つて中へ入つて行くと、半裡體の女が妙な腰付で踊つて居る。肉著の好い女が面白く踊るから、若い男は滿悦の體で見物して居る。それが

ヤンキー

ど悉く之を具備して居る。又森久保君を惡口する者は、彼には寸毫も人格なるものが無いと言つて非難するが、相當に部下を作り、仲間を殖して行く處を見れば、必ず他に人格に代るべき、何物かがあるに相違ない。人格々々と世間の人は喧しく言ふが、今日の日本の政治家で、立派な人格を具へて居る人が、幾人あるかを問うて見たい。

九　色仕掛で生馬の眼を拔く奴

（其の一）

桑港（サンフランシスコ）の、地理ももう能く解つた。案内人は更に要らぬ。其處で或晩ブラリと宿を出て下町の方へと見物に出る。カーネーを眞直に左へ行つて、三叉になつた處を右へ折れて行くと、バーバリーコーストと云

た難い哉だ。

米國の市政ボスとして知られて居る人の美點を求むれば、先づ右の通りである。此點に於て故星亨はボスとして得難き典型を具へて居つた。彼の部下の人々が、彼に懷いて離れなかつたのは、豪膽の中にも溫乎たる愛情が籠つて居たからである。星歿後に於て其人を求めたならば、唯一人森久保作藏君あるのみだ。世人は森久保君には學問が無いと言ふ。其の通り學問は無い。然し彼には俗才が有る。又世人は彼には辯舌が無いと非難する。確かに辯舌家では無い。併し彼は座談に於て相手を魅する話術を心得て居る。又彼は議場に於て、堂々と部下を指揮して、敵と應戰せしむる院內總務の柄でない。併し別室に立籠つて豫め當日の勝利を畫くだけの策略と、周到なる用意とがある。其他彼の美點を拾ひ集めたなら、ボスたるに必要なる條件は、殆ん

令は好く一黨に透徹する。

又ボスになる人間は非常に好く努めたもので、何那ッマラぬ人間でも部下の黨人になれば親切に對談し、話して解れば何處までも諄々と說く。眞面目に黨の爲に盡すと云ふ人間と見れば、何處までも世話をする。ボスは部下に對して常に仕事の分配及び地位の割當等の爲に、微細の點まで氣を著けて心配をする。要するに部下を操縱する手腕が無ければ、決してボスにはなれない。そしてボスには假令部下に背かれても、何時かは復び歸つて來るであらうと思ふ度量と、機會があつたら捉へて來て、復自分の乾兒にして使つて遣らうと言つて、汲々として其機會を作る根氣が無ければならぬ。ボスが途中で舊乾兒の者に出會した時には、之を人の居らぬ處へ伴れて行つて、熱心に復黨を勸め、必要に應じて空涙でも出して見せなければならぬ。ボスたることま

捕縛される事になつた。其乾兒として芝居の囃し方から桑港市長にまで成上つたシユミッツも亦刑事被告人となつた。又東の方ではタマニーホールのボスのリチャード、クローカーは、政界から退隱して故郷の愛蘭へ歸つて行つた。ボス政治は漸々凋落して來たが、まだ其餘孽は殘つて居る。滔々たる米國の都市にして、ボス政治の羈絆を脱したものは幾何もあるまい。

一口にボスと言ふと、何となく下等人物のやうに聞える。併し必ずしもさうでない。元より立派な人物では無いが、苟も一派の首領として立てられて行く人間であるから、一寸尋常人では眞似の出來ぬ偉い處がある。先づ威壓が好く利かねばならぬ。大聲叱咤した時に、叱られた者共が恐れ入つて、平謝罪にあやまると云ふ位でなければならぬ。これは普通人では出來ぬ藝當である。斯う云ふ人間であるから、其命

ては直接に之に關係すべきものである。尤も自分達個人の利害に關する問題の爲に政治に關係することは避けなければならぬ。要するに米國と全く國情を異にして居る貧弱なる日本に於て、實業家が政治に冷淡で政黨を馬鹿にし切つて居るから、內外治交の成績は擧がらず、政黨は常に二三の野心家の爲に利用せられて、常に不善事を爲して居るのである。國家の進運の爲め及び國民の幸福の爲に、大に實業家の反省を求めなければならぬ。

八　米國のボス

（星亨と森久保作藏）

久しく桑港市政を腐敗さして居たボスのルーフは、舊惡が露現して

は國情が違ふ。國は二千五百餘年の舊國で、國土狹隘にして人口は過多、土地の生産力は既に盡きて、諸種の工業原料品を外國に仰がなければならぬ地位に立つて居る。從つて政府の一擧一動悉く國の經濟に影響して、實業家は常に神經敏過になつて、政府の遣方を注意して見て居る。米國の實業家のやうに、大膽に構へて居ることは出來ぬ。況んや日本は政府の政策如何に依つては、種々な社會問題が突發して來る國だ。此點だけでも實業家は俺は實業家だから、何も知らぬと言つて澄ましても居られまい。又實業界には人物があるから、政界には人物が有らうが無からうが、構はないとも言うても居られまい。若し實業家が政治に對して、超然たる態度を取つて居たなら、獨り自分達が馬鹿を見るのみならず、國民全體が馬鹿を見ることになる。故に實業家は自衛の爲のみならず、國家國民の利益の爲に國政を監視し、場合に依つ

加之米國の領土は十億萬の人口を養ふ餘裕があるのに、現在僅かに九千萬人しか居ない。而して國の面積の五分の四は、今尙未開の狀態に在るから、國富の開發の爲に實業界では、非常に人物を要求して居る。從つて手腕あり力量あり膽力ある人物は、自ら進んで實業界に飛込んで、第二のカーネギーたり、第二のハリマンたらんと欲して奮鬪して居る。金是れ權力なる思想は悉く有爲の才物を騙つて實業界に送り、實業に不向で而も鼻ッ張りの强い人間が、政界に飛込んで巾を利かして居るに過ぎぬ。而して實業界に在る人々は自ら其財力を恃み、政治家が暴を行つたなら挫いて遣らう。然らざる限りは唯放任して、見て居て遣らう。自ら多忙なる時間を割いて、政治に關係するにも及ぶまいと言つて、常に超然たる態度を取つて居る。

日本にても人物は政界に少くて、實業界に多い。併し日本は米國と

り政治運動などを遣つたりしないのは、當然であると云ふ人があるが、これは米國の事情を知らぬより起る誤解である。

（下）

實に米國は世界第一の富强國で、其の面積は三百二萬六千方哩、西は桑港より東は紐育に至るまで三千餘哩、北は加奈陀の國境より南は墨西哥灣に至るまで千七百餘哩、世界最良の溫帶地方の全部を占め、農業に於ては世界第一、鑛業に於ても世界第一、製造業に於ては獨佛の生產額を合したるものよりも、常に三四十億萬弗多く、國富に於て英國を凌ぐことは、左まで遠い將來ではないと言はれて居るが、而も國の獨立してから、漸く百四十年足らずで、此盛況に達したのは天與の地位が、主として然らしめたには相違ないが、米人の奮鬪的精神と、汲々として精勵倦まざる努力が亦與つて力があるのである。

馳せて居る二三の人達を拉し來つて、武藤金吉君と聲名爭をさせたなら、御氣の毒だが團扇は武藤君の方へ擧がる。米國では尙それより非道い。例へば加州多數の人民に向つて、キヤミネッチは何う云ふ人かと訊けば、ウムあの日本人を排斥して吳れた偉い政治家、アレなら好く聞いて居ると答へても、ライマン、アボットの名を訊ねたら、其那坊主臭い名は知らぬと答へると同樣である。米國の政黨も、雜輩が巾を利かして居る間はとても駄目だ。完全な發達が出來るものでない。其處へ行くと英國の如きは一流の政治家が在朝在野の兩黨に分れて、堂々と主義政策の爭をするから、政黨が國家重要の政治機關になる譯である。

米國では右の如く立派な第一流の人物が政黨に加入せず、又政治運動などをしないから、日本も亦同樣で、立派な實業家が政黨に關係した

善良なる紳士は政黨に加入せずして、實業界に沒頭して、己が天分を樂んで居る。夫のルーズヴエルトやタフト等を以て、米國第一流の人物と心得て居る人達は、米國各地の大銀行、大會社若くは個人の實業界に誠實無名の大人物が潛んで居ることを知らぬ淺薄者流である。タフトやルーズヴエルトやブライアン等は唯黨人として傑出して居るだけで、米國第一流の偉人であると言はれない。恰も大隈伯が多年黨人として、縱言横語して居た爲に、其名前が曾て伊藤公以上に賣れたと、少しも異る處がない。人物を他に求むるなら、大隈伯以上の人は五指を屈する位はあるのであらうと思ふ。併し黨人になれば名前は好く賣れる。例へば野田卯太郎君の名は、村井吉兵衞君よりも廣く、伊藤大八君は園田孝吉君よりも、好く知られて居る。又豐川良平君を知らんでも、河野磐洲翁を知つて居る人は澤山ある。若し日本銀行內で盛名を

か見ものであらう。

ヤンキー

七　實業家と政黨

（上）

米國へ來て半歲經つか經たぬ中に、米國の政黨の事を論じて見るのはチト早計だが、當時恰も共和黨の全盛時代で、タフト大統領新政の際だから御祝旁々政黨論を遣つて見る。一體米國の政黨は恰も日本の政黨が極めて幼稚であるが如く、尙未だ眞正の發達を遂げて居らぬ。英國の政黨を大學校に譬ふれば、米國の政黨は中學校で、而かも設備の不充分な爲に、文部省の認可を經ることの出來ぬ私立中學である。唯徒に數を集めて、暴威を揮つて居るに過ぎぬ。此を以て米國第一流の

モーと云ふ奴は、日韓人排斥協會の首領だなどと威張つて居るが、今より六年前にミネソタ州で手形の僞造行使をした爲に、十八箇月の禁錮刑に處せられて、スチルウオーターの監獄で苦役を勤めた金箔的の前科者だと書いて、四吋に五吋位の寫眞を入れて、大々的に報道したが、其寫眞は彼が獄衣を著て正面と側面との兩方から撮影したもので、眞實本人に相違がないから、桑港人は之を見て大に膽を潰したことがある。

此致命傷に等しき新聞の迫害を受けた爲に、彼は一時非常に弱つたらしいが、何う切り拔けたか、何う世人を瞞著したか、矢張り勞働者の牛耳を執つて、大に勢力を揮つて居る處を見れば、彼は確かに一人物であるに相違ない。彼は夫のカーネーに私淑して居る譯でもあるまいが、己れを奉ずること極めて薄く、桑港の町外れに借宅して、一寸中へ足踏みの出來ぬやうな、不潔な生活をして居るさうだ。彼れ今後何を爲す

角有力なる團體である。そして此會の牛耳を執つて居るのはチベトモーなる男である。

凡そ米國へ來て一代で叩き上げた人間の前身を洗つて見ると、大抵お粗末な者であるが、チベトモーも亦其撰に漏れずで、出生は唯那威と聞く許りで、教育修養兩ながら零ではあるが、勞働者を操縱する特殊の技倆を有つて居るから、早くも日韓人排斥同盟會を作つて、自ら其の牛耳を執るやうになつたが、後に亞細亞人排斥協會の會長になつた。兎に角手腕のある男で、日本ならば政友會の院内總務位は出來さうだ。從つて勞働者は大に彼に心服して居るが、彼が前身を洗つて見ると、實に驚くべき前科者である。曾て桑港のブルチン紙は勞働者社會に於けるチベトモーの羽振の好いのを見て、種々と其經歷を詮索した處が前科者であると云ふ事が判明つたので、之を紙上で素破拔いて、チベト

以上は之を彼此云ふ必要はない。同じ亞細亞人でも、ヒンヅーは居らず、從つて排斥される者は日本人と、新たに被保護國となつた朝鮮人であつた。而して此會は初めは言はゞ烏合の衆で、格別の動作もしなかつたが、後に至つて漸々組織立つて來るやうになり、時々會合を催しては排斥の方法等に就て協議を重ねて居たが、恰も時の桑港市長ユージンシユミッツは、勞働派の歡心を得る必要上、之と氣脈を通じ、彼等勞働者を喜ばしむる爲に、日本人學童排斥事件を起さしたのは、人の普く知る處である。

其後桑港の事情は種々變つたが、排斥同盟會は漸々と大きなものになり、名稱を亞細亞人排斥協會と附けて、相變らず排斥の聲を擧げて居る。彼等は獨り日支人のみならず、最近に盛に入國して來た亞細亞印度人に對しても亦排斥の聲を高めて居る。亞細亞人排斥協會は兎に

ヤンキー

ず、一度此名を問へば、彼等は唇を嚙みながら、必ずヒム、ヒップ、ノー、グルラー（彼は非常に惡人なり）と、支那語訛りの英語を以て、カーネーの惡口をするに相違ない。今や日本人は支那人と同病相憐む者となつたが、二三十年の後に衰殘の體軀を加州の農園に横へて居る同胞勞働者は必ず此支那人と同一の言を爲すであらう。

六　日韓人排斥同盟會

後に亞細亞人排斥協會

日露戰爭の當時、始めて桑港に日韓人排斥同盟會と云ふものが出來てソロ〳〵活動を始めた。此會は讀で字の如く日本人と朝鮮人とを排斥するのが目的であつた。支那人はあれども、排斥法が出來て居る

れば足る。併し獵官の野心の無い處が、自分の價値のある處である」と言つて居たが、實際勞働者は彼をそれ程高くは買はなんだ。己れを知るの明の無い彼は、自己の力量を過信して、華盛頓まで出掛けて行つたが、其熱心は兎も角、其無學文盲且つ不作法なる態度は、到る處で歡迎の代りに侮蔑嘲弄を受くる的となつた。そして歸來甚だ振はず、千八百八十三年以後は其生死すらも不明になつたが、桑港の大地震後まで生きて居た。

古くから加州に居る支那人はカーネーを忘れぬ。丁度日本人がサンフォードや、キャミネッチや、ジョンソン等を忘れぬと同樣である。今日加州の農園地方を旅行する人は、時々老衰して居る支那人を見受けるであらうが、彼等は排清運動が激烈であつた時代の遺物で、今尙當時の苦痛を記憶して、其共同の敵であつたデニス、カーネーの名を忘れ

撃した時には、支那人は武裝をして防禦したから無事であつたが、往來に於ける迫害は益〻激しくなつたので、或支那人の決心隊が起つて暴行者を物色して、暮夜不意に之を襲撃して、手足を斷ち首を切離して、支那人街の入口に晒し物にして置いたが、之が爲に迫害は大に熄んだと云ふことである。

此時に當つてカーネーは、舌端火を發する底の熱辯を振つて、盛に支那人排斥演說を遣つて居た。彼は支那人重きか、加州民輕きかとの詰問的演說を遣つて大に國會の無爲無能を罵倒して居たけれども、其聲望は漸々と衰へて最早昔日のカーネーではなかつた。彼は大言壯語して、自分にして若し加州知事たらんことを望まば、易々と之に當選することが出來る、又若し自分にして上院議員たることを望まば、當選することは必ずしも困難でない。要は自分の力で以て多數勞働者を集む

斯の如くカーネーは熱心に支那人排斥運動を遣つたが、國會は却々之に耳を籍さなんだ。幾多の請願も幾多の法律案も容易に通過せなんだが、之が爲に勞働黨が暴力に訴へて支那人を排斥せんとしたり、次期の大統領選擧の時には言ふことを聽かぬなど、駄々を捏ねたので、支那人排斥法案は遂に一千八百八十三年を以て、有力者の奔走により國會を通過することになつた。

（下）

支那人に對する加州人の迫害は非常なもので、却々今日の日本人が受けるやうな輕易しいものではなかつた。當時の事情を知つて居る人の談に依ると、勞働者は往來を通る支那人に向つて暴力を振ひ、隊を組んで支那人街を襲擊し、太平洋汽船會社の埠頭に待受けて、東洋から入港して來る支那人に向つて非常な暴行を働いた。其支那人街を襲

へ來ても愛蘭の芋種が非常に巾を利かして居る。何處へ行つても芋と云ふものは勢力の種を蒔くものと見える。

カーネーは卑賤な人間ではあるが、體格は頑健で辯舌に長じ、熱烈火の如き人間であつたから、蚤くも勞働者首領となつて、當時一萬二千人から居た支那人を排斥することと、資本家の横暴を制することとの二を政見として、猛烈に奮鬪した。特に甚だ感心なことには、彼は自ら奉ずること極めて薄く、常に勞働者の服裝をして、心から勞働者のつもりになつて、奔走して居たから甚だ評判が宜しい。其處で桑港クロニクル紙は營業政策として、大にカーネーの提灯を持つて、彼の支那人排斥演説を大々的に報道して、大に氣勢を添へ、資本家の攻擊演説を遣らしては、恐喝取罪の種に使つて居た。此事は現にカーネーが自分の演説の中に公言して居る。

加州が始めて獨立の州となつたのは一千八百五十年の事で、當時加州の政治の中心は桑港に在つて、政治上の實權を握つて居たのは勞働黨であつたが、其牛耳を執つて居た者はカーネーである。彼は愛蘭生れで、其前身は船頭で、後に運送馬車屋の主人をして居たと云へば、大抵其智識修養の程度が推測られる。一體愛蘭人は奇態に政治趣味を有つた人種で、米國の政界では却々盛に活動する。彼等は大統領としてジャクソン、ボーク、ブキアナン、アーサー及びマッキンレー等を出して居るが、國會にも愛蘭系の議員が非常に多い。特に著名なる都市の行政は大部分愛蘭人の手に歸して居る。紐育タマニーホール中興の市政ボスのトウキードでも、前ボスで目下退隱して居るリチャード、クローカーでも、今のマーフイーでも、又費府ギャスリングのボスをして居たマクメーンスでも、皆チャキ〳〵の愛蘭人である。更に加州の桑港

五　デニス、カーネー

（上）

桑港で最も繁華な町が二つある、一はマーケット、ストリートで、一つはカーネー、ストリートである。カーネー街を通つて見た處が、別に外國の町と變つた特色を見ないが、名が氣に入らぬ。此町を通り其名を聞く度に不快に思ふのはデニス、カーネーと云ふ者である。若しカーネーをして明治三十四五年頃より四十五年頃までの間に於て、活動する人物ならしめたなら、彼は必ず猛烈に日本人を排斥する運動を起したのであらう。今日加州に於ける排日熱は、遠くカーネーの排清運動に源を發し、野心政治家や地方新聞紙が巧みに之を利用したから、到頭偉い騒になつて了つたのである。

此裁判は原告が白で被告が黑色別は明かに著いて居るが、扨て判事は何う事件の黑白を別けるだらうと、其宣告を待つて居ると、判事は巡査に向つて、「お前はオフイサー（官吏）だから、此れから淫賣を買つては可けない。財布を取られても證據が無いから仕方が無い」と言ひ、黑奴に向つて、「お前はレヂーでも夜遲くまで街頭を散歩して居るやうでは、レヂーで無くなつて了ふ。淫賣婦や掏摸の嫌疑者になるレヂーは無い筈ぢや、今日の處は證據が無い故放免するから左樣心得ろ」と宣告する。之を聽いて巡査は頰を膨らせて起上る。淫賣婦は巡査を尻目に掛け、それ見たことかお巡査さんと言はぬばかりに、胸を前に尻を後に突出して、意氣揚々と出て行つた。

査を訊問した時と同じく、叮嚀に訊問をする。黒ん坊の女は洒蛙々〳〵と述べ立てゝ、巡査の證言を否認する。

「巡査の云ふ言は皆嘘です。妾は曾て其巡査を見たこともなければ、其晩に外出した覺えもない。妾は其晩確かに病氣で家に寢て居つた。又妾には立派な亭主があつて、樂しい家庭を有つて居る。それを自分のことを淫賣婦などと云ふのは、レヂーに對して、實に大なる侮辱であるから、此裁判が確定してから巡査に對して名譽毀損の損害賠償の訴へを起して遣るつもりです」と、

黒ん坊の自稱レヂー大に威張つて見せる。傍聽人は之れを聽いてクスリ〳〵と笑ふ。淫賣婦がレヂーなら泥棒は紳士になる譯である。面白いことを聞くものだ。これだから裁判の傍聽は止められぬワイと、シミ〴〵米國の裁判傍聽に就いて趣味を感じて來る。

へ來ると、婦人があそこに好い休息所があると言つて、丁度建築を始めたばかりの家を差して進んで行きますから、私も其後から附いて行きました」

「もう宜しい、それで財布は何時紛失したか」

「其婦人と會話中です、それから二十分程過ぎて、女と別れてから氣が著きましたから、彼女を呼留めて財布を取復さうとしましたが、彼女は一生懸命に逃げて行きました」

それにて訊問が終つて、巡査は元の席へと復る。次は黒ん坊の番だ。見れば背の高い肥滿つた女で、服裝も却々立派だが、頭髪は縮れて赫黒く、顏色は炭團のやうに眞黒で、其中から眼が鋭く光つて居る。敢て人種の差別を著けるわけではないが、什麼に寛大に見ても、之に人類の待遇を與へて遣らうとは思はれて來ない。併し一視同仁の裁判官は巡

「何と言つて聲を掛けた」

「モシ、今晩は！と言ひました」

傍聽人はクスリと笑ふ、中には聲を立てる者がある。判事は槌でテーブルを叩いて制止する。

「それで其方は何と言ふたか」

「私も今晩は！と言つて遣りました」

訊問は漸々佳境に入り、ソロ〳〵傍聽禁止になりさうになつて來た。

（其の三）

判事は益〻奥へ進んで訊問する。

「それから何うした、詳しく申立て丶見よ」

「それから其女が一緒に散歩をしやうと言ひますから、オーライと言つて一緒に下に歩いて行きましたが、瓦斯燈も何も無い暗い處

「三十二歳」
「宗教は」
「ローマン、キヤソリック」
「其方は其れなる婦人を見たことがあるか」
「ハイ確かに見たことがあります」
「何處で何うして見たのか」
「本月七日の晩九時過にヴアンネス、アヴエニューとキヤリフオルニア街との角を巡行中に見ました」
「其方は其時婦人と談話をしたか」
「左樣です」
「何方から先へ聲を掛けたか」
「婦人の方から先に聲を掛けました」

目清秀の美丈夫で、什麼にも蘇格蘭の女皇が惚れさうな男だ。然るに此淫賣婦買のチャールス、ブランドン君は赫膨れに膨れた醜男子で、愛蘭の田舍の芋畑の中で地主の家來から、鞭で尻を叩かれて居る小作人のやうな面相をして居る。それがチャールス、ブランドンと云ふのは宛然九段坂の立ん坊が、俺あ萬里小路輝麿てんだと名乘つて居ると同一だ。ホントウにお前なんか其那チャールス、ブランドンてい柄で無いと言つて遣りたい位だ。併し法廷だから默つて傍聽して居る。

「其方の職業は」

「巡査です」

「所屬は」

「桑港市ブッシュ警察署、番號は二十六番」

「年齢は」

で、睨んだつて一向恐ろしくも無い顏付をして居る。彼は今書記から受取つた公訴狀を默讀して、證人臺に居る巡査の訊問に取掛かる。此處一寸談話體で行く。

「其方は神明に誓ひ、僞らず包まず、誇張せず、事實を有りの儘に告白すると云ふことを宣誓するか」

「エス、サア」と、

巡査は手を擧げて神に誓を立てる。淫賣を買つて置いて宣誓も無いもんだ。神に誓ふ處か、神を瀆して居る、呆れ果てた奴。

「其方の姓名は」

「チャールス、ブランドン」

チャールス、ブランドンは振つて居る。好い名だ。芝居にあるクキーン、メーリーの情人にチャールス、ブランドンと呼ぶ武士がある。眉

國の巡査は何處までも、大陸主義を發揮して居ると、案内人から一部始終を聞いた高木辯護士はホト〳〵感心して、「好い土産が出來た」と限り無く喜ぶ。拙者も實は驚いた。淫賣婦を取締る巡査ともあらう者が、法廷へ現れて、恐れながら淫賣を買ひました、そして此女に錢を掏られましたから、何卒此女を罰して下さい。そして金を取復して私に下戻して下さい――てなことは、米國案内記の何の頁にも出て居らぬ。事實聞くが始めてだが、これで免職にならぬとは驚いた。それを判事が平氣な顏して訊問してるんだから尙驚く。

（其の二）

判事は何でもオールドウエルとかショートウオールとか云つて、古井戸か古壁に緣のある苗字で、背廣姿の至つて氣輕い扮裝で、何處に判事の威嚴があるかと思はるゝ位の男だ。年齡は四十五六だらう、無髯

く捜索して、其女を引張つて來て、正式裁判を仰いだのである。

好く聞く事だが、米國では途上賣淫中に、漂客の懷中物を拔取る女が少くはない。別して黑ん坊の醜業婦に多く、之に引掛かるは白人、日本人及び支那人等であるが、敏捷な奴は手早く財布を安全な處へ仕舞つて掛かるし、腕力の强い奴になると、女を叩き伏せて置いて逃げて了ふ。鈍間な奴になると、取られた財布を取返さうとして、女と取組んで居る間に、横合から飛出して來た女の亭主に叩き据ゑられたり、ピストルで脅迫されたりして、散々な目に逢はされる。併し結局は取り得の取られ損で、闇暗の恥を明るみへ持出すのは馬鹿々々しいと泣寢入りになつて了ふ。處が此巡査却々諦めが附かぬ。何うしても其引張りを捕まへて、女は牢へ、金は元の處へ納めにやならぬと、血眼になつて捜索の結果、犯人を擧げて來た。偉い職務に忠實な巡査もあつたものだ。米

は米國の陪審制度が調べたいと言ふ。米國の陪審裁判は却々滑稽なものだが、生憎桑港には此れと云ふ刑事裁判が無い。其處で案内人は「陪審裁判は紐育の方へ行つて、御覽になるが宜しい。併し今日巡査が淫賣を買つて、金を取られた事件の裁判があるが、一つ傍聽されては何うか」と勸める。巡査と淫賣婦との裁判とは却々振つてる。早速傍聽しやうと、高木君は身仕度して裁判所へ行く。拙者も好奇心に驅られて兩人の後から附いて行く。

法廷の中へ入つて見ると、制服を著た一巡査が證人臺に上つて腰を掛けて居ると、刑事被告の席には一人の黑ん坊の女が控へて居る。事件は、其巡査が巡廻中、黑ん坊の女から買淫を勸められて、之に戲れて居る間に、衣嚢の中に入れて置いた十六弗の金を掏取られた。巡査は後で氣が著いたが、女の顏に見覺えがあるので、翌日淫賣婦の巢窟を隅無

ツキー(ウイスキーの名)を二三杯立續けに飲んだ。博士に此態を見せたら、明日と云はず今から此處を去つて呉れと云ふだらう。

＊　＊　＊　＊

思出多きサラトガの春は去り夏も既に半になつた。親友ブローネル君は文筆に親しむべく桑港に去り、ブローレンス嬢は相變らず元氣好く、美聲で歌を唄ひながら、樹間に杏の實を拾つて居る。そして幾何もなく自分もまたブ君の後を追つて桑港へ出ることになつた。

四　巡査と淫賣婦の裁判

（其の一）

法曹界の名士高木益太郎君がフラリと桑港へ遣つて來た。高木君

「アラ、貴君は妾を信心家だと思つて？　妾信心家でも何でも無いわ、誰が基督なんか信ずるもんですか」

聞間違か、但しは戯談か、敬神家迷信家揃ひで、村から酒類を排斥した位のサラトガに、好くもこんな亂暴な婦人があると、眼をぱちくりさせながら嬢の顔を凝視めると、にこ〳〵と笑つて居る。

「伯父さんや伯母さんに何も言つては可けませんよ、未外に面白い附文があつたら飜譯して見せて下さい、訂正して上げますから」と言ひ捨てゝさつさと去つて了ふ。斯う見えても博士の忠僕で、隔日に聖歌の代讀を仰付けられて居る拙者の權威も、嬢の爲に滅茶々々に潰されて了つた。僞善の徒よ爾の名は禍なり、トランクの底に潜める物を出して罪惡を懺悔せよと、口の中で唱へながら手探にトランクの中より祕藏の一瓶を取出して、芳烈な香を嗅ぎながらオールドケンタ

る。一篇綴れば直ぐ後を後をと註文する。或時日本の附文を英語に譯して見せたら、一寸目を通して隱すやうにして、其原稿を胴衣の中へ押込んで了つた。可怪しな眞似をする女だと思つて訊いて見た。

「貴嬢、こんなものを見せたら伯母さんに叱られますよ」

嬢は老夫人の事を伯母さんと呼ぶ。

「イヽエ大丈夫よ、見せはしないから」

「見せなくつても基督教徒がこんなものを讀んでは宜しくありません」

「基督教徒だつて構はないわ」

亂暴な女があればあるものだと、穴の明く程嬢の顏を視る。

「構はん事はありません、貴嬢のやうな信心家がそんな事をしては可けません」

サラトガの百姓衆には到底彼の人の眞價が解りますまい、深く御交際になれば、善く彼の人の美點が解りませう」

「オヤ左樣ですか、そんなに立派な人ですか」と、如何にも感心したやうに言つて、急に何か思ひ出したかの如く、「グッドナイト」と言うて出て行つた。

越えて日曜日の晩、ブローネル君に會つたら、昨日は面白かつた。ローレンス嬢と一緒に途中の酒屋で麥酒を飲んだと言ふ。サラトガは禁酒町で、ブラー博士は酒を飲む人間を惡魔の如く心得る人だのに、ブローネル君偉い事を遣る。此後何をするか知れたものでないと、少少嬢の身の上が心配になつて來た。

嬢は日本の話を聞く事が大好だ。藝者と書生との戀物語が非常に御氣に召す。短篇小說を英語で綴つて見せると、喜んで訂正して呉れ

るのか解らぬから、善く訊いた上でと思案して、

「一向そんな女があるやうに聞きませんが、男前が好いから女に好かれるかも知れません、併し貴嬢に似たレヂーに想はれたらブローネル君もどんなにか喜びませう、一體貴嬢は何故ブローネル君の事を御尋なさるんですか」と

短刀直入に出る。嬢は平氣な顏で、

「村の人達（男の事）はブローネルさんを惡く言ひますが、婦人の間には非常に評判が宜しいんですから、どんな方かと思つて」

不圖ブローネル君が次の土曜に嬢と馬車に乘つてサンノゼへ行く約束をしたと言つた事を思出した。明日は土曜日だから其れで急にあんな事を訊くんだなと氣が著いた。斯る折には賞めるに如かずと、

「彼は立派な人です、學者で常識があつて同情の深い男です。併し

嬢は活潑な挑撥的な女である。打見た處は二十一二に見えるが、實際の年齢は十八年と八箇月だと云ふ。ピユリタンの血を承た新英蘭州の產であるだけに何處となく加州產の輕佻女とは異ふ。力のある聲で發音の訂正をして呉れるので、力を得て一生懸命に勉强する。後には定めの時間では足りなくなり、暇さへあれば互に往來し談話を交換する。或夜晚餐の後嬢は予が室へ遣て來て妙な事を訊く。

「ブローネルさんは獨身ですか」

「左樣です獨身です、何もありません」

「外に許諾した女はありませんか」

ブローネルの幸福者奴、あいつフローレンス嬢に想はれて居るな畜生、聊か嫉妬るぞ、ヨシ一ッ批點を著けて遣らう。お嬢さん彼奴は大酒呑みですよと口許まで出掛つたが、待て暫し、何ういふ心底で訊いて居

週間位經た時には平氣になつて來た。牛の乳も能く搾れる、馬の手入では一方ならずフラー博士を喜ばせる。其勸賞にや老博士は頻りに熱心に英語を敎へて呉れた。

フラー夫婦に一人の養女がある。東部メイン州の産でフローレンスと呼び、芳紀二九の美人、之が助手となつて勞働の手傳もすれば、英語の助敎をも遣る。晩餐後動もすればこくり〳〵と坐睡を遣る老敎師よりは、活潑な若先生の方が有難い。時間をたつぷり註文して熱心に敎を受けたので進歩が早い。後には老敎師は自然淘汰を受けて若先生の獨占になつた。

三　フローレンス孃

たのだと云ふ。

フラー博士は「一人の學僕が欲しい、特に日本人が好きだ」と云ふ。其處でブローネル君は予に勸めて、此家の學僕になれと言ふ。其條件は家族の待遇を受けて三食を共にする事、食後一時間宛會話を練習する事、夜は作文の訂正を受くる事、食料は一文も拂はぬ代りに月給は一文も受けぬ事、仕事は牛一頭、馬一匹の手入をして果園の見廻りをする事、但し勞働時間は一日三時間を限る事、之で條件が折合へば明日からでも御出なさいと云ふ。善は急げと其日の夕刻に桑港へ引取つて、其翌日トランク一箇を携帶してフラー博士の家に引還して來た。

サラトガ山上の一軒屋、母家から離れた三間四方位の離れ家を居室と定めて下僕の仕事をする。勞働は神聖で上下の隔ての無い米國だから、誰に氣兼も無く安々と働く。慣れぬ仕事で始めは辛かつたが、一

二　老博士の家

道に沿うて行くこと一哩許り、サンタクララの平野を望む小高き丘の上に在る一軒屋に著く。木造の二階家で恰好よく出來て居る。ブローネル君の案内に伴れて、一人の老婆が戸口に現はれる。ブ君は私の友人を紹介しに來た」と言へば、老婦人は急いで吾々を中に案内する。見晴好き一間で一方の壁は本で一杯になつて居る、如何にも學者の家らしい。老婦人に紹介が濟んでから間も無く、仙骨を帶びた白髪の老紳士が出て來る。之が此家の主人でフラーと呼ぶ人、曾て土耳其のアインタップ大學總長をして居た事があると云ふ非常な敬神家で、晩年を此溫暖な風光明媚な加州で送りたいと云ふので、六千弗を出して此邸宅と二十英町のプルム（杏）の果園を買取つて、サラトガの村翁になつ

烏森邊を浮れて歩いたり、吉原へ行つて流連をした遊冶郎、うつかりした事を言へば、貴君其れは間違つて居ますと、あべこべに訂正せらるゝ方だ。

午飯を終へてから一緒に伴立て道に沿うて丘の上に行く。途中に尼寺があつて五六人の尼僧が庭を散歩して居る。ブ君は之を眺めて、

「キャリフォルニアは女少い、シスター（尼僧の事）になつては男困るですな、あれは馬鹿だ、大方小野の小町でせう」と、

通人だけに巧い事を言ふ。「眞逆不具者でもあるまいに、相當に美貌を持つて居ながら、世捨人になるとは狹い了簡だ」と言へば、ブ君は「寧そ咽喉を切つた方が宜い」と言ひながら、右の人差指で自殺をする眞似をする。

先に立つて小屋の中に入る、室は一間切り、寢臺とテーブルに書棚が一箇宛、室内は亂暴狼藉を極めて居る。ブローネル君はそんな事には頓著なく素裸になつて著物を著換へて、「さあ飯を喫べに行きませう」と、先に立つて案内をする。門を出て四五町許り、サラトガの小さな町に來て、グローヴインといふ小さな宿屋へ入る。ブローネル君の顏が見えると、五十五六の中老人が出て來る、四十七八の主婦らしい女が現はれる。十一二を頭に三四人の子供が前後左右から現はれてブローネル君に抱著く。サラトガ村のリップ、ヴアン、ヴインクルと云つたやうな體だ。ブ君は一同に予を引合せて後、

「此家の主人の名はキネヤと云ひます、それ東京の芝居に出る杵屋と一緒の名です」と、

ブローネル君益〻隅に置けない事を言ふ。十四五年前に和服を著て

サンノゼから電車に乘て三十分、サンタクララ郡のサラトガへ著く。停車場で道を訊いて三町程左へ行くと、左側に柏の木が立籠めた小さな森があつて、其奥の方に小さな小屋が立つて居る。門を開けて中へ入ると、四十許りの雲突く許りの大男が箒を持て落葉を掃いて居る。之がブローネル君だらうと思つて傍へ寄ると、大男儼然と身構をして此方を凝視める。一寸會釋して、

「貴君はブローネル君ですか」

英語を以て話しかけると、流暢な日本語で、

「左樣です、私ブローネルです、成程レター、オブ、イントロダクション（紹介狀の事）ですネ、一寸拜見しませう」

紹介狀を手に取上げ開封してスラ〳〵と讀んで、

「宜しい貴君の友達になる、マア此處へお入りなさい」

ヤンキー（赤裸の米國）

森田小六郎著

一　ブローネル君

紹介狀を當にして桑港へ來た。扨て之を懷中にして巡訪つて見ると驚いた。書いて呉れた人の親切と、貰つて行つた者の心配も、一向先方には通ぜず、餘計な者が舞込んで來たと云はんばかりに、體好く謝絶られて、冷たい握手で追拂はれたが、タッタ一人溫情を籠めて迎へて呉れた男があつた。

＊

＊

＊

＊

ヤンキー目次

終

四七 車中の喜劇……二八五
四八 何を見ても沿岸第一……二九二
四九 活動寫眞……二九九
五〇 ホールドアップ……三一一
五一 珍無類の强盜裁判……三一九
五二 六年の夢……三二四
五三 破天荒の密入國……三二九
五四 鑛山脫走……三三四
五五 移民官の追躡……三三九
五六 安著……三四三
五七 密入國者の捕縛……三四六
五八 支那人の女裝……三五二

ヤンキー

三五 老人の忠告……二〇九
三六 此一發は貴郎の足許へ……二一五
三七 惡人の棲家……二二四
三八 欺されたが悔しい……二四〇
三九 安値な敎授殿……二四四
四〇 親日黨の凋落……二四八
四一 リンチ……二五二
四二 お前は米國を知らぬ……二六〇
四三 キユー、クラックス、クラン(懲惡的祕密結社)……二六四
四四 希望の手紙と絶望の手紙……二七三
四五 醜業婦の足跡……二七六
四六 猶太人の新夫婦……二八一

二三 ライオンハウス……一三八
二四 怪傑ハリマン……一四二
二五 老醫師の家……一四五
二六 日米討論會……一四八
二七 ミルドレッド孃……一五二
二八 米國婦人……一六四
二九 家庭の內外……一六八
三〇 米國富豪の家庭……一七八
三一 婦人の敎育……一八四
三二 男女の交際……一九二
三三 金婚と爵婚……一九八
三四 情婦でも出來たか……二〇四

ヤンキー

一一　米人の心掛……五七
一二　自働車心中……六四
一三　米國の穢多村……七三
一四　黑白選手命懸けの勝負……七六
一五　カウボーイの生活……九一
一六　給金の只取……九五
一七　ハロー、伯爵！……九九
一八　日本男子の意氣……一〇二
一九　米人の武士道……一〇九
二〇　巡査の腐敗……一一四
二一　モルモン宗（ジョセフ、スミス）……一二一
二二　ブリガム、ヤング（五十七子の親）……一三二

ヤンキー目次

一　ブローネル君……一
二　老博士の家……五
三　フローレンス嬢……七
四　巡査と淫賣婦の裁判……一三
五　デニス、カーネー……二四
六　日韓人排斥同盟會（後に亞細亞人排斥協會）……三〇
七　實業家と政黨……三四
八　米國のボス……四〇
九　色仕掛で生馬の眼を拔く奴……四四
一〇　櫻面都……五四

懲惡的秘密結社員の騎馬出顯　（第二百六十四頁參照）

米國高原カウボーイの生活

（第九十一頁參照）

自働車心中 （第六十四頁參照）

生馬の眼を抜く（第四十四頁參照）

人に振舞ふ横著者で、歐洲人の到底眞似の出來ない、飛離れたことを遣つてのける偉大なる人種であると、感心したり呆れたりした事實を書綴つたのが本書である。之を讀んで批判して吳れる人は、獨り著者のみに對して深切な人ではあるまいと思ふ。

大正二年の暮

芝浦客舍にて

昭水生

序

一度行つて見ない者は馬鹿、二度行つて見ない者もまた馬鹿とは、米國のことであらう。其處へは紳士も行く、商人も行く、百姓も行く、書生も行く、曾ては勞働者も大勢行つた。自分もまた其の仲間入をして、二度まで渡航して行つた。前後六年、長い月日を費して、數多の米人に接觸して見ると、扨て日本で想像して居たより、尙以上に面白いのは彼等ヤンキーの遺口である。實際米人は、いかにも無邪氣な、可愛い所があるが、同時に、大膽無鐵砲に、亂暴の有りつたけを仕盡して、傍若無

ヤンキー

一名赤裸の米國